

(令和2年7月～8月実施)

第47回

市民アンケート調査報告書

———— あなたと市政を結ぶ ————



目次

I 調査概要

1	調査目的	5
2	調査内容	5
3	調査の設計	5
4	回収結果	5
5	報告書内のデータ記述について	6
6	回答者の属性	7

II 調査結果

1	あなたご存じですか？	10
2	SDGsの達成に向けて	
2-1	SDGsの認知度	18
2-2	再生可能エネルギーについて	20
2-3	FSC森林認証について	30
2-4	多文化共生について	36
2-5	ユニバーサルデザイン・男女共同参画について	46
2-6	文化振興について	52
2-7	スポーツの推進について	58
2-8	ブラジルホストタウンの取り組みについて	64
2-9	人権について	70
2-10	生物多様性について	76
2-11	消費生活について	82
2-12	防災対策について	88
2-13	デジタル・ファースト宣言について	94
3	浜松市戦略計画2020について	106

付録 調査票

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、昭和 45 年度から始まり、本年度で 47 回目※になる。社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心やニーズなどを把握するため、毎年各部署から提出された希望調査項目を精査した後、調査項目を決定し、属性などにより集計した調査結果を詳細に分析し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用しているものである。

※昭和 45 年度 1 回目、48 年度 2 回目、50 年度 3 回目、52 年度 4 回目（以降毎年実施）

2 調査内容

- (1) あなたはご存じですか？
- (2) SDGs の達成に向けて
 - (2-1) SDGs の認知度
 - (2-2) 再生可能エネルギーについて
 - (2-3) FSC 森林認証について
 - (2-4) 多文化共生について
 - (2-5) ユニバーサルデザイン・男女共同参画について
 - (2-6) 文化振興について
 - (2-7) スポーツの推進について
 - (2-8) ブラジルホストタウンの取り組みについて
 - (2-9) 人権について
 - (2-10) 生物多様性について
 - (2-11) 消費生活について
 - (2-12) 防災対策について
 - (2-13) デジタル・ファースト宣言について
- (3) 浜松市戦略計画 2020 について

3 調査の設計

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満 18 歳以上の男女 3,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送法
- (5) 調査期間 令和 2 年 7 月 30 日～8 月 31 日
- (6) 調査機関 一般財団法人 しんきん経済研究所

4 回収結果

発送数	3,000 人
有効回収数	1,537 人
有効回収率	51.2%

5 報告書内のデータ記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。
- (5) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (6) 本調査は標本調査であり、母集団（浜松市内に住む満18歳以上の男女）との間に誤差（標本誤差）がある。標本誤差は、信頼度を95%と設定した場合、下記の計算式で算出できる。信頼度95%とは100回同じ調査を行えば、95回はその誤差の範囲内に収まるということの意味する。一般的に国などの公的機関が行うアンケート調査では95%の信頼度を用いることが多い。

標本誤差の計算式

$$\pm 1.96 \times \sqrt{\frac{\text{母集団数} - \text{回答者数}}{\text{母集団数} - 1} \times \frac{\text{回答割合}(\%) \times (100 - \text{回答割合}(\%))}{\text{回答者数}}}$$

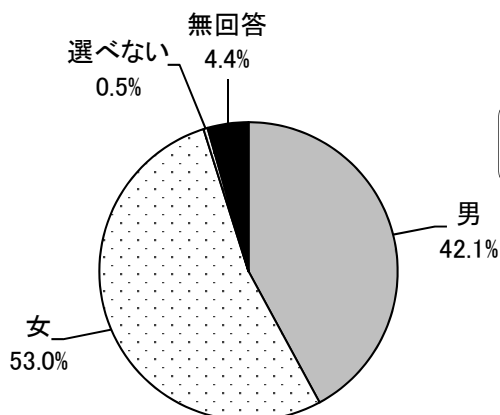
※母集団数は、住民基本台帳による満18歳以上の浜松市の人口674,328人（令和2年7月1日現在）

回答者数は、図表中に「N」として記載

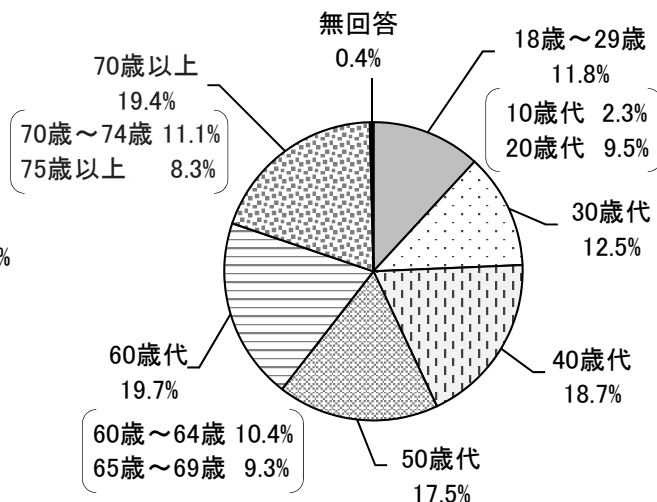
6 回答者の属性

N=1,537

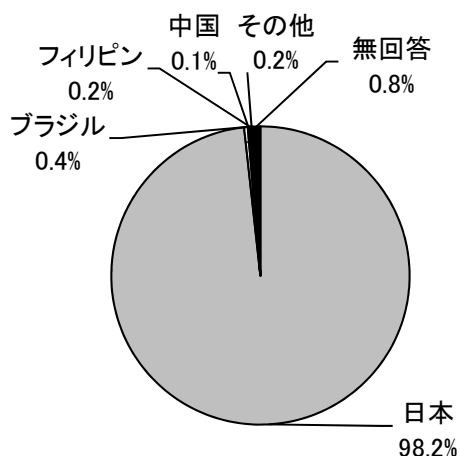
(1) 性別



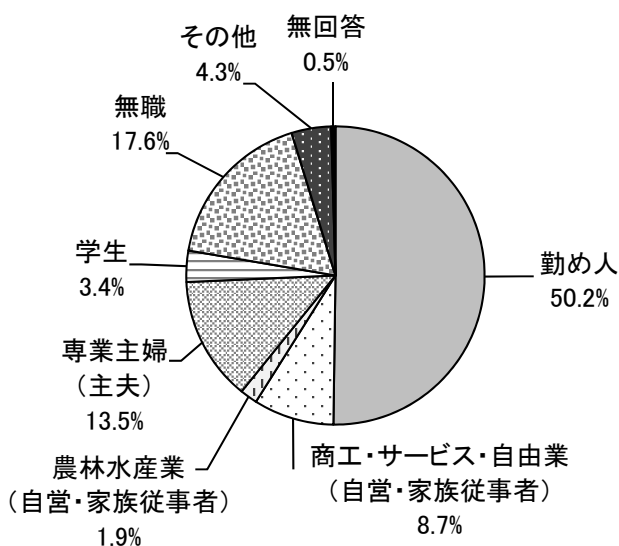
(2) 年齢



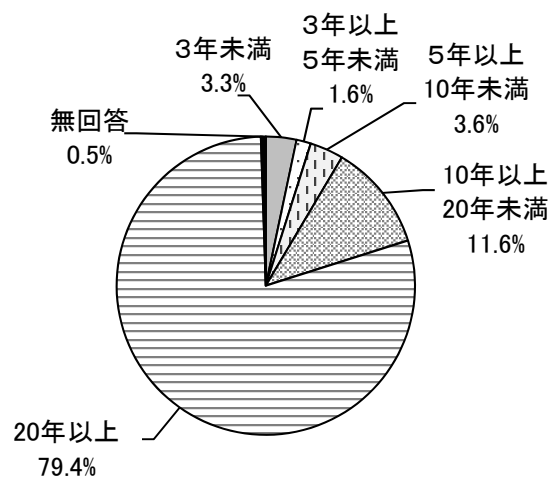
(3) 国籍



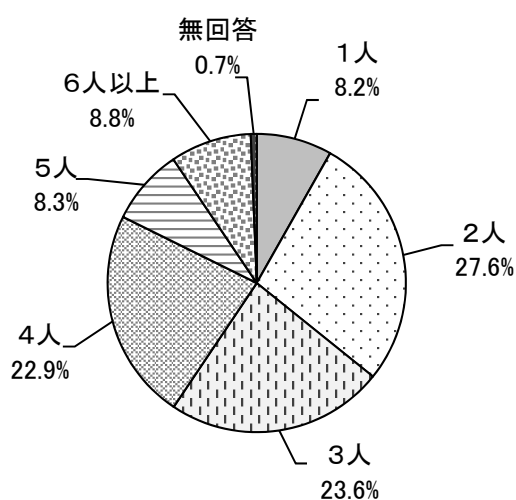
(4) 職業



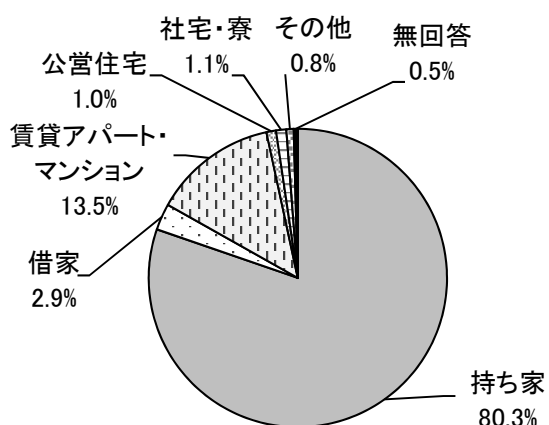
(5) 居住年数



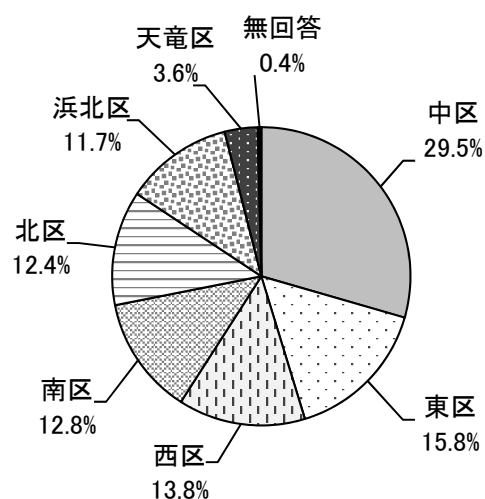
(6) 家族数



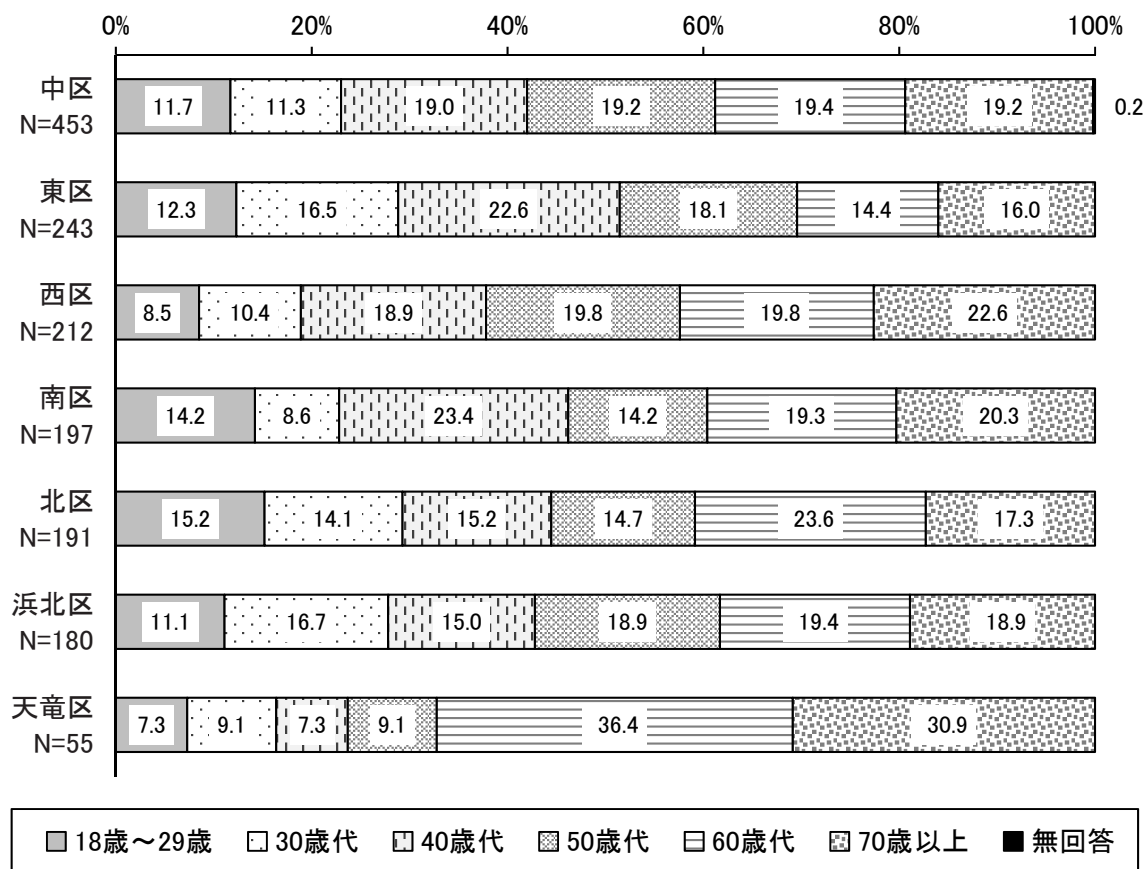
(7) 居住形態



(8) 行政区



(9) 行政区別年代



II 調査結果

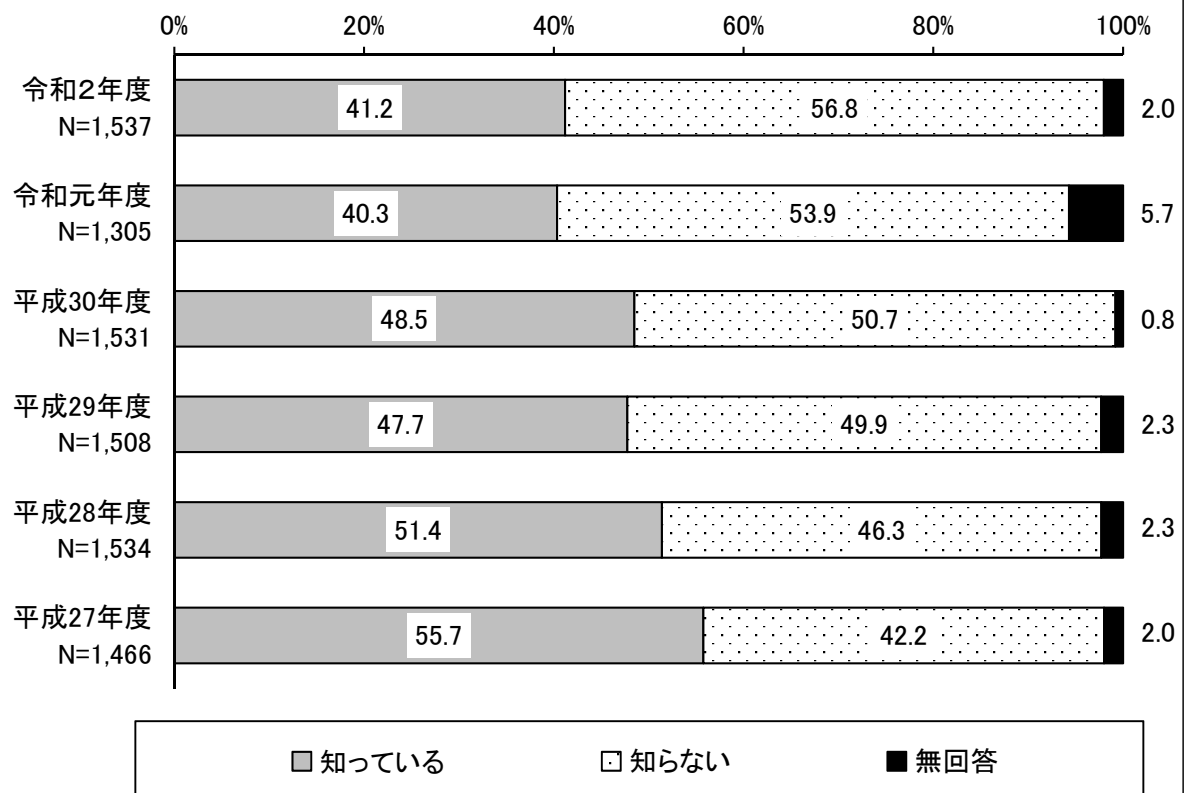
1 あなたはご存じですか？

問1 次の項目について、あなたはご存じですか。1つ選んで○を付けてください。

① 市制記念日

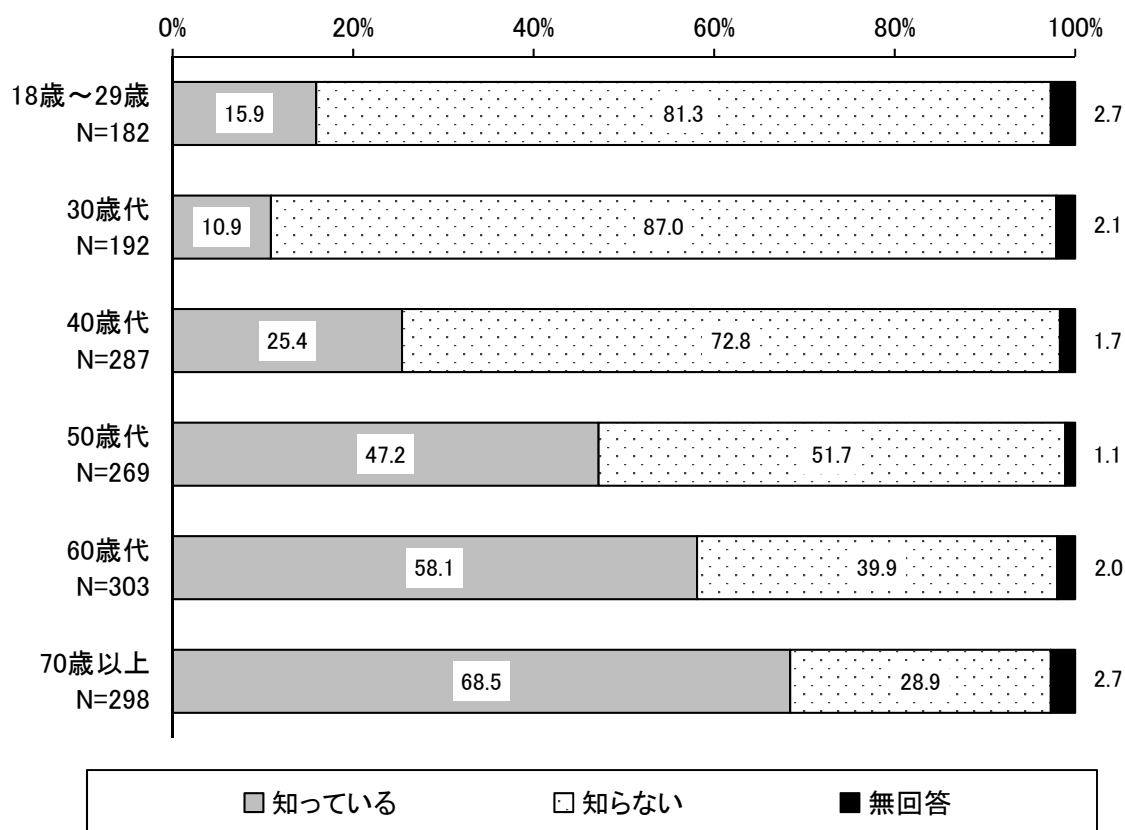
※ 浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。

「市制記念日」を「知っている」人は41.2%

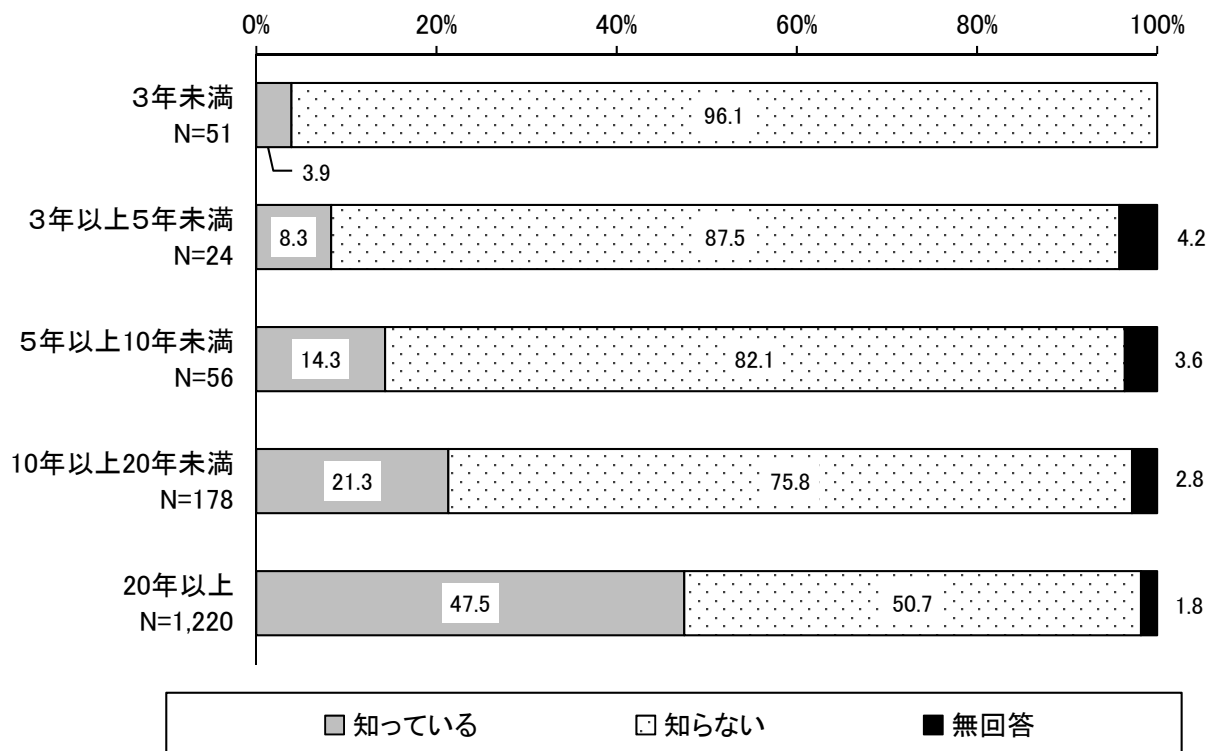


- 「知っている」が41.2%となり、「知らない」の56.8%を15.6ポイント下回る結果となった。令和元年度との比較では、「知っている」が0.9ポイント増加したが、平成27年度から平成30年度にかけての調査と比べると、「知っている」は減少傾向にあるといえる。
- 年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、70歳以上の68.5%が最も高く、60歳代が58.1%と次いで高い。総じて年齢が高いほど「知っている」割合が高く、若い世代の認知度はきわめて低い。
- 居住年数別で見ると、「知っている」回答割合は「20年以上」の47.5%が最も高く、次いで「10年以上20年未満」の21.3%となった。居住年数が高いほど「知っている」割合が高い。
- 若い世代を主として市民全体の認知度を向上させていくことが必要である。そのためには、学校教育などでふるさとについて学ぶ機会を増やし、子供たちの地域への愛着や市政についての関心を深めることや、さまざまな年代や地域に向けた広報媒体の検討や市制記念式の魅力向上などが不可欠である。

【年代別】



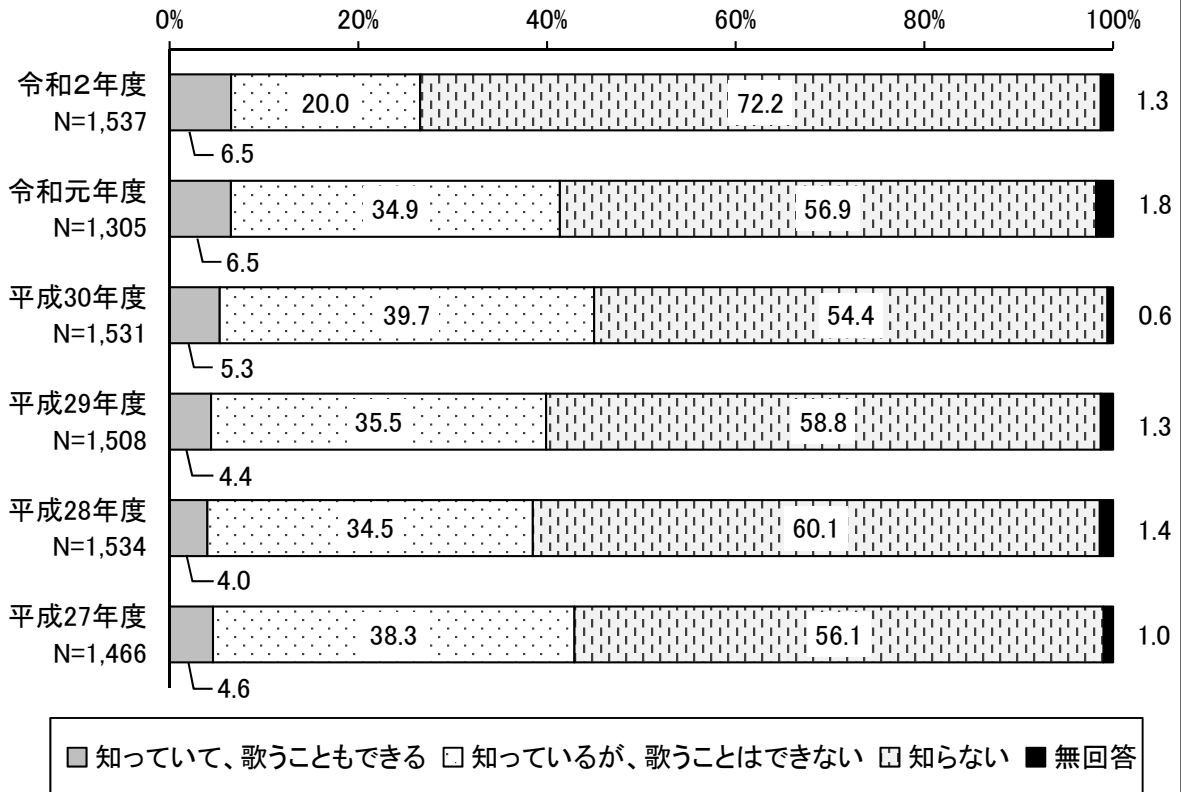
【居住年数】



② 浜松市歌

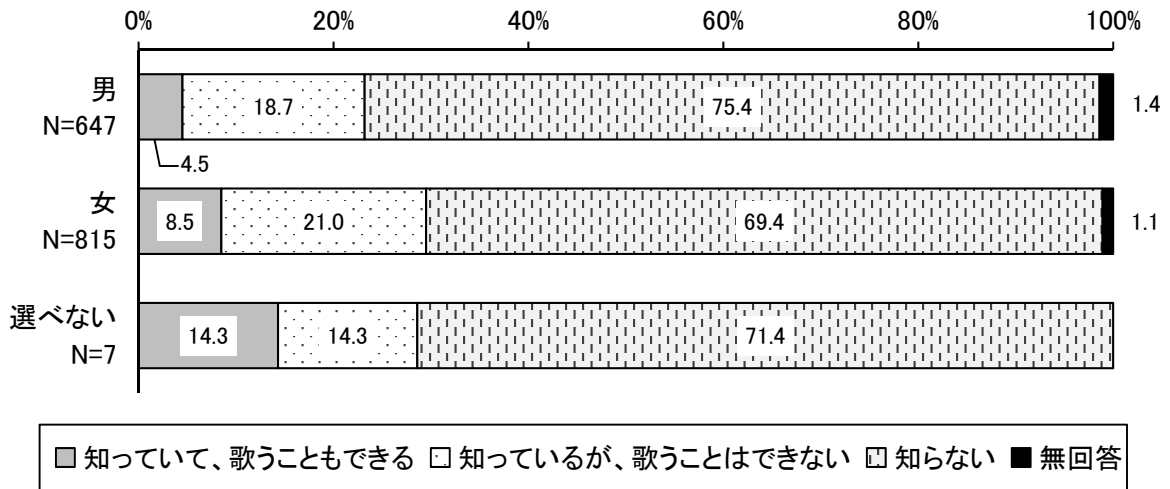
※ 浜松市では、平成19年、新たに浜松市歌を制定しました。市歌について伺います。

「浜松市歌」を『知っている』人は26.5%

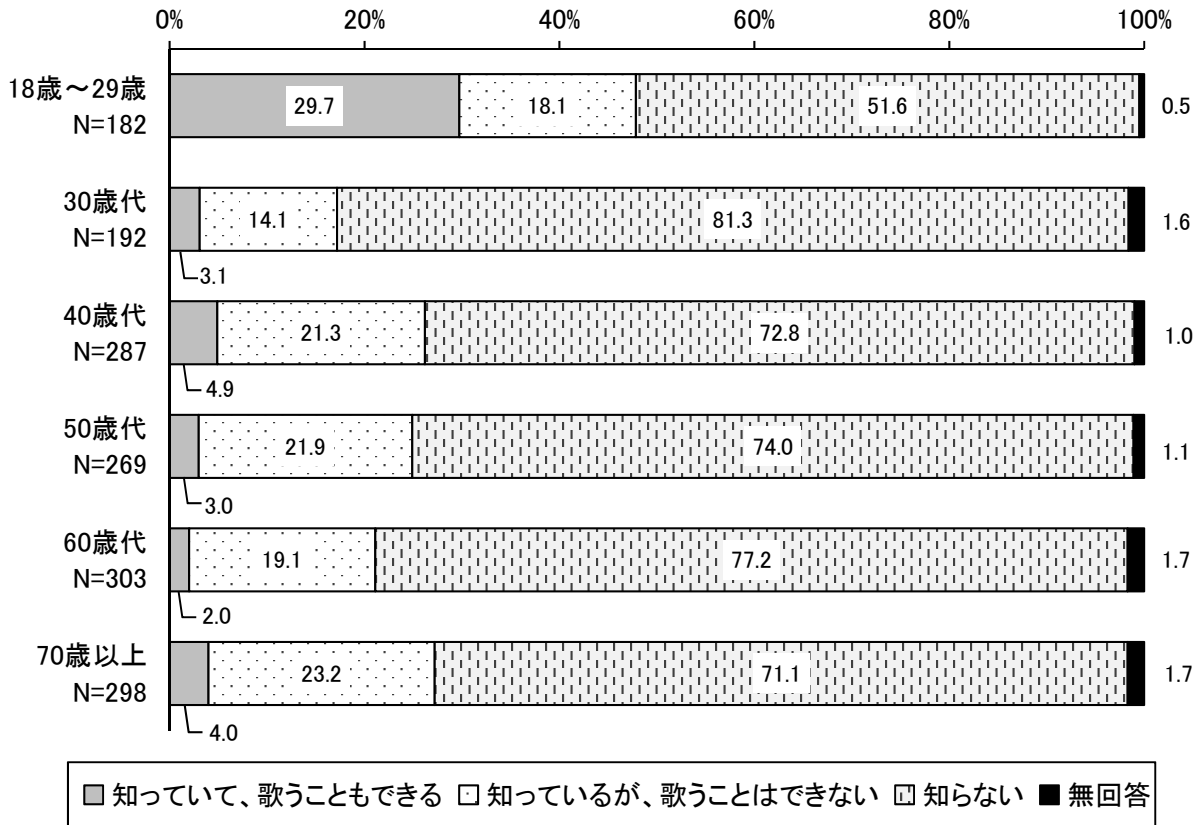


- 「市歌があることを知っていて、歌うこともできる」は6.5%となった。令和元年度と同じ回答割合であった。
- 「市歌があることを知っていて、歌うこともできる」と「市歌があることは知っているが、歌うことはできない」を合わせた『市歌を知っている』は26.5%となった。令和元年度と比較すると14.9ポイント下回った。近年と比べて低調な要因は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、児童・生徒やその家族への普及の場となっている学校が休校になった影響もあったと推察される。
- 性別でみると、『市歌を知っている』と回答した割合は、男性が23.2%、女性が29.5%、選べないが28.6%となった。男女別では女性の方が6.3ポイント高い。
- 年代別でみると、「市歌があることを知っていて、歌うこともできる」回答割合は、18歳～29歳が29.7%と最も高いが、他の年代については1割にも満たない。
- 学校生活を通じて親の世代や祖父母にも市歌の周知を図るとともに、SNSの活用や、市の施設や行事などで市歌を流すなど、耳にする機会を増やしていくことも必要である。

【性別】



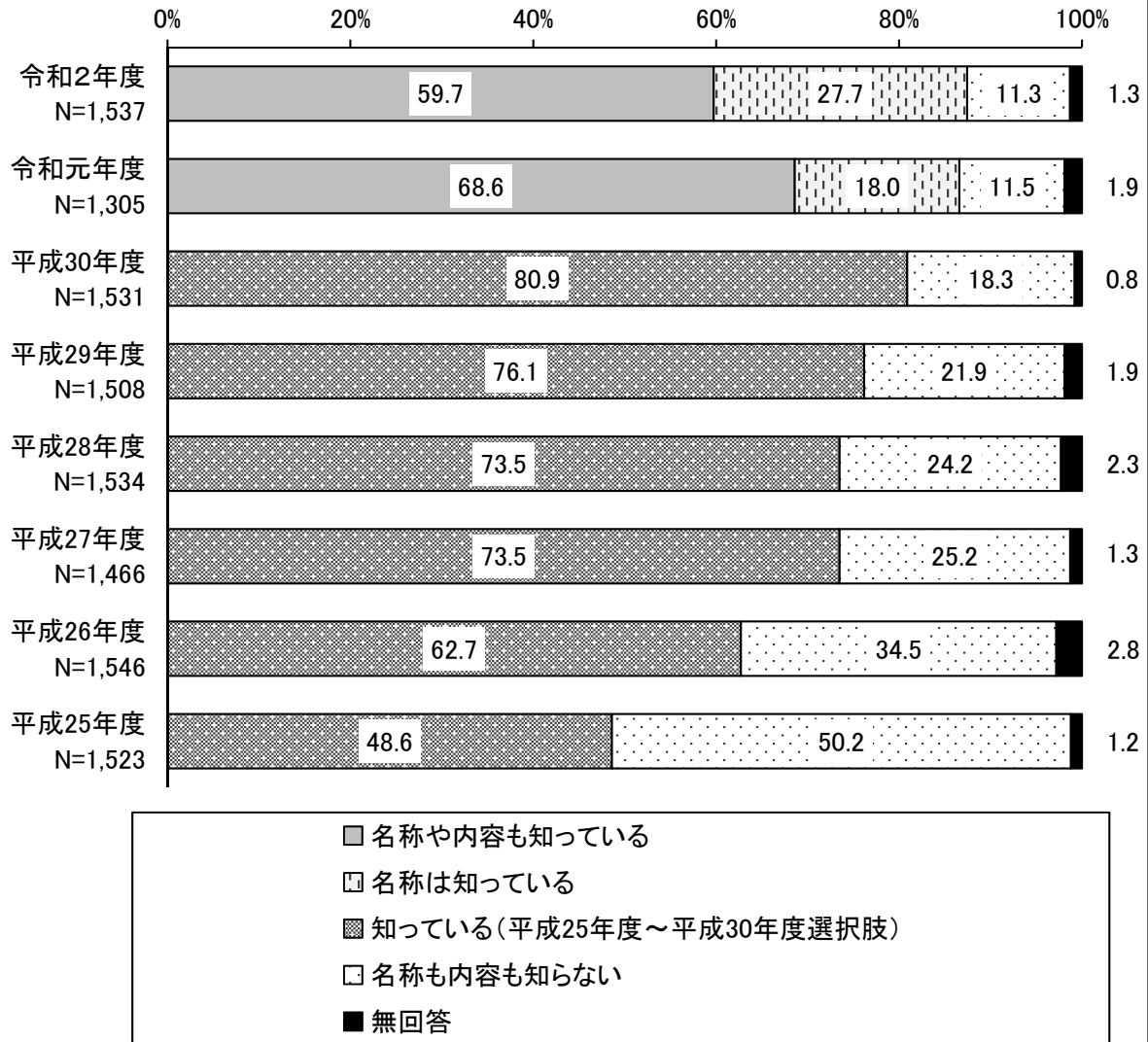
【年代別】



③ 協働センター

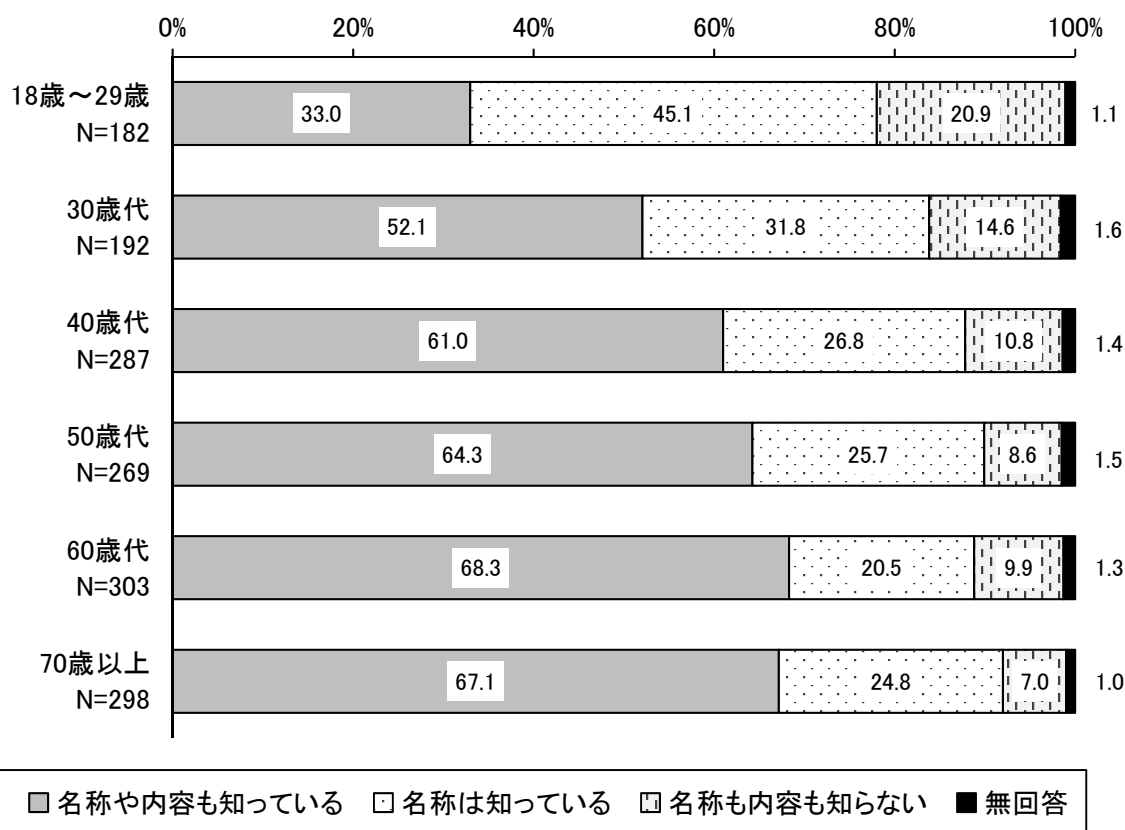
- ※ 平成 24 年 4 月から地域自治センターが、平成 25 年 4 月から公民館が、それぞれ「協働センター」となりました。
- ※ 協働センターは、市民に身近な行政サービス提供組織として、地域づくりや生涯学習、窓口サービスなどの業務を行っています。

「協働センター」の『認知度』は 87.4%

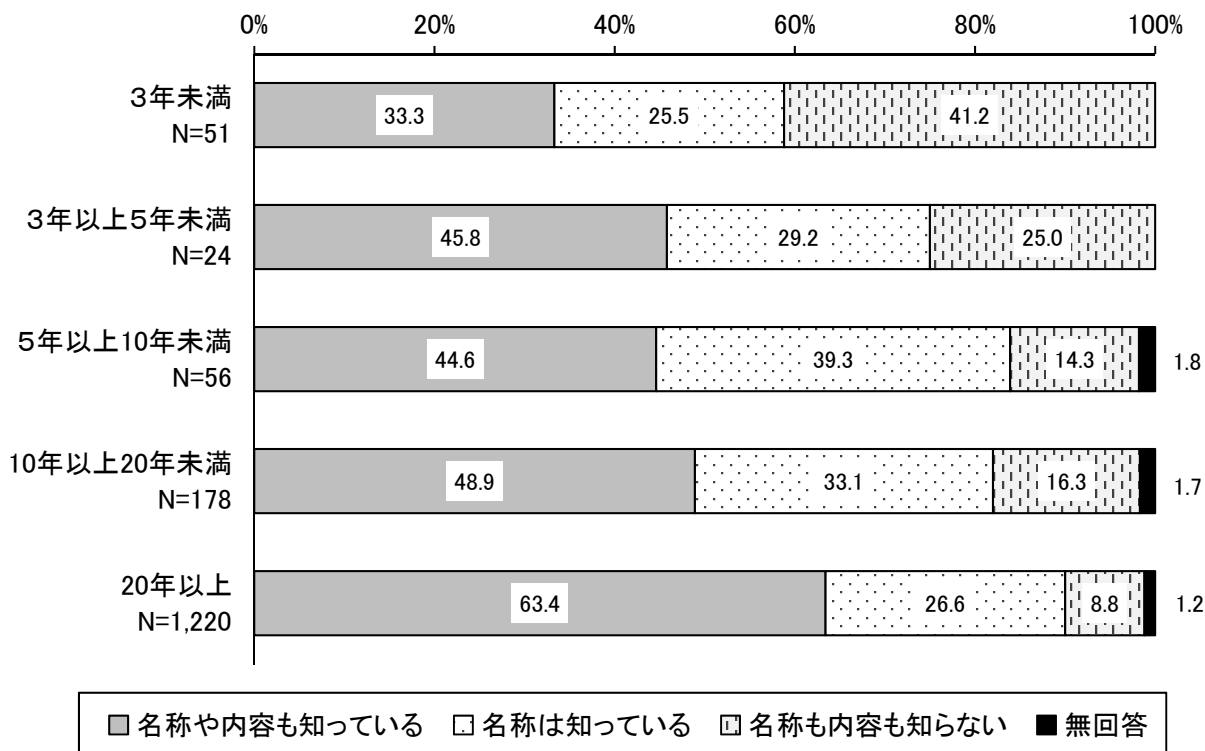


- 「名称や内容も知っている」と「名称は知っている」を合わせた『認知度』は 87.4%となった。令和元年度との比較では、『認知度』は 0.8 ポイント上回った。
- 年代別でみると、「名称や内容も知っている」回答割合は 60 歳代の 68.3%が最も高く、次いで 70 歳以上の 67.1%となった。70 歳以上を除き、年代が高くなるほど「名称や内容も知っている」割合が高い。
- 居住年数別では、「名称や内容も知っている」回答割合は 20 年以上の 63.4%が最も高く、3 年未満が 33.3%と最も低い。

【年代別】



【居住年数別】

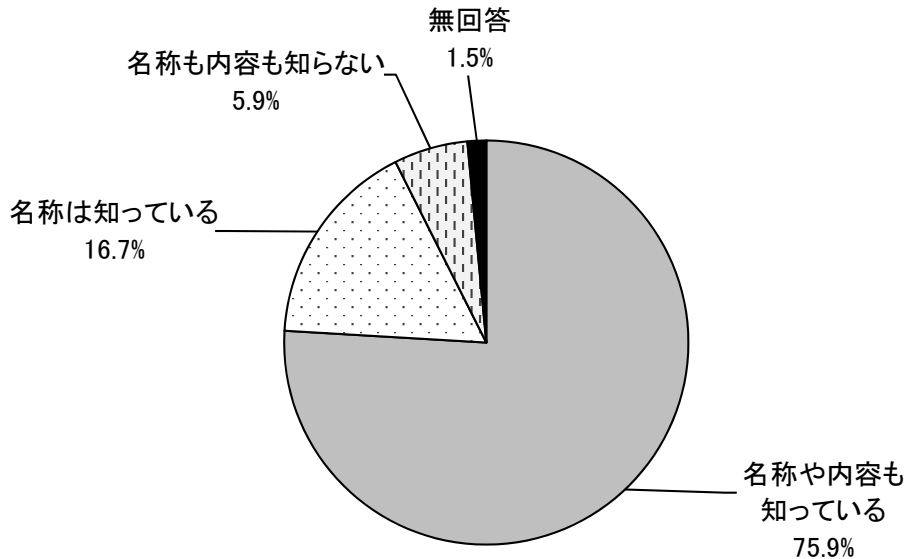


④ 新しい生活様式

※新型コロナウイルスの基本的な感染対策として、身体的距離の確保やマスクの着用、手洗いなどの新しい生活様式の実践例が示されています。

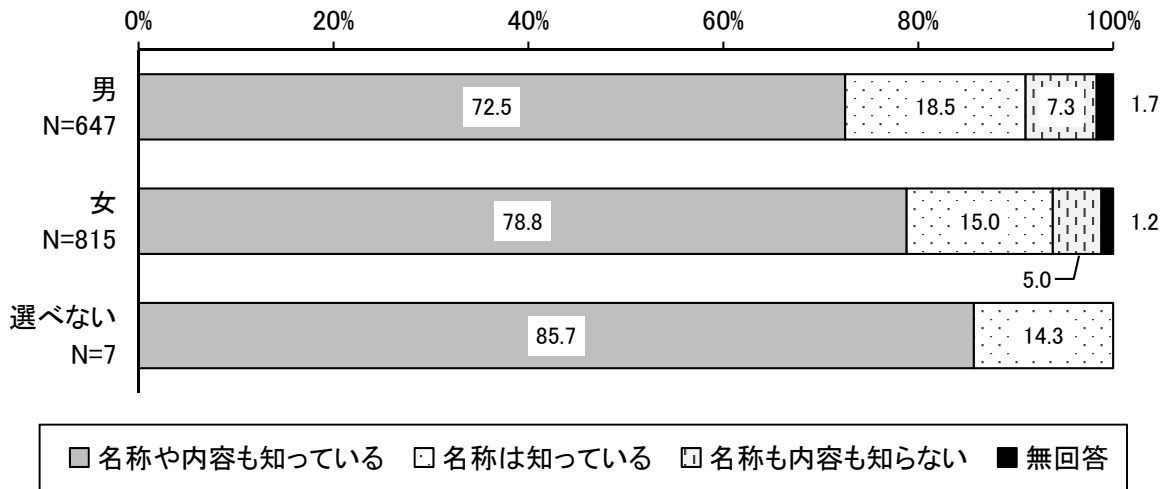
「新しい生活様式」の『認知度』は 92.6%

N=1,537

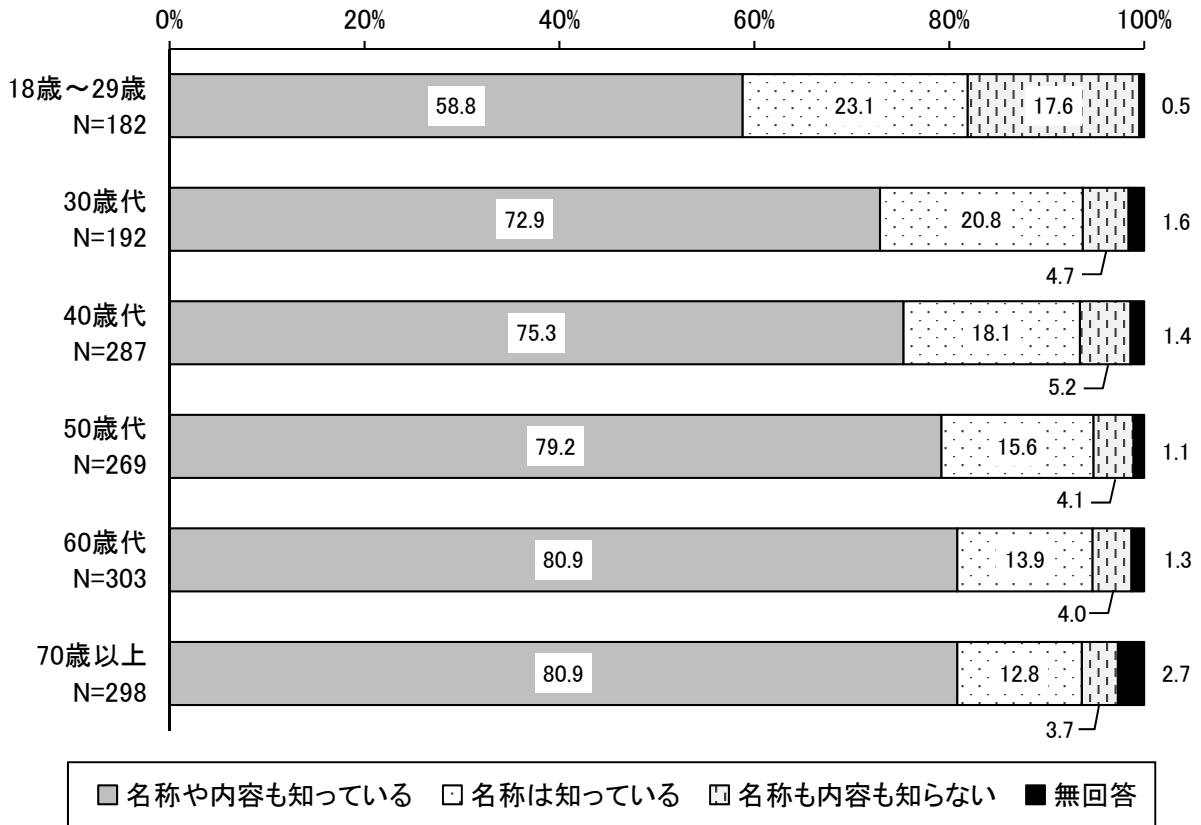


- 「名称や内容も知っている」と「名称は知っている」を合わせた『認知度』は 92.6%となり、「名称も内容も知らない」の 5.9%を大きく上回った。
- 性別でみると、「名称や内容も知っている」と回答した割合は、男性が 72.5%、女性が 78.8%、選べないが 85.7%となった。男女別では女性の方が 6.3 ポイント高い。
- 年代別でみると、「名称や内容も知っている」の回答割合は、60 歳代と 70 歳以上の 80.9%が最も高く、次いで 50 歳代の 79.2%となった。総じて年代が高くなるほど回答割合が高い。
- 感染対策として、一人一人が身体的距離をとり接触を減らすこと、マスクの着用や手洗いなどにより、感染症の拡大防止に努めるなど、新たな生活様式を実践するとともに、周知を図っていく必要がある。

【性別】



【年代別】

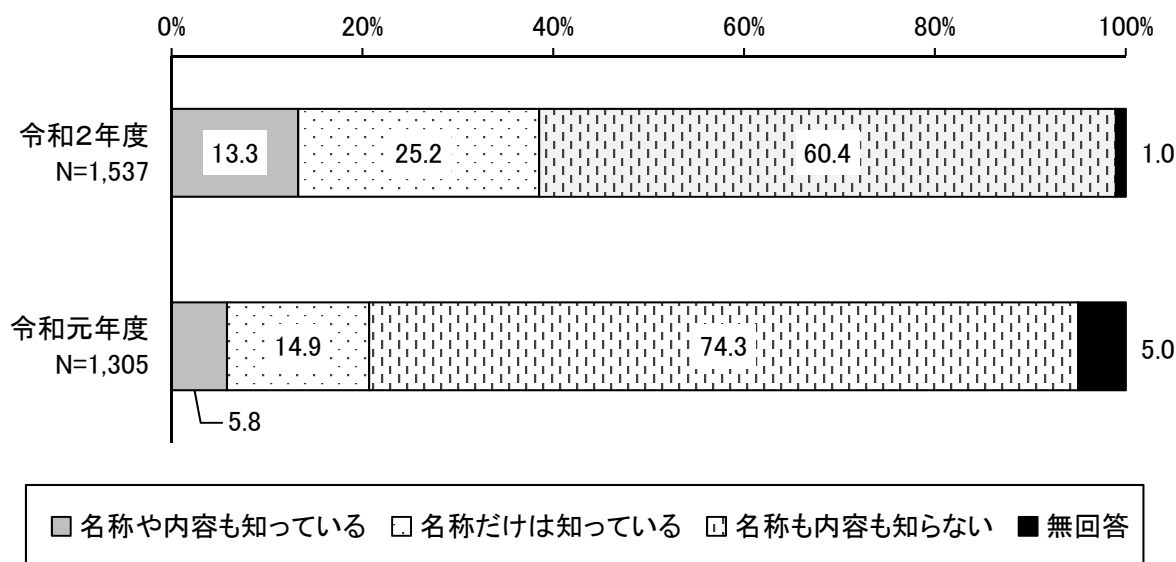


2 SDGsの達成に向けて

2-1 SDGsの認知度

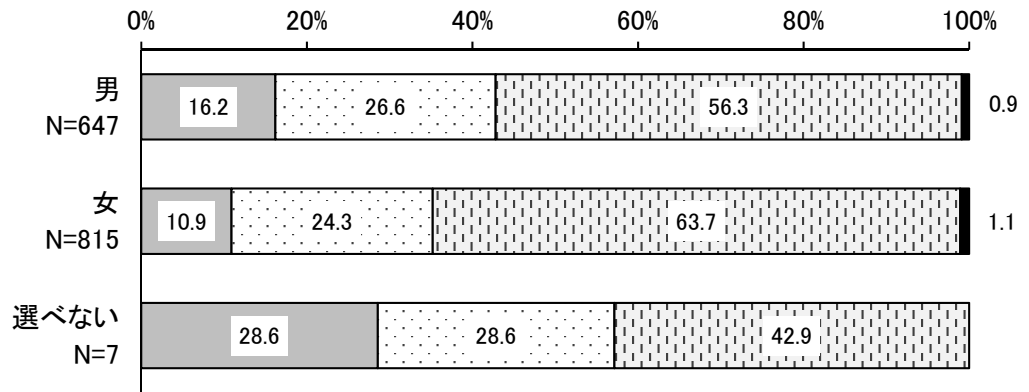
問2 あなたは「SDGs」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

「SDGs」の『認知度』は38.5%



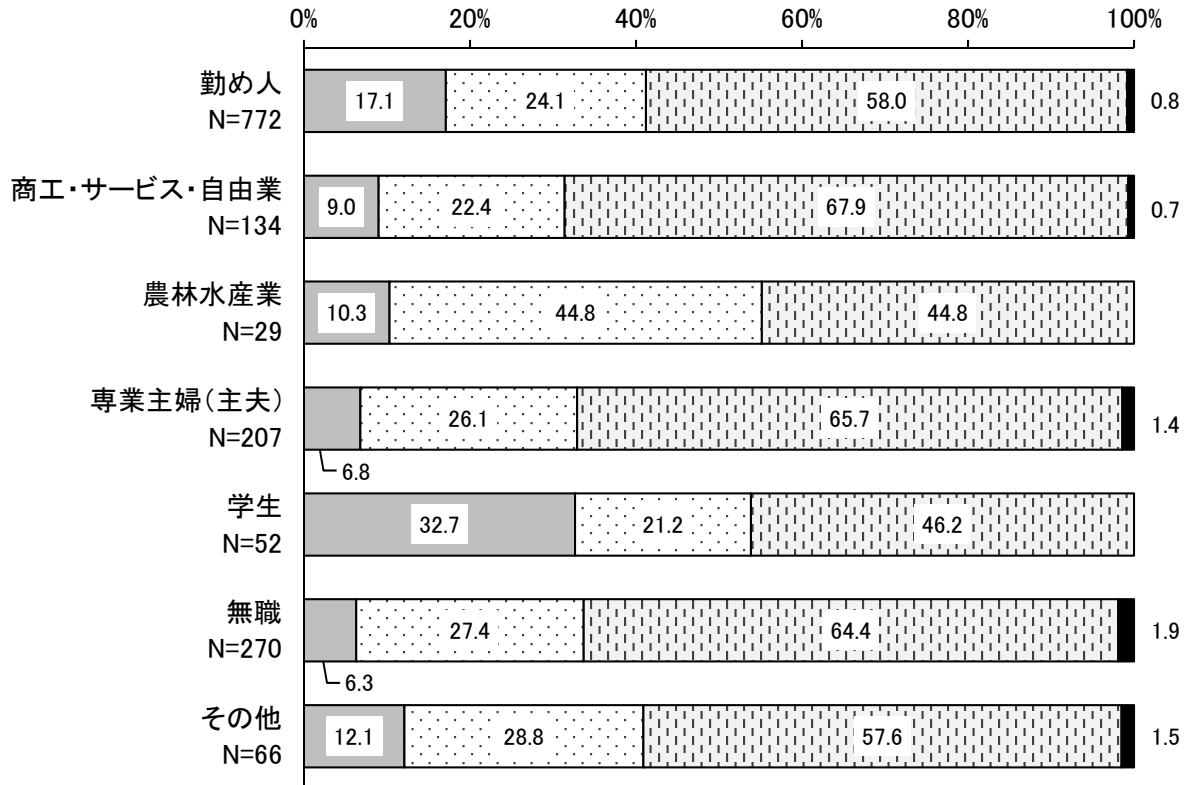
- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は38.5%となり、令和元年度調査と比べて17.8ポイントの増加となった。「SDGs」の理解度である「名称や内容も知っている」は13.3%となり、令和元年度調査と比べて7.5ポイントの増加となった。1年の間に企業活動や市の取組などを通じて、周知が進んだことがうかがえる。
- 性別でみると、『認知度』の回答割合は男性が42.8%、女性が35.2%、選べないが57.2%となった。男女別では男性の方が7.6ポイント高い。
- 職業別でみると、『認知度』の回答割合は農林水産業が55.1%と最も高く、次いで学生の53.9%となった。勤め人も41.2%と3番目に高い回答割合であることから、事業や企業活動、学校生活を通じて、周知が進んだものと考えられる。

【性別】



■ 名称や内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 名称も内容も知らない ■ 無回答

【職業別】



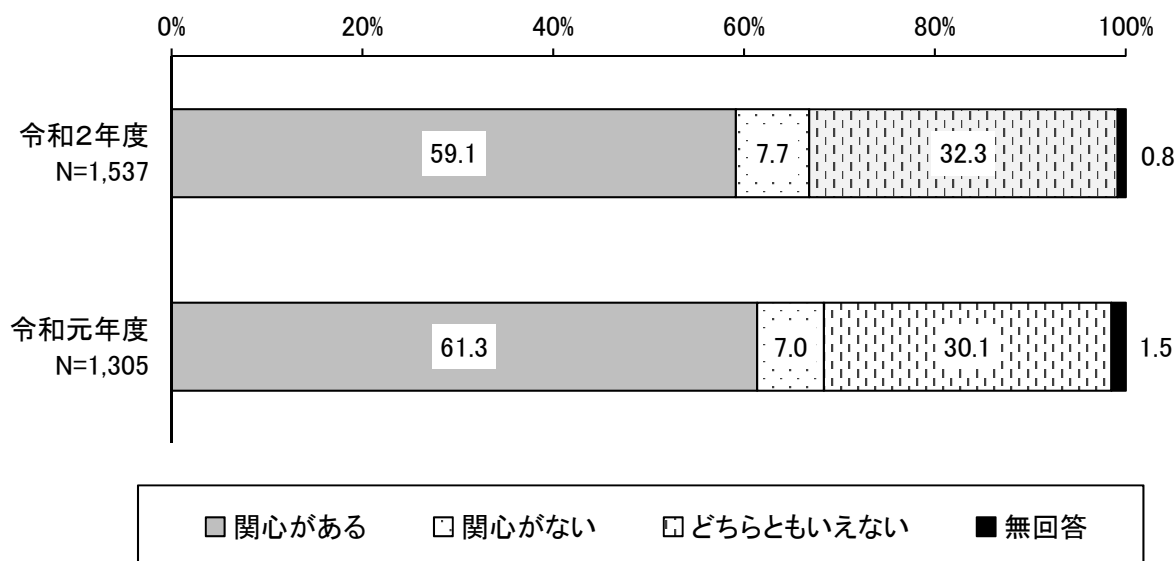
■ 名称や内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 名称も内容も知らない ■ 無回答

2-2 再生可能エネルギーについて

問3 あなたは「再生可能エネルギー※」について関心がありますか。(1つだけ○を付けてください)

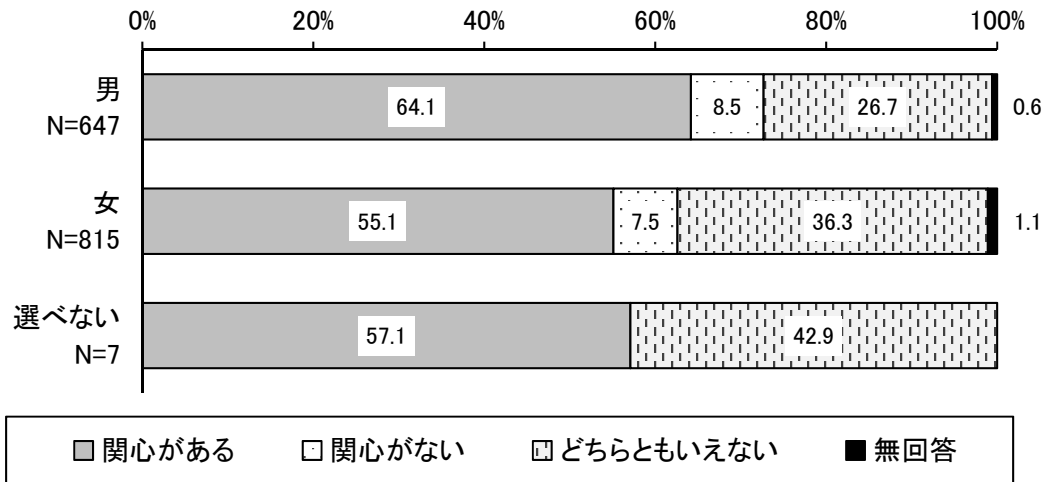
※ 再生可能エネルギーとは、石油などの化石エネルギーではなく、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスなど非化石エネルギー由来のエネルギーのことです。

「再生可能エネルギー」について関心ある人は59.1%

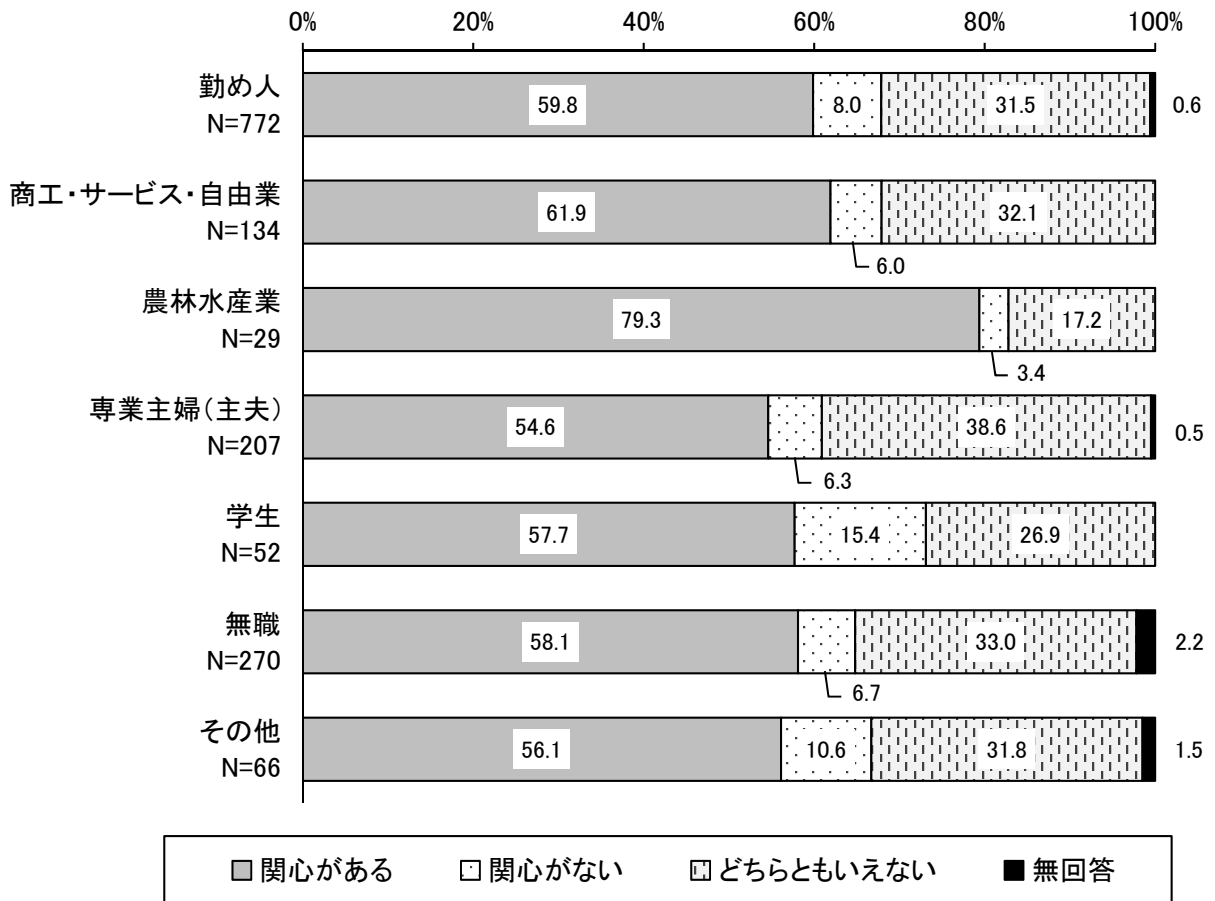


- 「関心がある」が59.1%となり、「関心がない」を51.4ポイント上回った。令和元年度との比較では、「関心がある」は2.2ポイントの減少となった。
- 性別でみると、「関心がある」と回答した割合は、男性が64.1%、女性が55.1%、選べないが57.1%となった。男女別では、男性の方が女性と比べ9.0ポイント高く、再生可能エネルギーへの関心は男性の方が高い。
- 職業別でみると、農林水産業の「関心がある」が79.3%と最も高く、次いで商工・サービス・自由業の61.9%となった。自らで事業を行う職業層において「関心がある」割合が高い。

【性別】

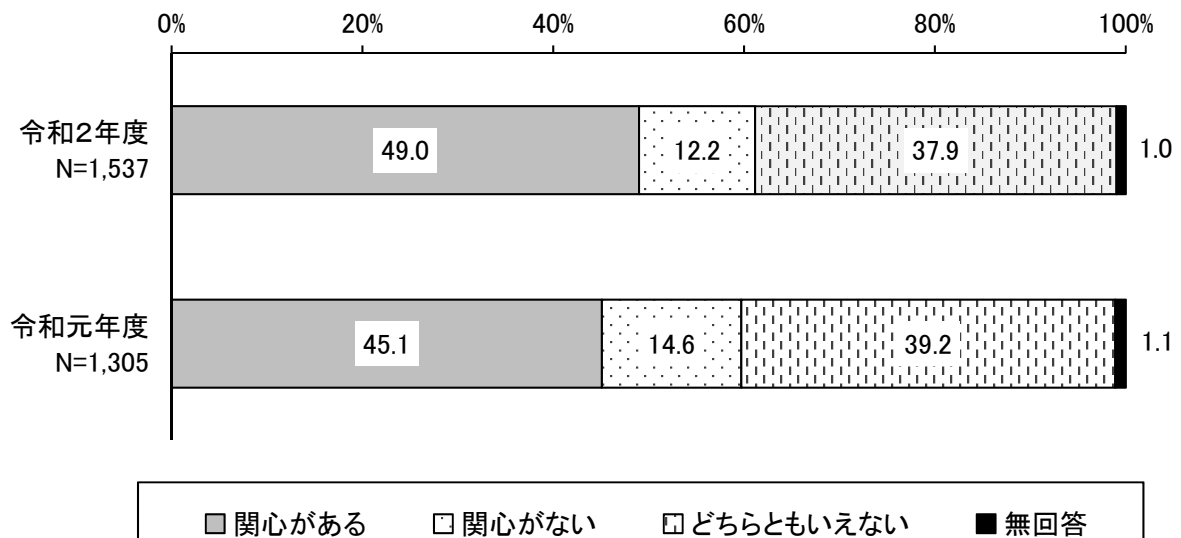


【職業別】



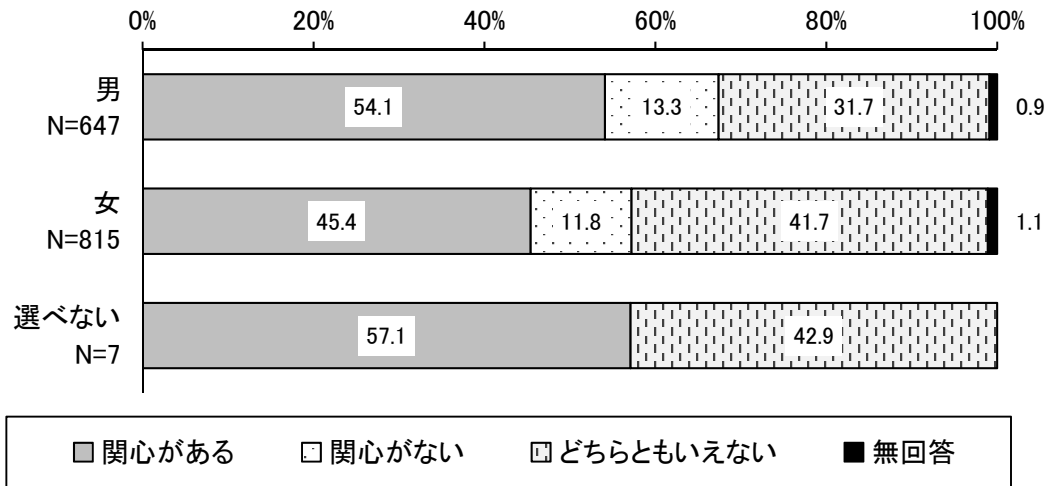
問4 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用することについて関心がありますか。(1つだけ○を付けてください)

「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用することに「関心がある」人は49.0%

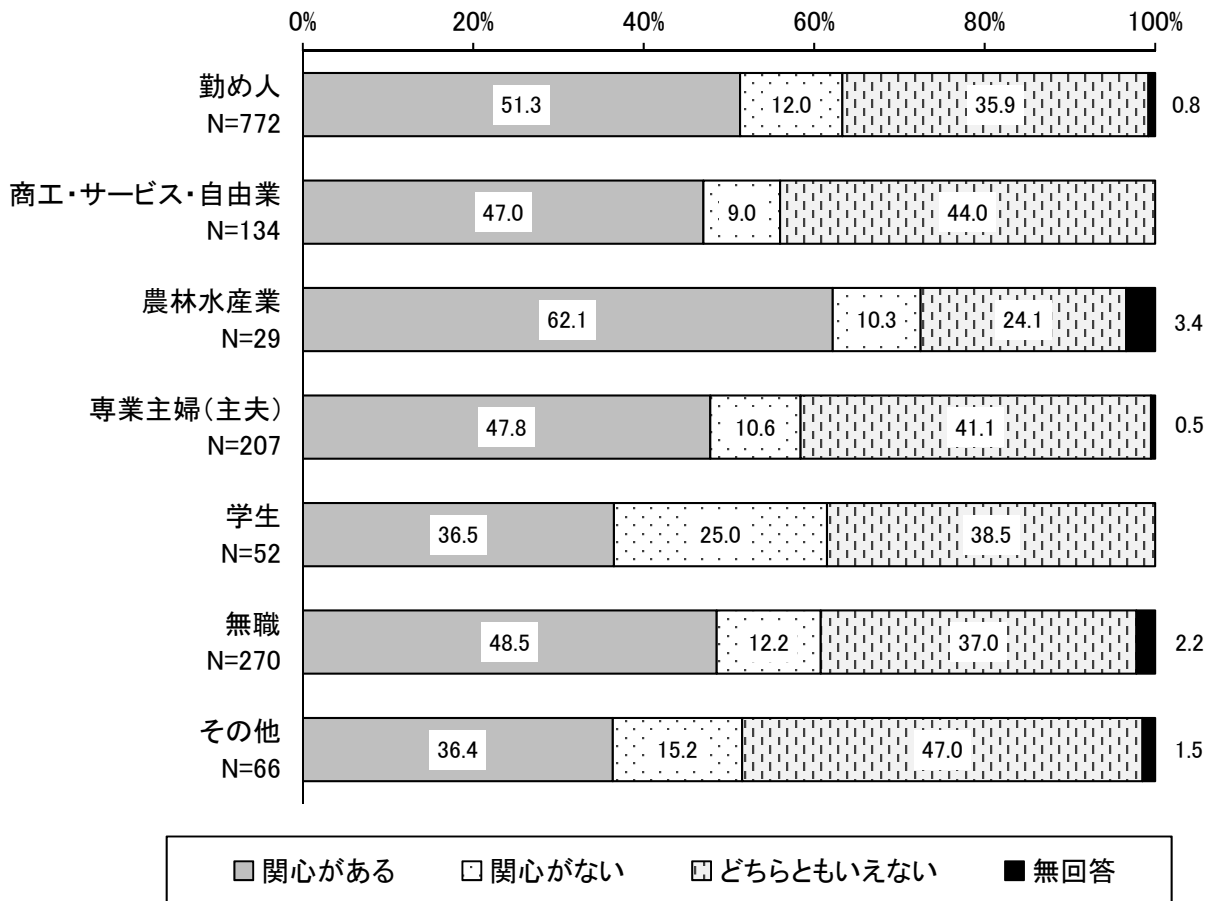


- 「関心がある」が49.0%となり、「関心がない」を36.8ポイント上回った。令和元年度との比較では、「関心がある」が3.9ポイントの増加となった。
- 性別でみると、「関心がある」と回答した割合は、男性が54.1%、女性が45.4%、選ばないが57.1%となった。男女別では、男性の方が自らの家庭で使用する事への関心が高い。
- 職業別でみると、農林水産業の「関心がある」が62.1%と最も高く、次いで勤め人の51.3%となった。
- 問3の再生可能エネルギーに「関心がある(59.1%)」と比べると、本設問の「関心がある」は10.1ポイント低い。これは、「再生可能エネルギー」への関心はあるが、現状の住宅環境では難しいなどの理由から、自らの家庭で使用する事にはやや消極的であることが推察される。
- 再生可能エネルギーから作られた電気や熱の使用への関心を高めるには、利用についての情報を積極的に発信し、実際に再生可能エネルギー活用機器の導入に移行していく取り組みが必要である。また、「どちらともいえない」層の関心を高め、導入する層の底上げを図っていくことも求められる。

【性別】

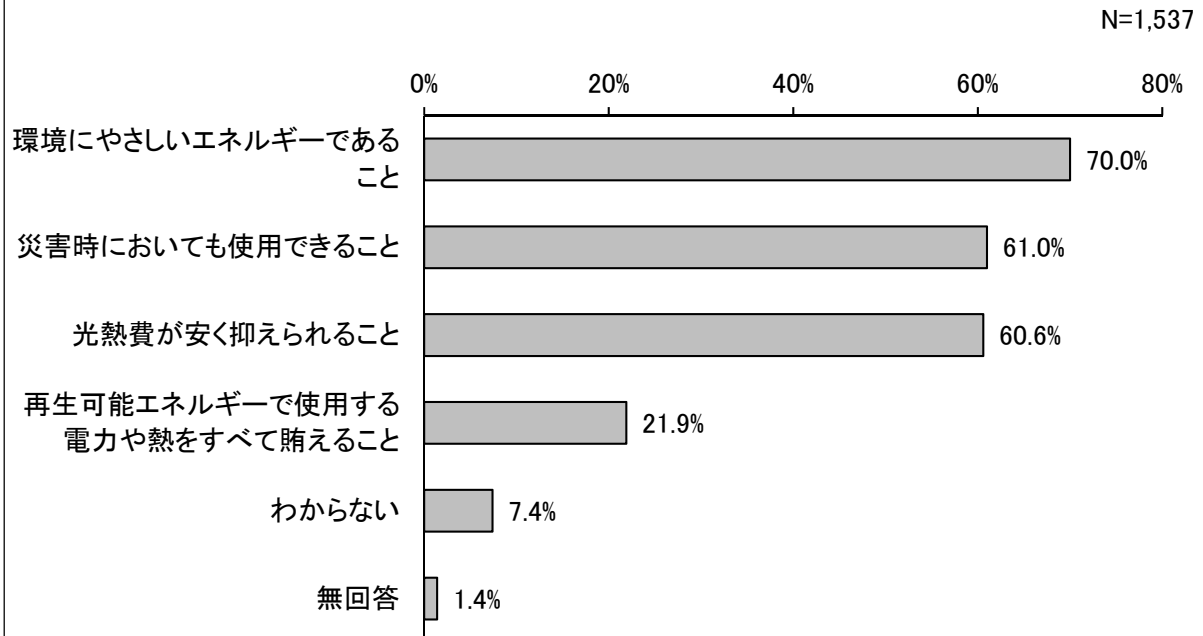


【職業別】



問5 問4について、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料となるものは何ですか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料は、「環境にやさしいエネルギーであること」が70.0%



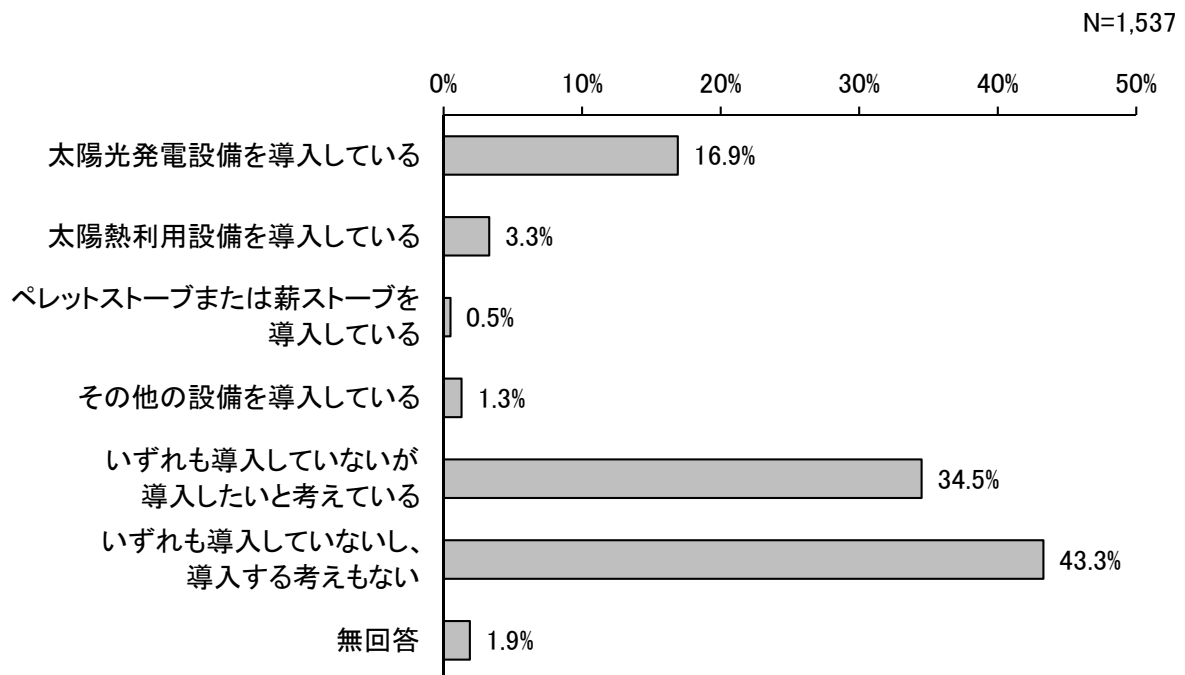
- 「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料は、「環境にやさしいエネルギーであること」が70.0%と最も高く、次いで「災害時においても使用できること」が61.0%、3番目に「光熱費が安く抑えられること」が60.6%となった。
- 性別でも、いずれも「環境にやさしいエネルギーであること」が最も高い。
- しかしながら、年代別でみると、50歳代以上では「環境にやさしいエネルギーであること」が最も高いものの、18歳~29歳と30歳代においては「光熱費が安く抑えられること」が最も高い。40歳代では「災害時においても使用できること」が最も高い。若い世代では価格を重視し、年配世代では環境を重視する回答結果となった。

【性別・年代別】

		環境にやさしいエネルギーであること	災害時においても使用できること	光熱費が安く抑えられること	再生可能エネルギーで使用する電力や熱をすべて賄えること	わからない	無回答
性別	男 N=647	65.5	58.0	60.6	22.4	6.5	1.5
	女 N=815	73.5	64.2	61.1	21.8	8.2	1.3
	選べない N=7	71.4	57.1	42.9	14.3	-	-
年代別	18歳～29歳 N=182	59.9	51.6	62.6	17.0	9.9	-
	30歳代 N=192	61.5	69.3	75.0	22.4	7.8	1.0
	40歳代 N=287	65.9	68.6	65.9	23.0	5.9	0.3
	50歳代 N=269	78.8	63.6	64.3	19.3	6.3	0.7
	60歳代 N=303	74.9	63.4	58.7	26.4	4.6	2.6
	70歳以上 N=298	72.5	49.3	43.3	21.1	11.1	3.0

問6 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用、ペレットストーブ、薪ストーブなど）を既に導入していますか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

「再生可能エネルギー」の活用機器の導入について、「太陽光発電設備を導入している」人は16.9%



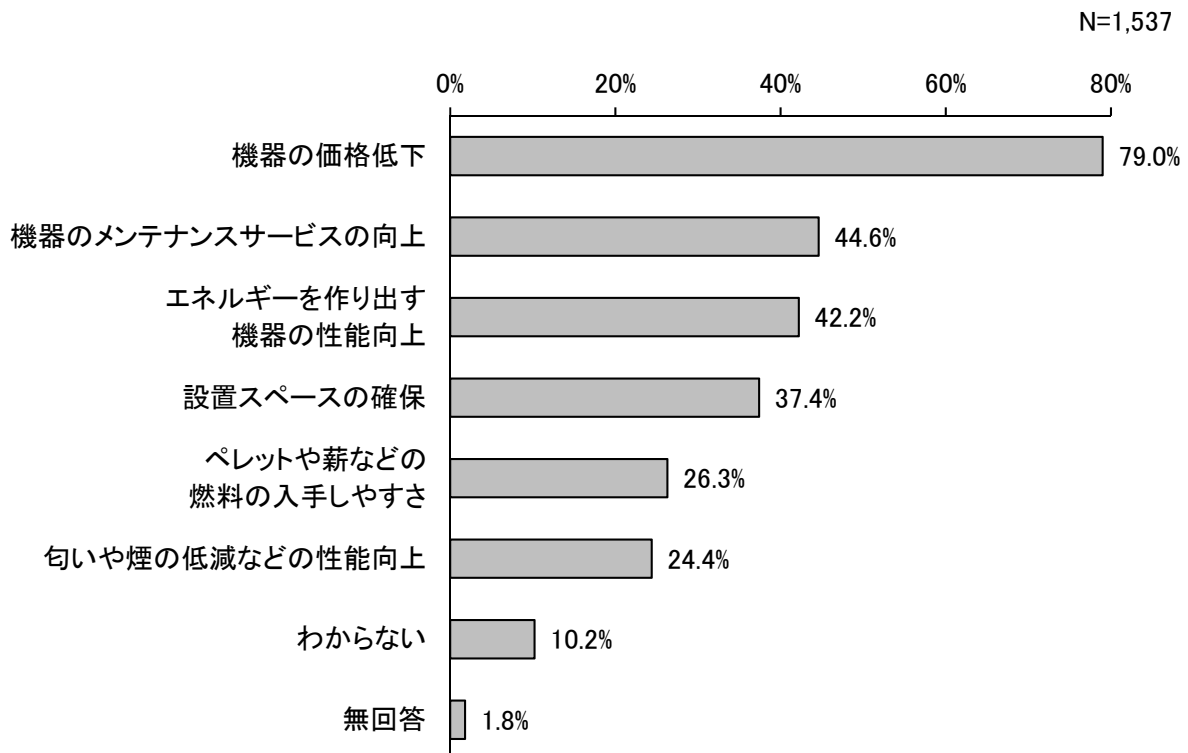
- 導入済みの活用機器は太陽光発電設備が16.9%と最も高い。太陽熱利用設備は3.3%、ペレットストーブまたは薪ストーブは0.5%と家庭への導入は低調である。回答割合の中では「いずれも導入していないし、導入する考えもない」が43.3%と最も高いが、導入には、半数以上の方が前向きであることもうかがえる。
- 年代別で見ると、「太陽光発電設備を導入している」と回答した割合は、30歳代が23.4%と最も高く、次いで40歳代の23.0%となった。50歳代以上では年代が高くなるほど回答割合が低い。
- 職業別で見ると、「太陽光発電設備を導入している」回答割合は、農林水産業の34.5%が最も高く、また「太陽熱利用設備を導入している」も20.7%と他の回答者層と比べて最も高い。農林水産業は「再生可能エネルギー」への関心度、太陽光発電設備や太陽熱利用設備などの使用、導入のいずれも高い回答結果となった。

【年代別・職業別】

		太陽光発電設備を導入している	太陽熱利用設備を導入している	ペレットストーブまたは薪ストーブを導入している	その他の設備を導入している	いずれも導入していないが導入したいと考えている	いずれも導入していないし、導入する考えもない	無回答
年代別	18歳～29歳 N=182	17.0	2.2	0.5	0.5	28.0	52.7	-
	30歳代 N=192	23.4	4.2	1.0	1.6	26.0	46.4	1.6
	40歳代 N=287	23.0	3.1	-	0.7	37.3	36.6	1.0
	50歳代 N=269	16.0	2.2	0.7	1.1	35.7	45.4	0.4
	60歳代 N=303	14.5	3.6	-	1.0	41.6	37.0	3.3
	70歳以上 N=298	10.4	4.4	0.3	2.7	32.9	46.6	4.0
職業別	勤め人 N=772	18.4	3.0	0.5	0.8	35.4	42.2	1.4
	商工・サービス・ 自由業 N=134	13.4	3.0	-	1.5	45.5	35.8	2.2
	農林水産業 N=29	34.5	20.7	-	3.4	24.1	24.1	-
	専業主婦(主夫) N=207	18.4	3.4	1.0	1.0	29.5	45.4	3.4
	学生 N=52	26.9	1.9	1.9	-	19.2	51.9	-
	無職 N=270	10.4	3.7	-	2.2	34.1	48.5	2.6
	その他 N=66	15.2	-	-	3.0	34.8	45.5	1.5

問7 「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用、ペレットストーブ、薪ストーブなど）の導入を進めるには、どのような環境が必要だと考えますか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

「再生可能エネルギー」の活用機器の導入を進める上で必要な環境は、「機器の価格低下」であると考える人が79.0%



- 「機器の価格低下」が79.0%と最も高く、「機器のメンテナンスサービスの向上」（44.6%）と「エネルギーを作り出す機器の性能向上」（42.2%）が4割台となった。
- 性別でも、いずれも「機器の価格低下」が最も高い。
- 年齢別でも、すべての世代で「機器の価格低下」が最も高いが、18歳～50歳代で8割台であるのに対し、60歳代では7割台、70歳以上では6割台と回答割合は低くなる傾向がみられる。
- 浜松市では自給自足を目指す次世代型住宅（スマートハウス）の設置を促進するための補助など、エネルギーを賢く利用し、地域と調和した適正な再生可能エネルギーの導入などを促進していく。

【性別・年代別】

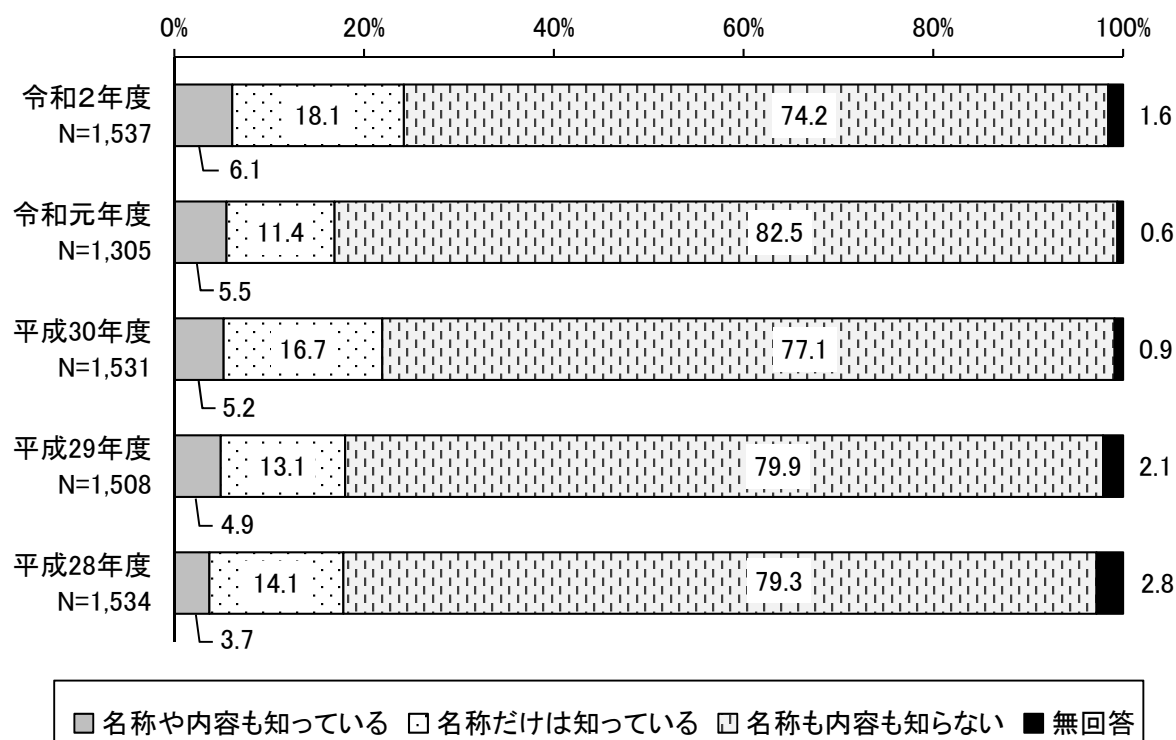
		機器の価格低下	機器のメンテナンスサービスの向上	エネルギーを作り出す機器の性能向上	設置スペースの確保	ペレットや薪などの燃料の入手しやすさ	匂いや煙の低減などの性能向上	わからない	無回答
性別	男 N=647	82.4	45.9	48.2	32.1	24.7	20.4	8.0	1.7
	女 N=815	77.1	44.4	38.0	41.7	28.0	27.1	11.4	1.7
	選べない N=7	100.0	71.4	57.1	57.1	14.3	28.6	-	-
年代別	18歳～29歳 N=182	83.0	28.0	37.9	43.4	20.9	18.7	9.3	-
	30歳代 N=192	84.9	49.5	40.1	39.1	29.2	23.4	6.8	1.0
	40歳代 N=287	86.4	49.8	46.3	36.2	30.0	21.6	4.9	0.3
	50歳代 N=269	81.8	49.8	41.6	40.9	31.2	27.1	10.4	0.4
	60歳代 N=303	76.2	51.5	45.9	37.0	27.4	28.4	9.9	3.3
	70歳以上 N=298	65.8	35.6	38.9	31.9	18.5	24.5	18.1	4.4

2-3 F S C森林認証について

問8 あなたは「F S C森林認証※」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

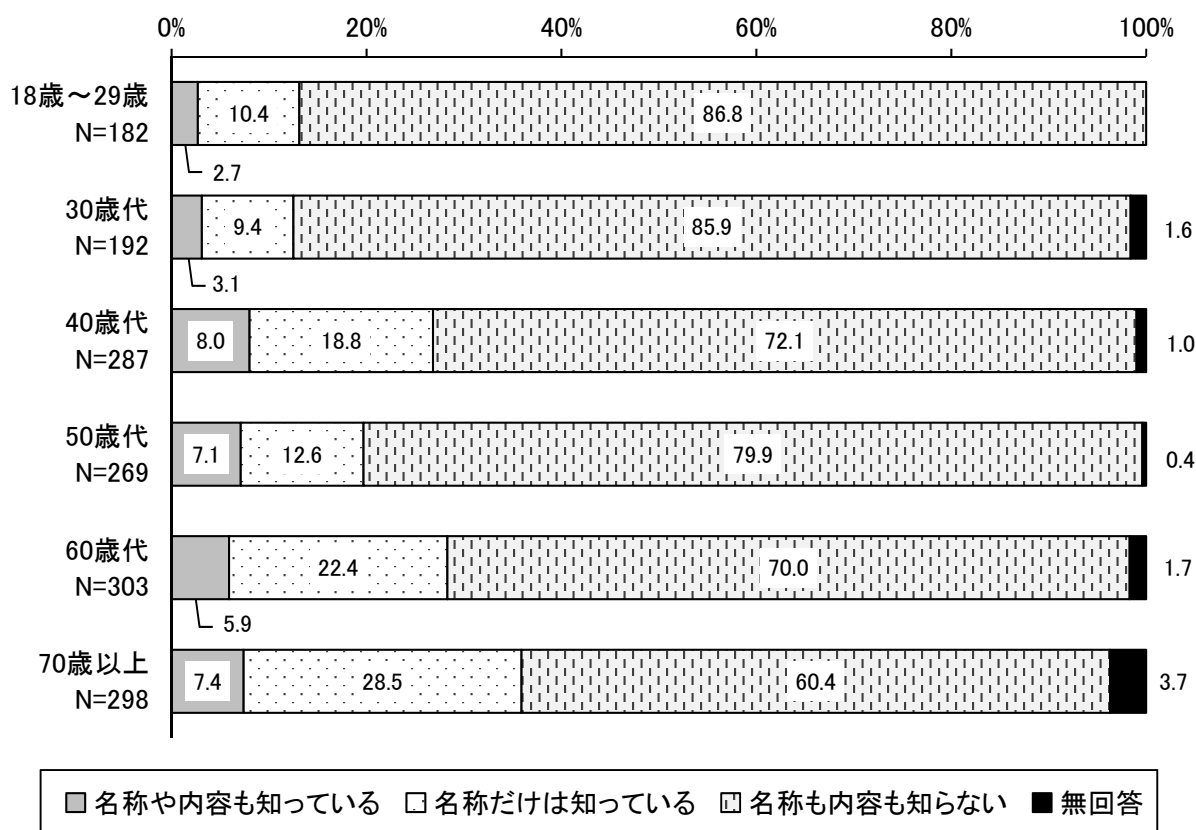
※ 「F S C森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

「F S C森林認証」の『認知度』は24.2%

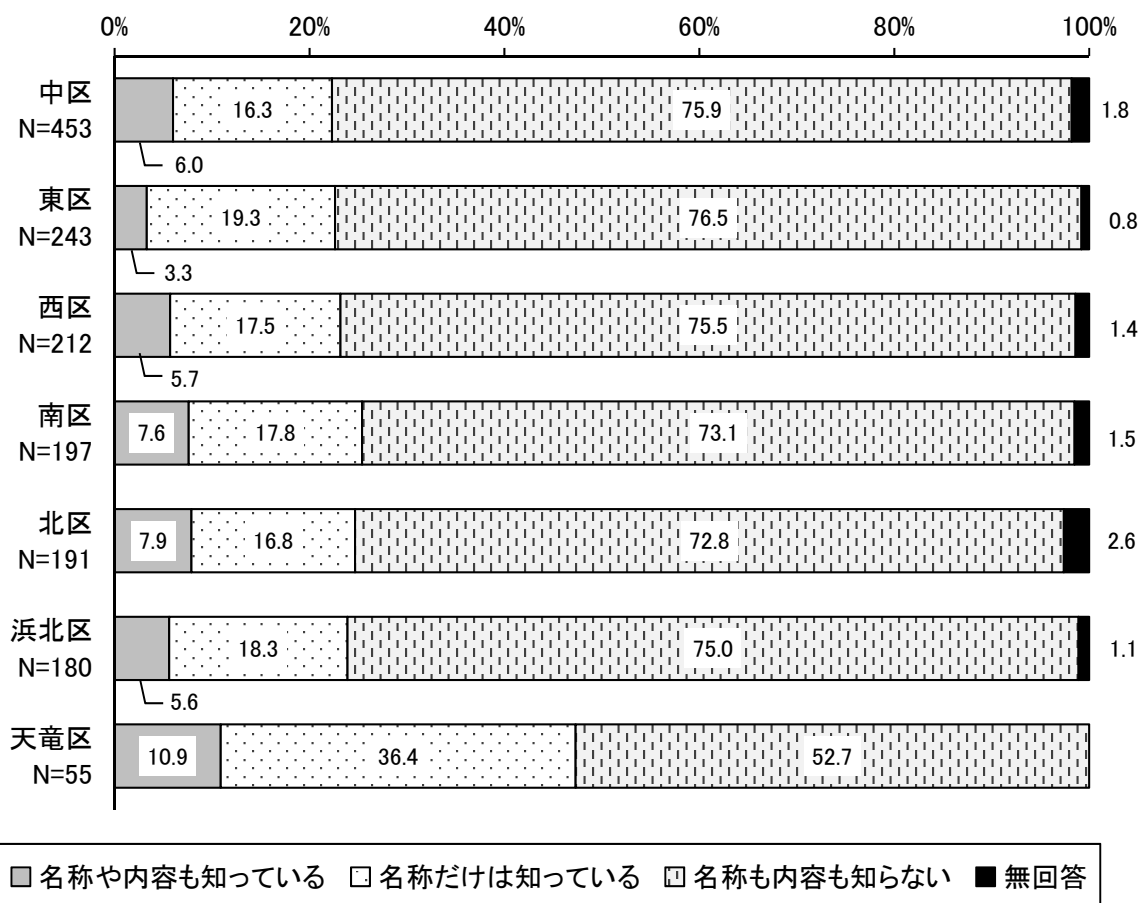


- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は24.2%となり、「知らない」の74.2%を50.0ポイント下回った。令和元年度との比較では、『認知度』が7.3ポイント増加するとともに、「名称や内容も知っている」についても0.6ポイントの増加となった。
- 年代別でみると、『認知度』の回答割合は、30歳代が12.5%と最も低く、次いで18歳~29歳の13.1%となっており、若い世代の『認知度』が低い。
- 行政区別でみると、天竜区の『認知度』が47.3%と最も高い。天竜区はF S C森林認証に関連が強い地域であるためと考えられる。天竜区以外の行政区についてはいずれも2割台であるため、引き続き、認知度の向上に努める必要がある。

【年代別】

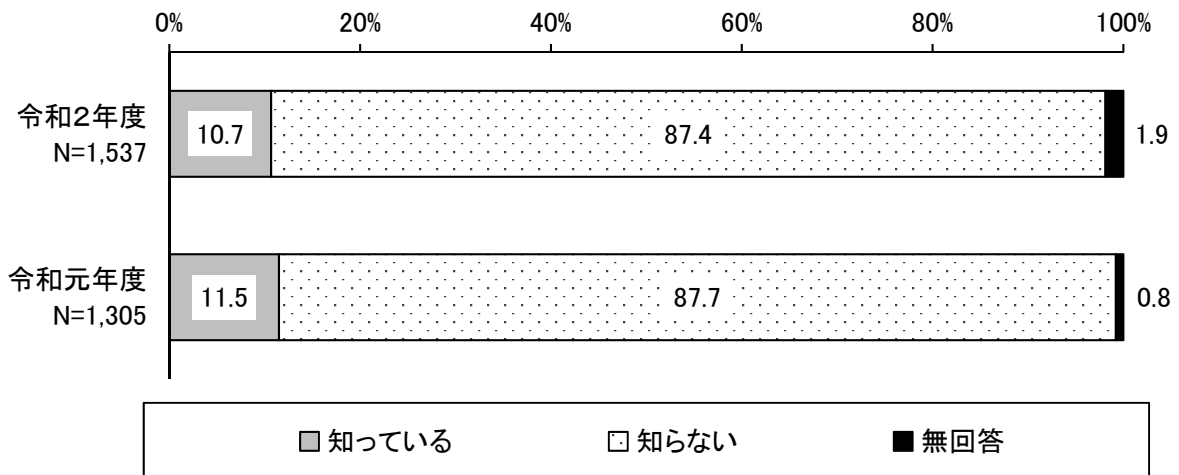


【行政区別】



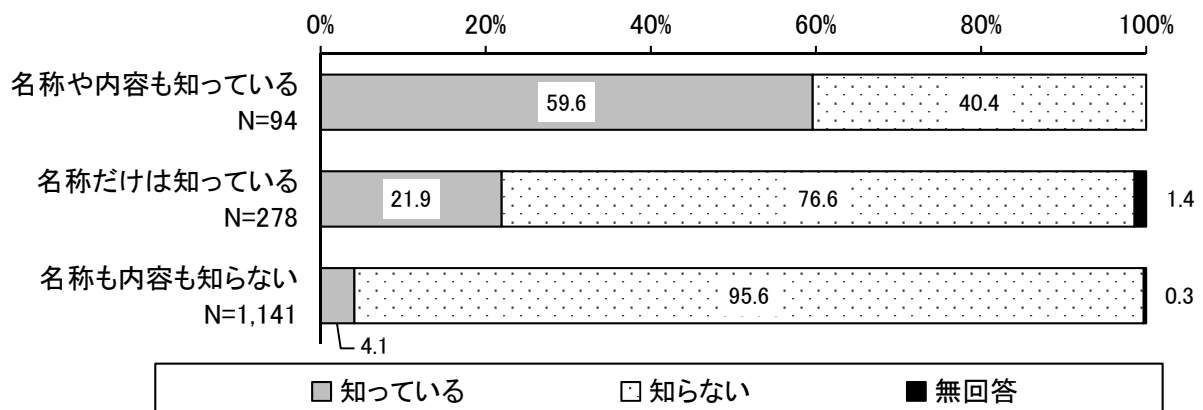
問9 あなたは「F S C森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積（約48,541ha（令和2年4月1日現在））を有していることをご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

浜松市が市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることを知っている人は10.7%

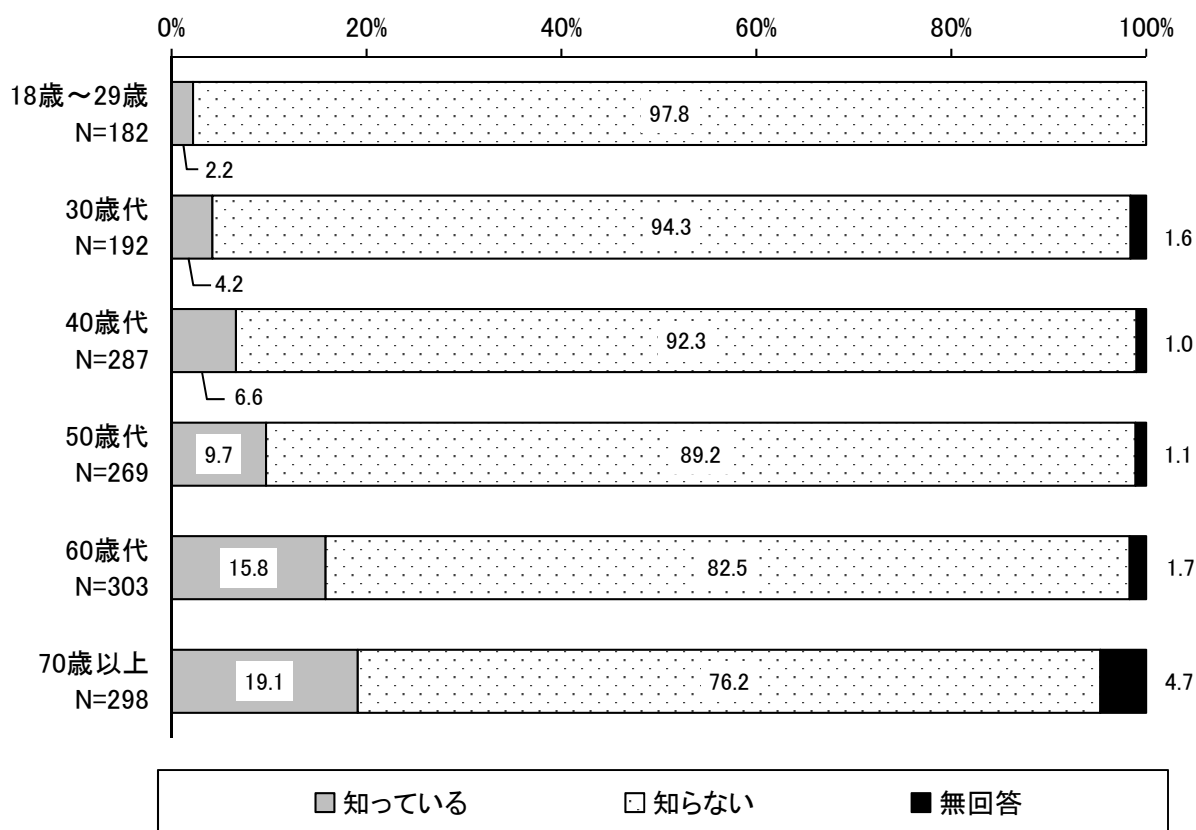


- 「知っている」が10.7%となり、令和元年度に引き続き低い回答結果となった。また、問8のF S C森林認証の認知度と比べてさらに低い回答結果となった。
- F S C森林認証の認知度別でみると、F S C森林認証を「名称や内容も知っている」層が本問を「知っている」割合は59.6%と全体の10.7%と比べ突出して高い。
- 年代別でみると、70歳以上の「知っている」割合が19.1%と最も高く、年代が高くなるほど「知っている」割合が高い。
- 行政区別でみると、「知っている」が天竜区で21.8%と最も高いが、天竜区以外の行政区については1割前後であった。なかでも東区と南区、北区については1割にも満たない。
- F S C森林認証の認知度と、市町村別で最も広いF S C森林認証面積を有していることの認知度の関連性は高く、F S C森林認証の認知度を高めていくことが必要である。

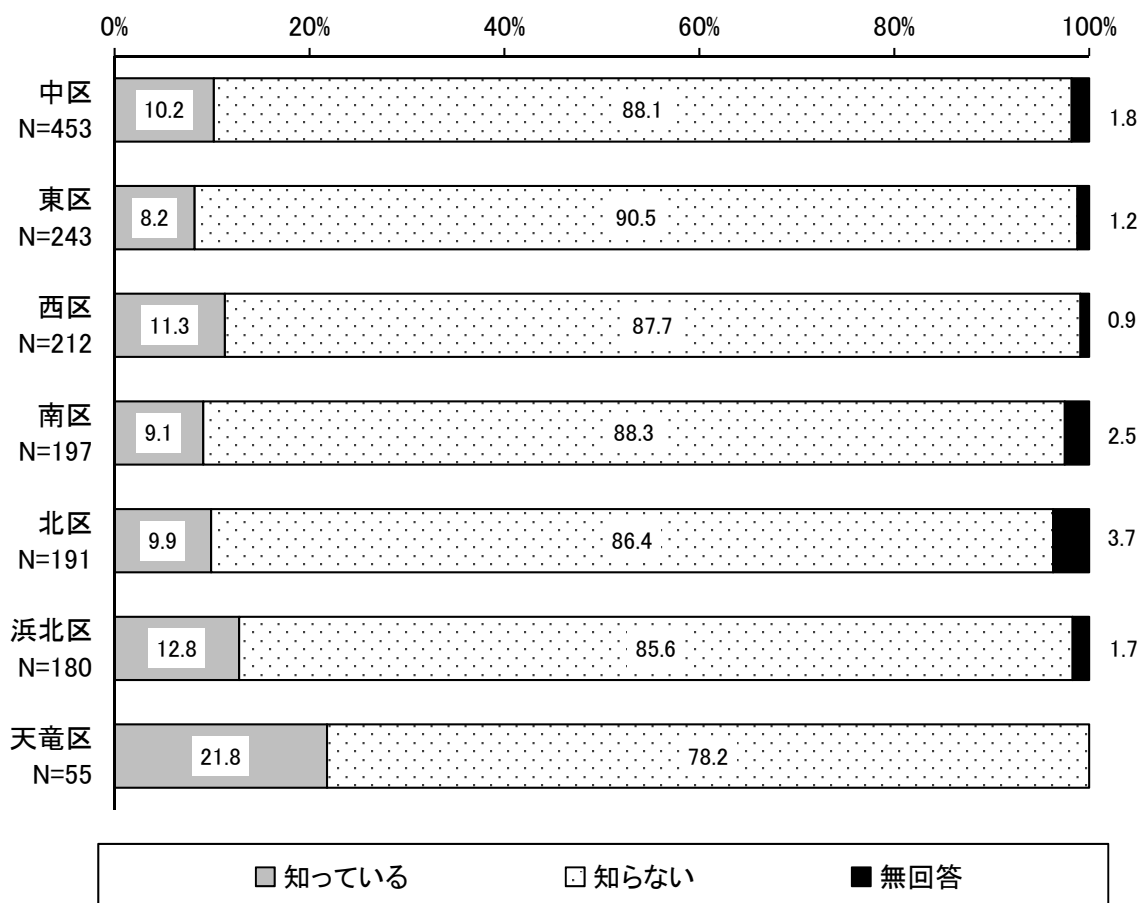
【問8 F S C森林認証の認知度別】



【年代別】

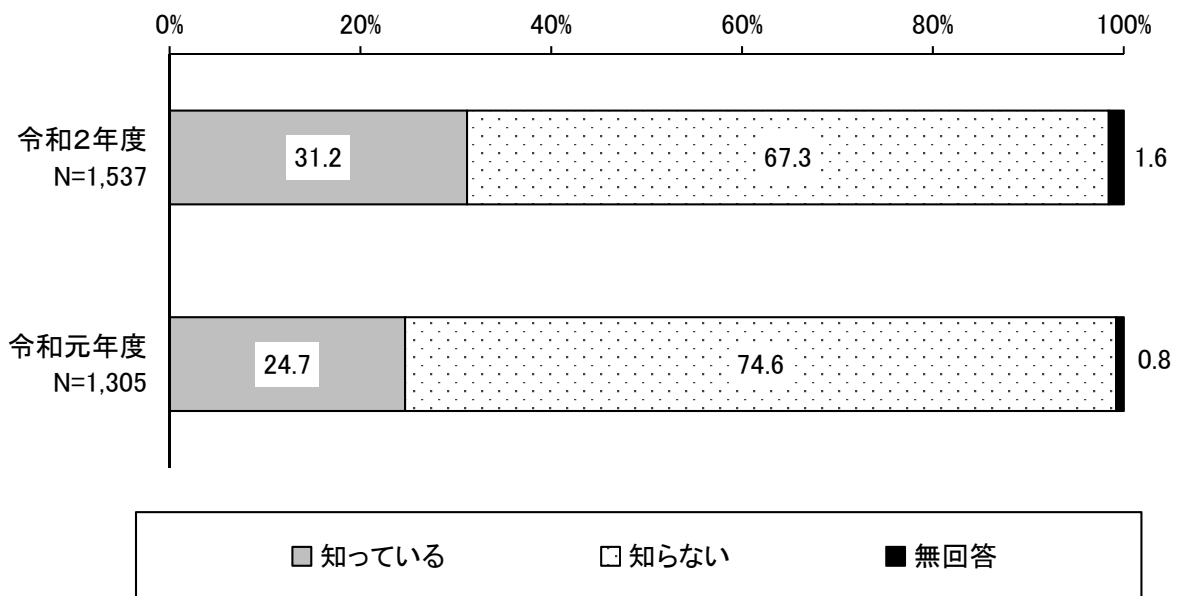


【行政区別】



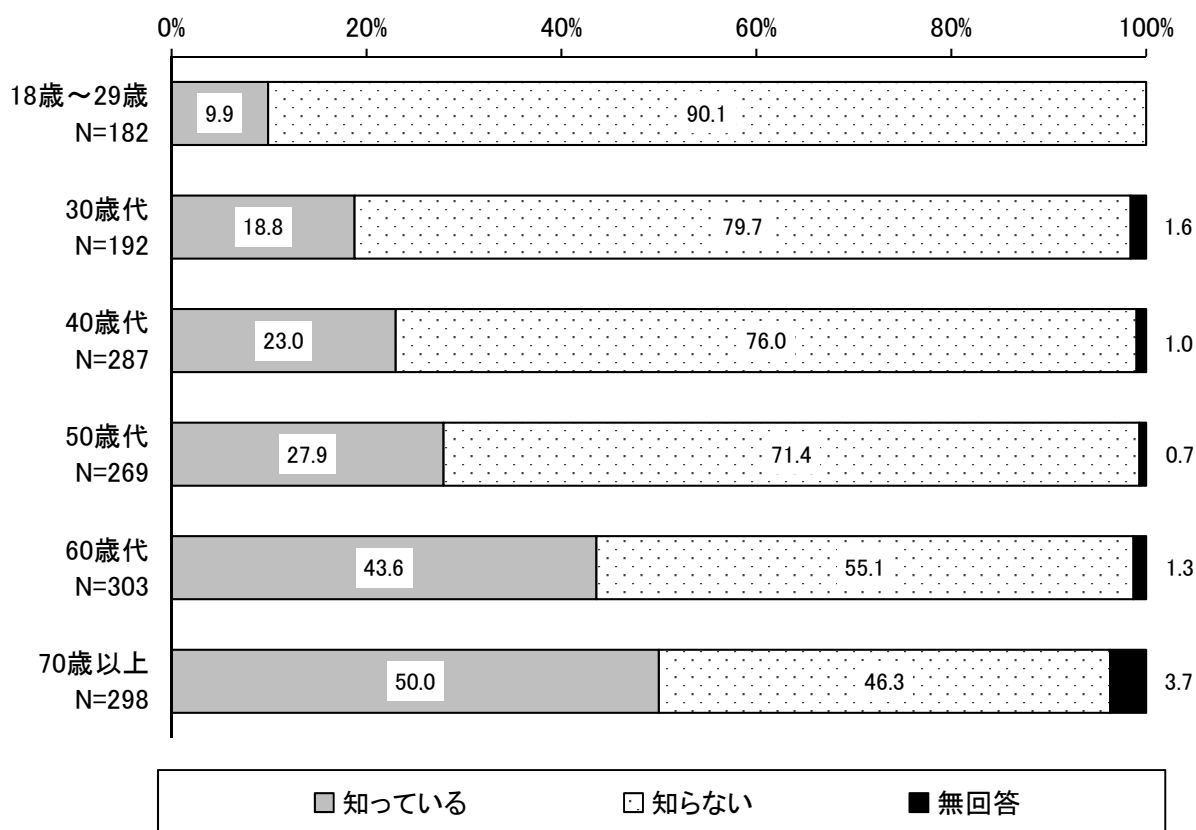
問 10 あなたは東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の関連施設（有明体操競技場、選手村ビレッジプラザなど）に、浜松市の「F S C森林認証」の森林から生産された木材が使用されていることをご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の関連施設に、浜松市の「F S C森林認証」の森林から生産された木材が使用されることを「知っている」人は 31.2%

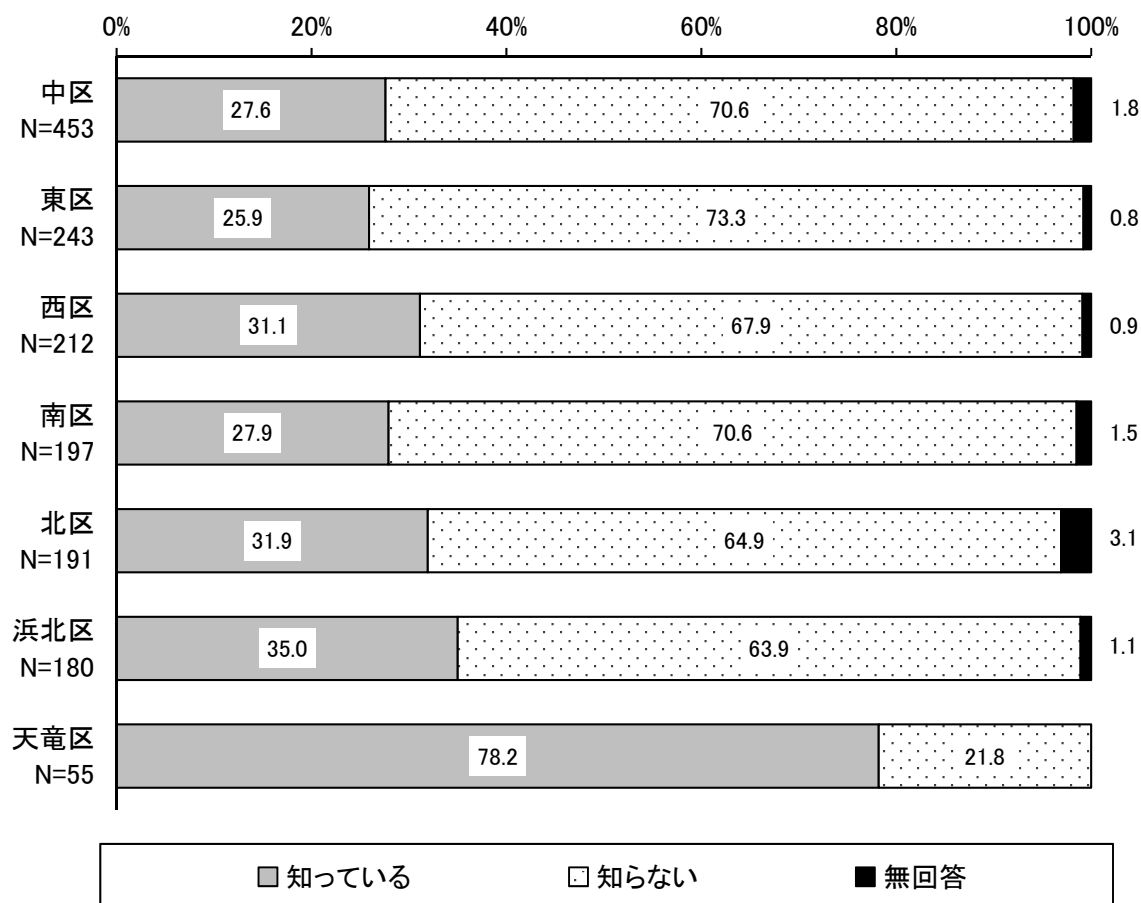


- 「知っている」は 31.2%となり、問8・問9のF S C森林認証などの認知度と比べると高い。令和元年度との比較においても「知っている」は 6.5 ポイントの増加となった。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会は延期となったものの、開催が近づくにつれ、周知が進む回答結果となった。
- 年代別で見ると、70 歳以上の「知っている」が 50.0%と最も高く、次いで 60 歳代の 43.6%となった。年代が高くなるほど「知っている」割合が高い。
- 行政区別で見ると、天竜区の「知っている」が 78.2%と最も高く、他の行政区と比べて突出して高い。天竜区以外の行政区では 2 割から 3 割台にとどまる。
- 天竜区は F S C 森林認証に関連が強い地域であることから、F S C 森林認証の木材の用途への関心も高いことがうかがえる。

【年代別】



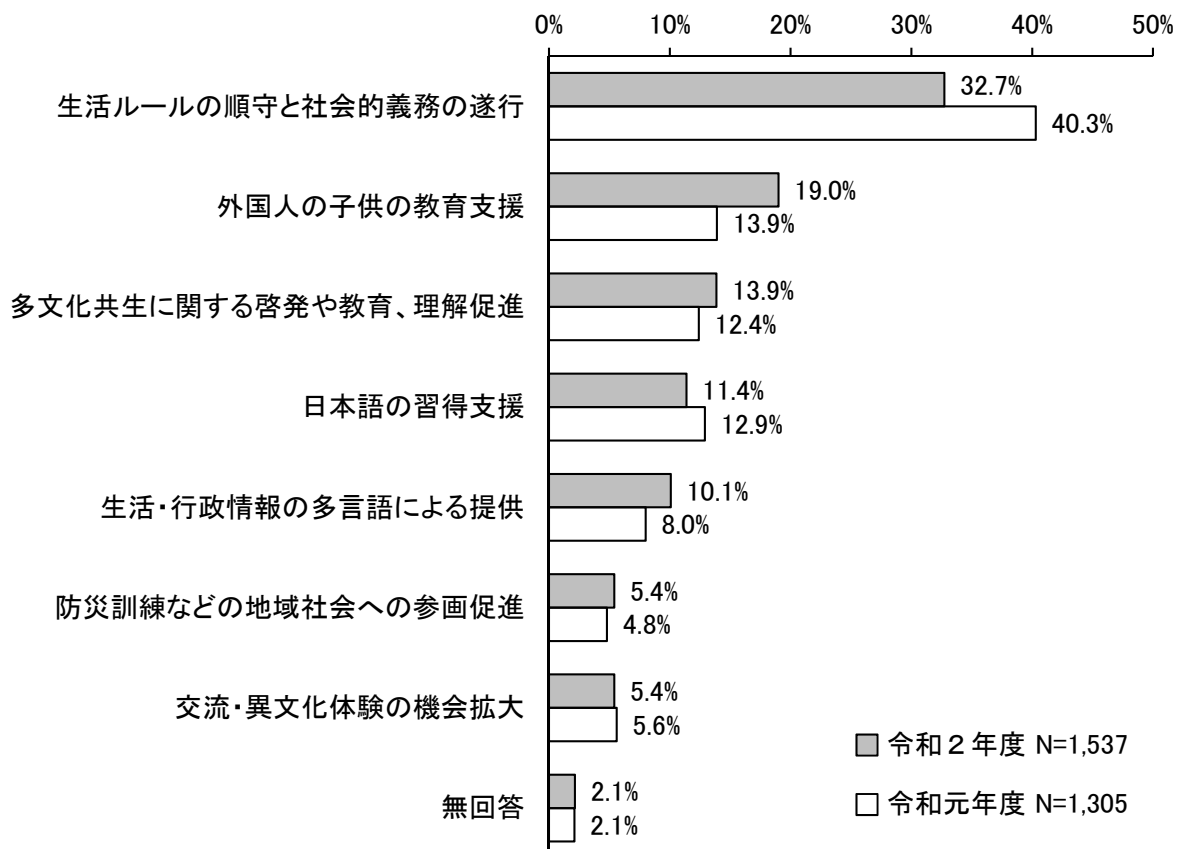
【行政区別】



2-4 多文化共生について

問 11 あなたは、浜松市が行っている多文化共生施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。(1つだけ○を付けてください)

最も力を入れるべき取り組みは「生活ルールへの順守と社会的義務の遂行」が 32.7%



- 「生活ルールへの順守と社会的義務の遂行」が 32.7%と最も高く、次いで、「外国人の子供の教育支援」が 19.0%となった。令和元年度との比較をみると最も高い「生活ルールへの順守と社会的義務の遂行」は 7.6 ポイントの減少、2 番目に高い「外国人の子供の教育支援」は 5.1 ポイントの増加となった。
- 年代別でも、「生活ルールへの順守と社会的義務の遂行」が最も高い（30 歳代は「外国人の子供の教育支援」も同率）。「生活ルールへの順守と社会的義務の遂行」をみると、70 歳以上の 39.9%が最も高く、年代が高くなるほど高い傾向にある。
- 居住形態別でも、その他の居住形態を除き「生活ルールへの順守と社会的義務の遂行」が最も高い。なかでも公営住宅では 62.5%となり、他の 2 割～3 割台の回答割合と比べると突出して高い。
- 問 12 の外国人市民との共生社会づくりに向けた取り組みについての満足度別でも、『満足である』と回答した層は「外国人の子供の教育支援」が最も高く、『不満である』と回答した層は「生活ルールへの順守と社会的義務の遂行」が最も高い。『満足である』層ほど「外国人の子供の教育支援」の回答割合が高いのに対し、『不満である』層であるほど「生活ルールへの順守と社会的義務の遂行」の回答割合が高い。

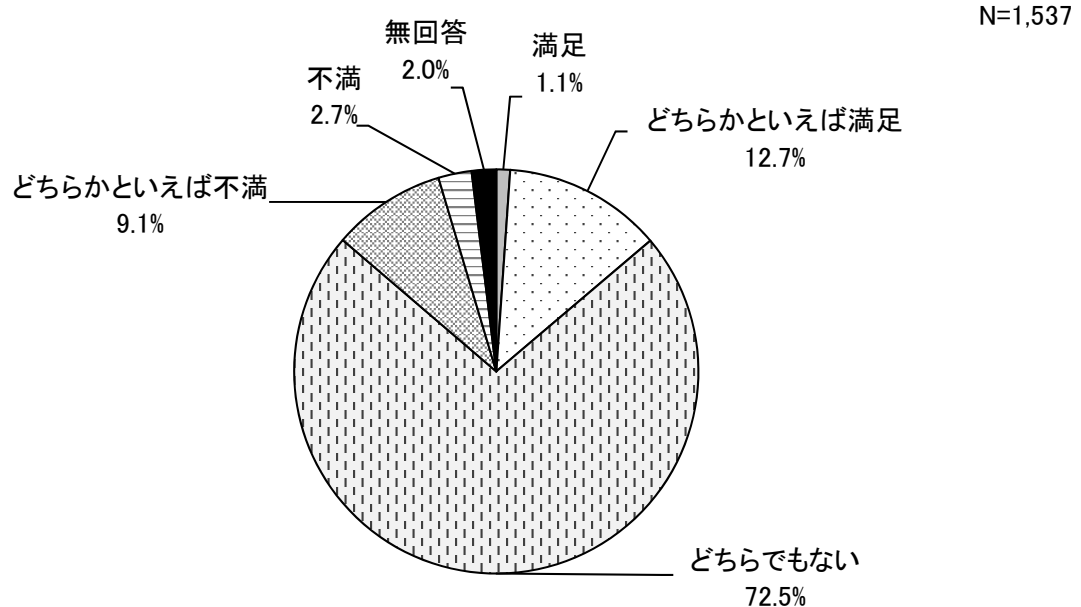
- ▶ 多様性を都市の活力と捉え、多様な文化を市民がお互いに認め合い、活発な対話や交流が行われるよう、ともに作りあげる地域を目指していく。

【年代別・居住形態別・問12 共生社会づくりに向けた取り組みについての満足度別】

		的生活 的義務 の遂行 の順守 と社会	外国人 の子供 の教育 支援	多文化 や教育 、共生 、理解 促進 する啓 発	日本語 の習得 支援	生活・ 行政情 報の多 言語	防災訓 練など の地域 社会	交流・ 異文化 体験の 機会	無回 答
年代別	18歳～29歳 N=182	23.6	14.8	15.4	14.3	17.0	7.7	6.6	0.5
	30歳代 N=192	23.4	23.4	15.1	8.9	9.4	7.8	10.4	1.6
	40歳代 N=287	30.3	17.8	16.4	11.5	11.1	4.9	6.3	1.7
	50歳代 N=269	35.3	20.1	13.4	12.6	9.3	3.7	4.5	1.1
	60歳代 N=303	37.3	19.8	12.5	11.6	8.9	3.6	5.0	1.3
	70歳以上 N=298	39.9	17.8	11.4	10.1	7.4	6.0	2.0	5.4
居住形態別	持ち家 N=1,234	33.5	19.4	13.5	10.9	10.4	5.1	4.9	2.3
	借家 N=44	27.3	18.2	11.4	20.5	13.6	2.3	6.8	-
	賃貸アパート・ マンション N=207	27.5	18.8	15.5	11.6	10.1	7.7	7.2	1.4
	公営住宅 N=16	62.5	6.3	12.5	6.3	-	12.5	-	-
	社宅・寮 N=17	29.4	11.8	17.6	17.6	-	-	17.6	5.9
	その他 N=12	25.0	16.7	33.3	25.0	-	-	-	-
共生 社会 づく り につ いて の 満 足 度 別	満足 N=17	11.8	35.3	17.6	11.8	11.8	5.9	5.9	-
	どちらかといえば満足 N=195	23.6	27.2	17.4	10.3	12.8	3.6	4.6	0.5
	どちらでもない N=1,114	33.4	18.5	13.5	11.8	10.5	5.7	5.7	0.8
	どちらかといえば不満 N=140	42.9	15.7	15.0	10.7	5.0	5.7	5.0	-
	不満 N=41	51.2	4.9	12.2	12.2	9.8	4.9	4.9	-

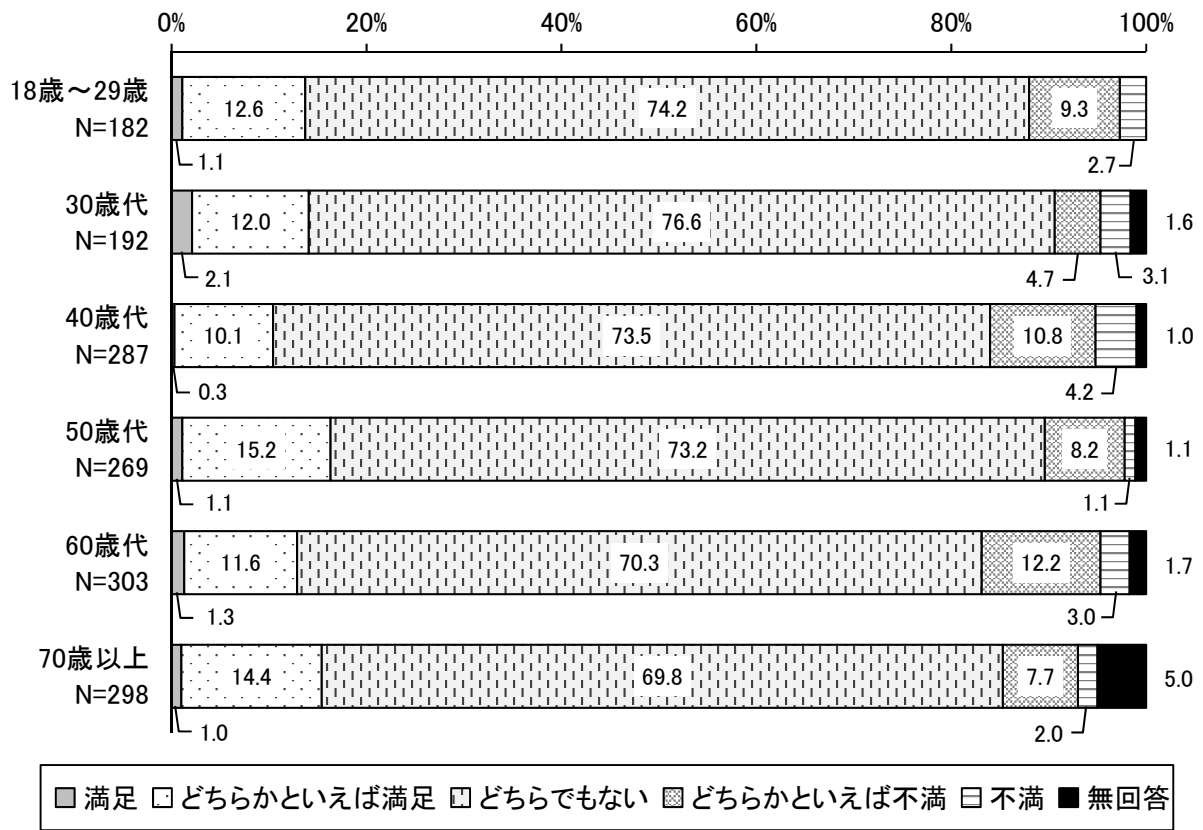
問12 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みについてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

外国人市民との共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みに『満足である』は13.8%

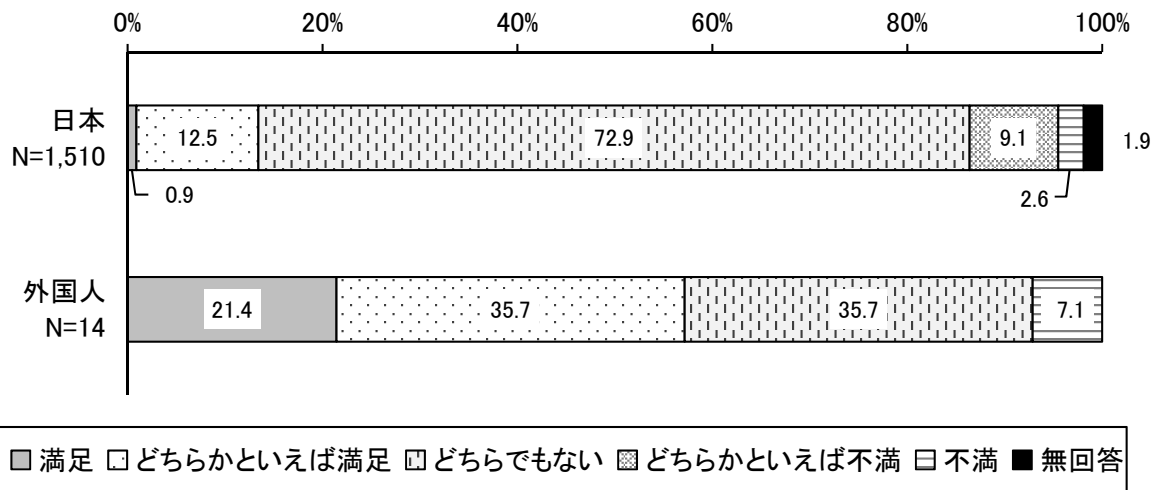


- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は13.8%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は11.8%となり、『満足である』が『不満である』を2.0ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は72.5%と7割を超える。
- 年代別で見ると、『満足である』の回答割合は50歳代が16.3%と最も高く、次いで70歳以上の15.4%となった。また、40歳代と60歳代を除いて、『満足である』が『不満である』を上回った。
- 国籍別で見ると、『満足である』の回答割合は、日本人が13.4%、外国人が57.1%となり、外国人からみた満足度は日本人と比べて高いことがうかがえる。
- 市民の満足度を高められるよう、引き続き「第2次浜松市多文化共生都市ビジョン」にもとづいた浜松型の多文化共生社会の実現を目指していく。

【年代別】

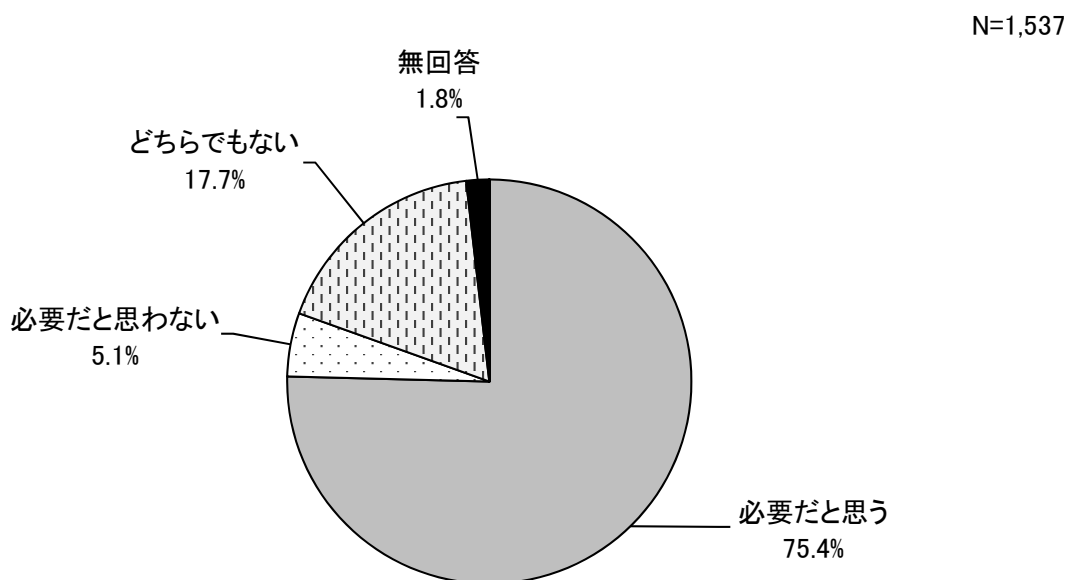


【国籍別】



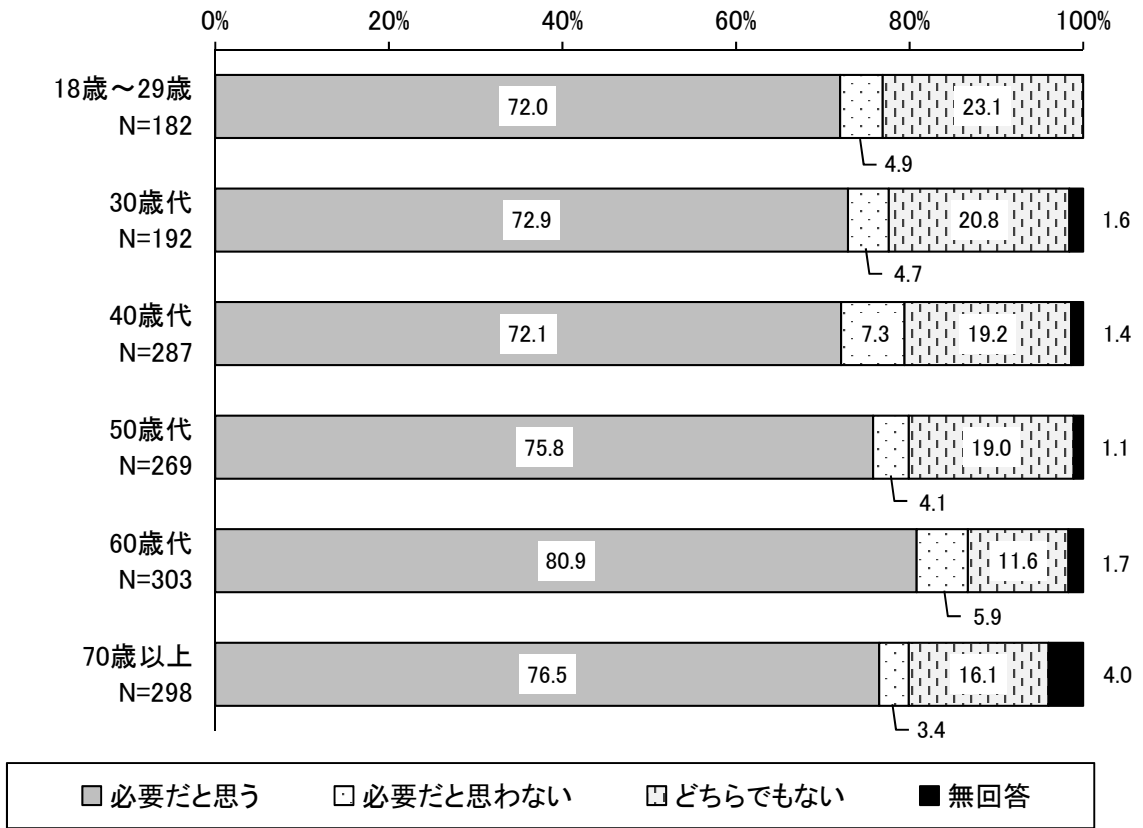
問13 外国人材の受入拡大の動きが全国的に進む中、共生社会を築くため、浜松市では外国人が生活言語である日本語を話せるよう日本語習得を促進していますが、日本語学習支援体制の一層の充実が必要だと思いますか。(1つだけ○を付けてください)

外国人への日本語学習支援体制の一層の充実が「必要だと思う」人は75.4%

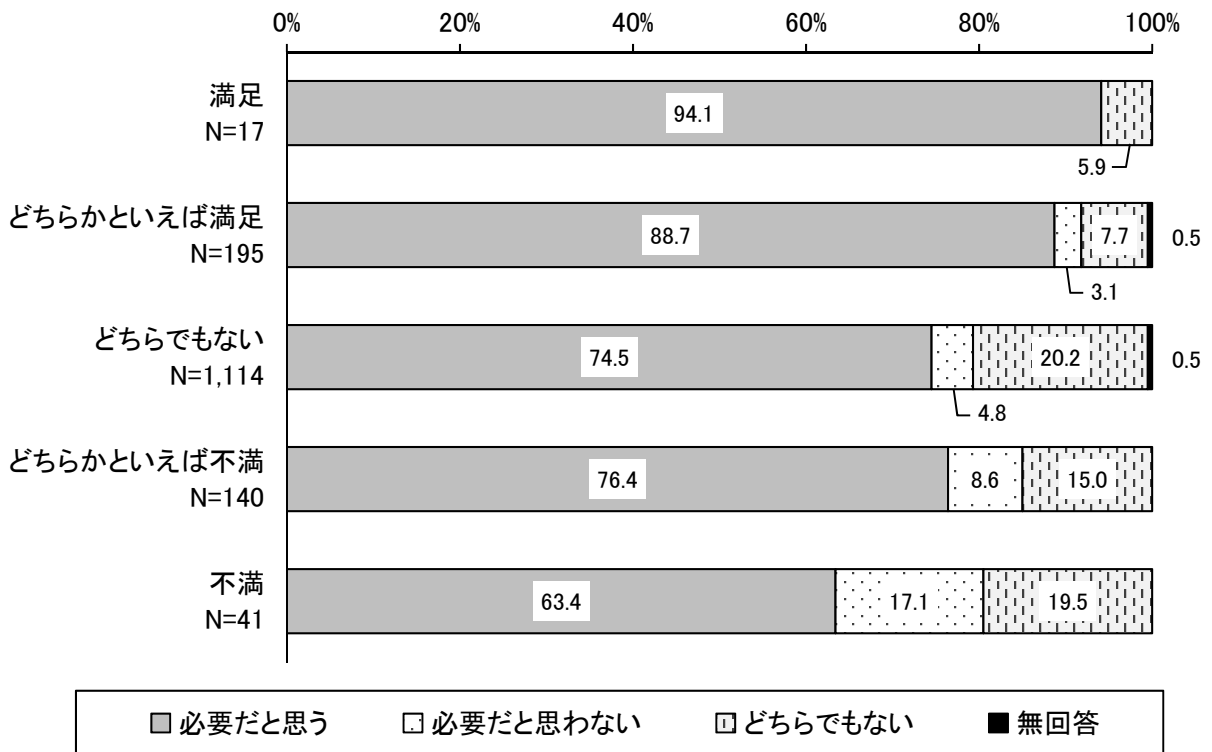


- 「必要だと思う」は75.4%となり、約4人に3人が日本語学習支援体制の一層の充実が必要であると回答する結果となった。「必要だと思わない」を70.3ポイント上回った。
- 年代別でみると、すべての年代で「必要だと思う」が最も高く、7割を超える。なかでも、60歳代の「必要だと思う」が80.9%と唯一8割を超える回答結果となった。
- 問12の外国人市民との共生社会づくりに向けた本市の取り組みについての満足度別でみると、「満足」と答えた回答層は「必要だと思う」が94.1%であるのに対し、「不満」と答えた回答層は「必要だと思う」が63.4%と低調な回答結果となった。本市の取り組みに満足と感じる市民の方が、より良い共生社会を築くことに前向きであることがうかがえる。

【年代別】

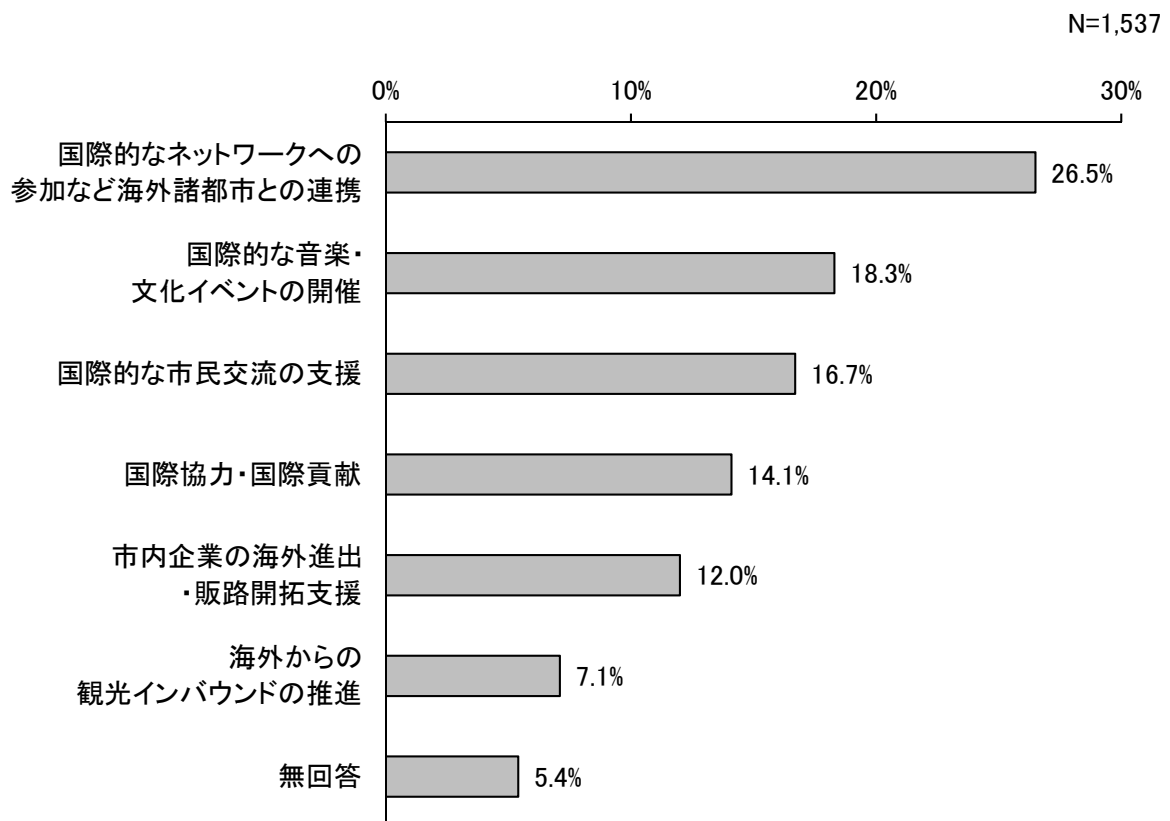


【問 12 共生社会づくりに向けた取り組みについての満足度別】



問 14 あなたは、浜松市が行っている国際化推進施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。（1つだけ○を付けてください）

最も力を入れるべき取り組みは「国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携」が 26.5%



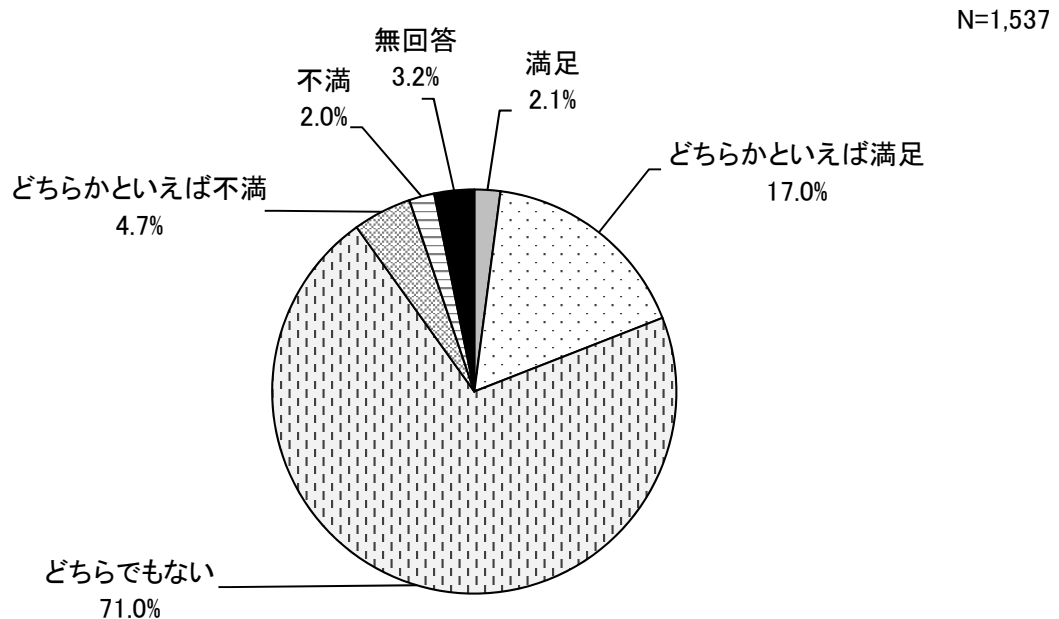
- 「国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携」が 26.5%と最も高く、次いで「国際的な音楽・文化イベントの開催」の 18.3%となった。
- 性別でも、「国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携」が最も高く、男性は 23.5%、女性が 29.7%、選べないが 28.6%となった（選べないは「国際協力・国際貢献」も同率）。男女で比較すると、女性の方が男性と比べて 6.2 ポイント高い。
- 年代でも、「国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携」が最も高い。なかでも 30 歳代が 33.9%と最も高く、30 歳代のみ 3 割を超える回答結果となった。
- また、問 15 の姉妹都市などとの市民交流に向けた取り組みについての満足度別でみると、全体において最も高い「国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携」については、「満足」の回答層は 43.8%と高く、一方で「不満」の回答層は 12.9%と低い。満足度が高いほど「国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携」の回答割合が高いことがうかがえる。

【性別・年代別・問 15 姉妹都市などとの市民交流に向けた取り組みについての満足度別】

		海外諸都市との連携	国際的な音楽・文化イベントの開催	国際的な市民交流の支援	国際協力・国際貢献	市内企業の海外進出・販路開拓支援	海外からの観光インバウンドの推進	無回答
性別	男 N=647	23.5	18.7	15.5	13.6	15.0	9.1	4.6
	女 N=815	29.7	18.2	16.8	14.7	9.4	5.8	5.4
	選べない N=7	28.6	14.3	-	28.6	14.3	-	14.3
年代別	18歳～29歳 N=182	22.5	22.0	12.6	15.9	13.7	11.5	1.6
	30歳代 N=192	33.9	16.1	10.4	12.0	13.5	11.5	2.6
	40歳代 N=287	29.3	18.5	19.9	11.1	11.1	7.3	2.8
	50歳代 N=269	27.9	19.3	18.2	13.0	11.9	5.2	4.5
	60歳代 N=303	23.8	21.8	17.2	14.2	11.6	5.3	6.3
	70歳以上 N=298	23.2	13.1	17.8	18.1	11.1	5.0	11.7
満足度別 姉妹都市などとの市民交流に向けた取り組みについての	満足 N=32	43.8	9.4	9.4	21.9	12.5	-	3.1
	どちらかといえば満足 N=261	37.2	16.5	16.9	13.8	6.5	8.4	0.8
	どちらでもない N=1,092	24.8	19.8	16.9	14.6	13.0	7.1	3.8
	どちらかといえば不満 N=72	25.0	16.7	19.4	8.3	16.7	9.7	4.2
	不満 N=31	12.9	16.1	22.6	12.9	19.4	6.5	9.7

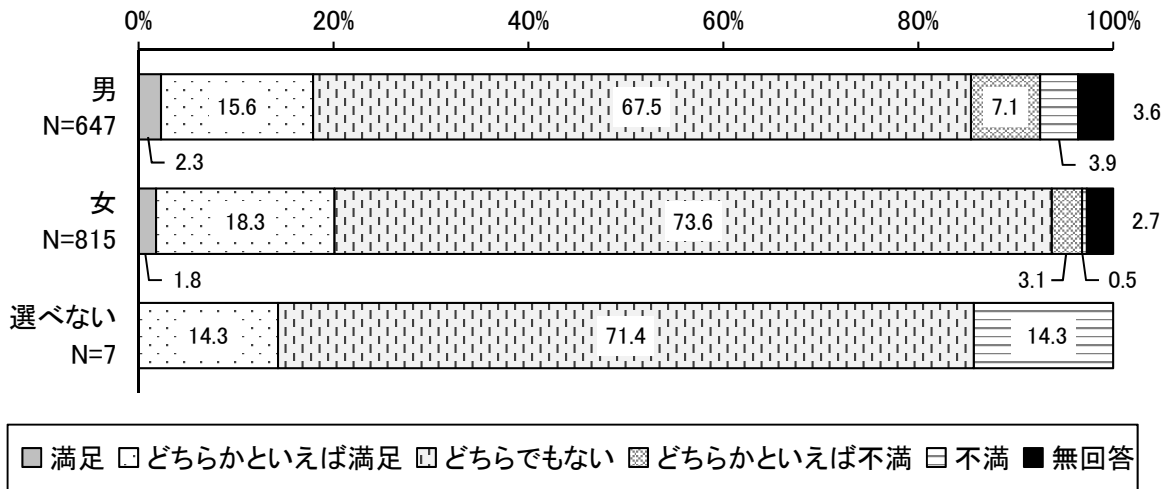
問15 姉妹都市などの世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みについてどのように感じていますか。例えば、公益財団法人浜松国際交流協会を通じて、国際交流や多文化共生に取り組む市民活動への助成を行っています。（1つだけ○を付けてください）

世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みに『満足である』は19.1%

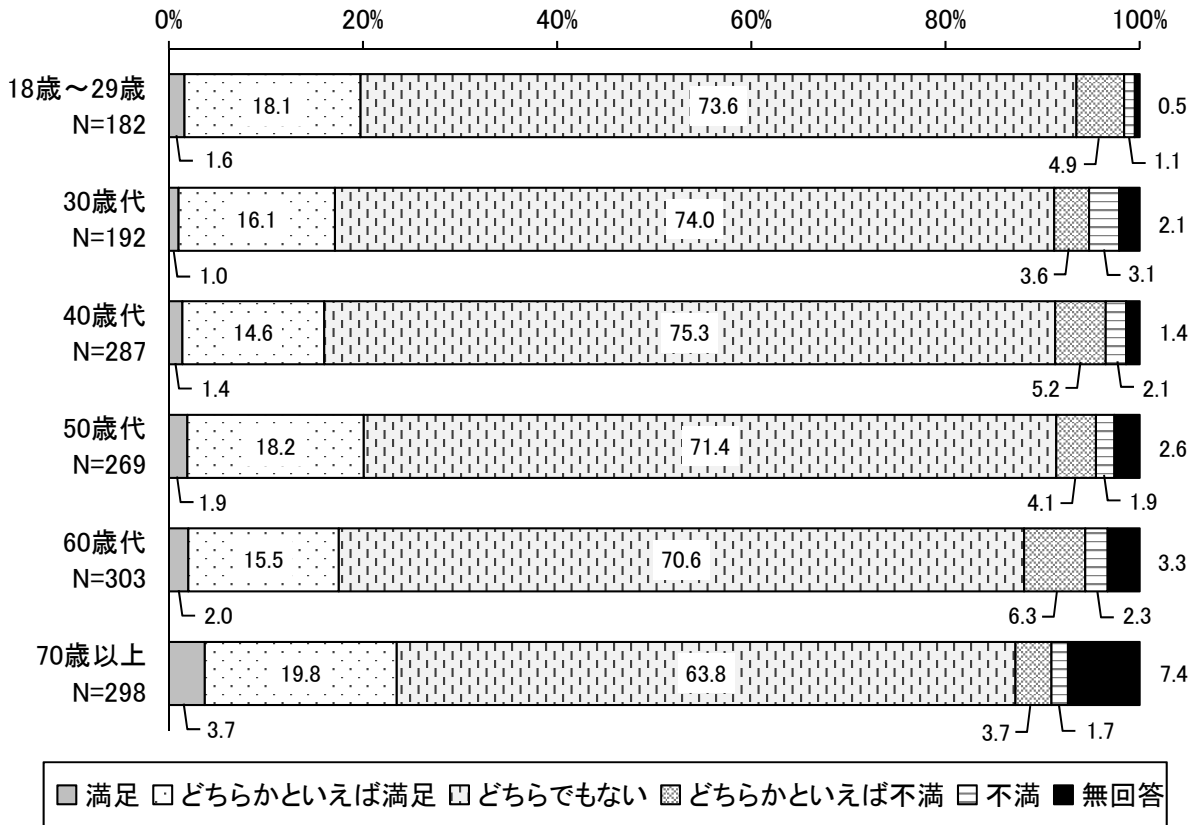


- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は19.1%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は6.7%となり、『満足である』が『不満である』を12.4ポイント上回った。一方で、「どちらでもない」は71.0%と7割を超える。
- 性別で見ると、『満足である』の回答割合は男性が17.9%、女性が20.1%、選べないが14.3%となった。男女どちらも『満足である』が『不満である』を上回ったが、男性の『不満である』は11.0%と、女性の3.6%と比べて高い。
- 年代別で見ると、『満足である』の回答割合は70歳以上が23.5%と最も高く、次いで50歳代の20.1%となった。すべての年代で『満足である』が『不満である』を上回った。

【性別】



【年代別】

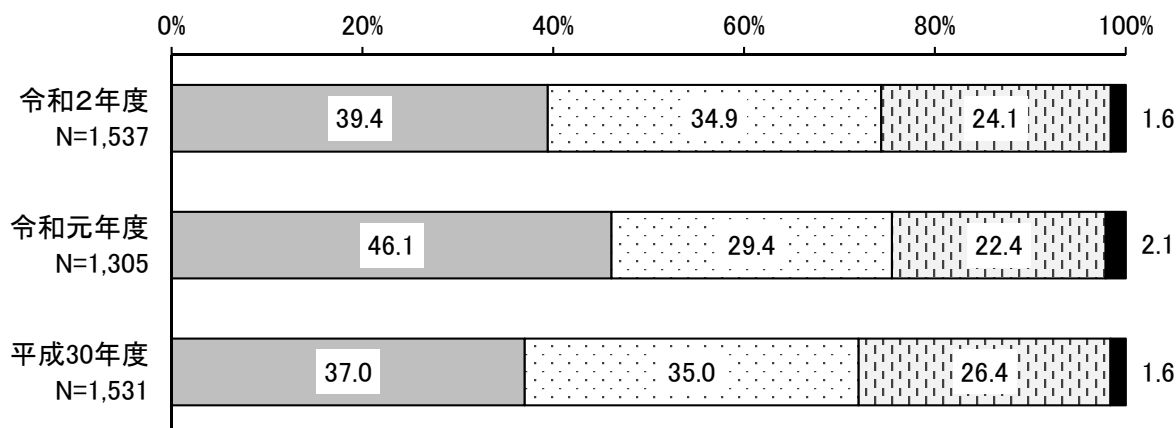


2-5 ユニバーサルデザイン・男女共同参画について

問 16 あなたは「ユニバーサルデザイン※」を知っていますか。(1つだけ○を付けてください)

※ ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適な暮らしができるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていかこうとする考え方のことです。

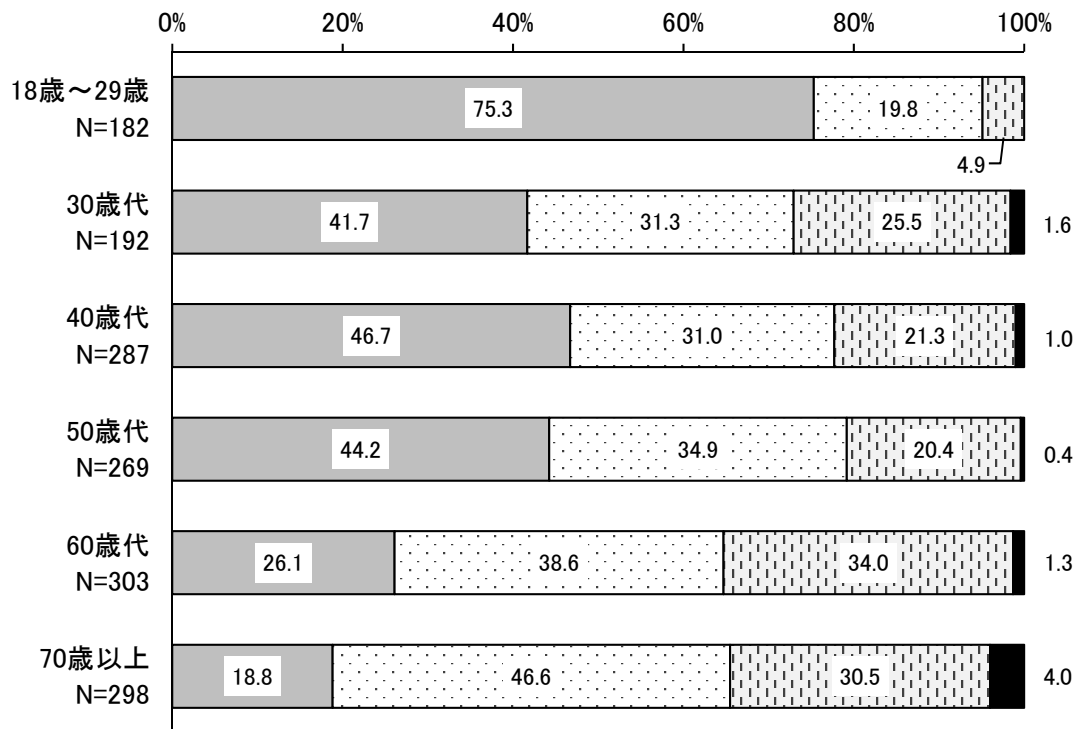
「ユニバーサルデザイン」を知っている人は 74.3%



■ 名称や内容も知っている □ 名称だけは知っている □ 名称も内容も知らない ■ 無回答

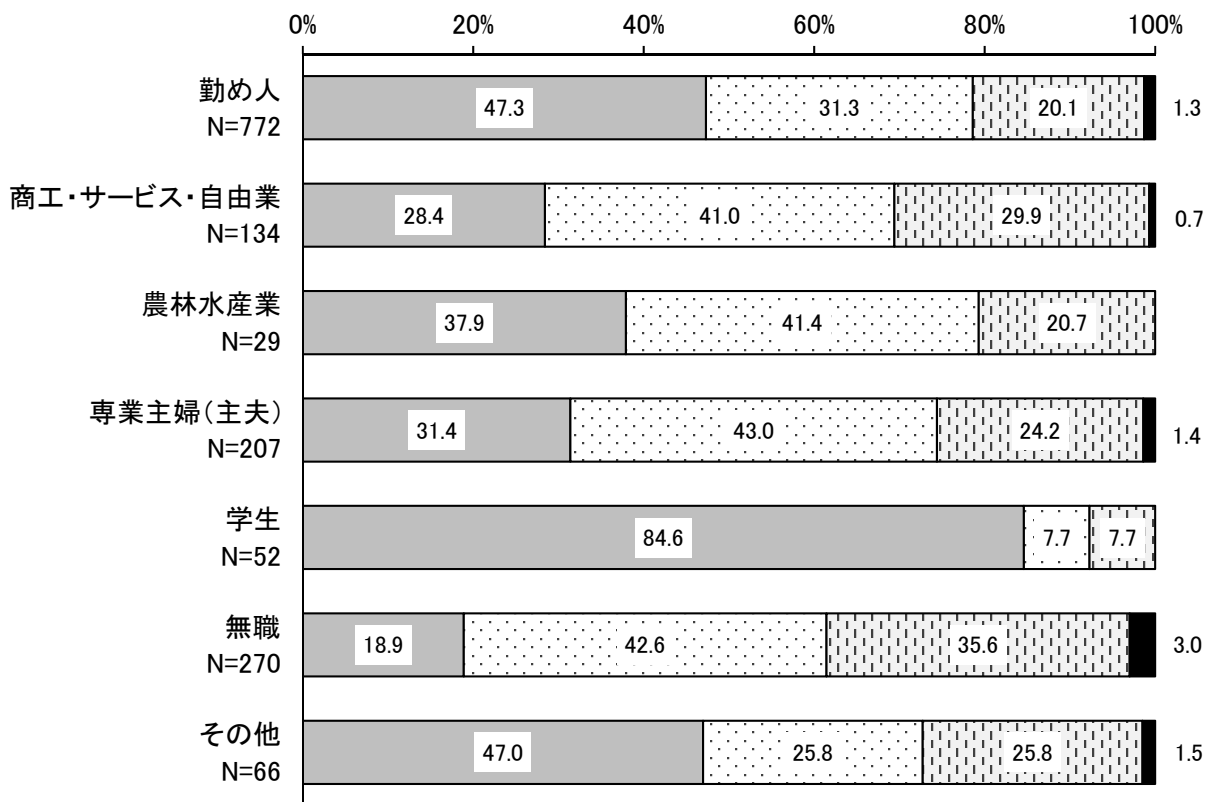
- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 74.3%となり、令和元年度と比べて 1.2 ポイント下回った。ユニバーサルデザインの理解度である「名称や内容も知っている」は 39.4%となり、令和元年度と比べて 6.7 ポイント下回った。令和元年度との比較ではいずれも下回ったが、平成 30 年度と比較するといずれも上回る回答結果となった。
- 年代別でみると、「名称や内容も知っている」の回答割合は 18 歳～29 歳が 75.3%となり、他の年代と比較して高い。これは、学校教育においてユニバーサルデザイン学習を継続的に取り入れている成果であると考えられる。また、30～50 歳代についても 4 割以上と 60 歳代以上と比べて高い。かつての学校教育や子供を通じて親世代にも浸透してきていると推察される。
- 職業別でみると、「名称や内容も知っている」の回答割合は、学生が 84.6%と最も高く、次いで勤め人の 47.3%となった。
- 1 年延期された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を来年に控え、外国人を含めたすべての人が訪れやすく、安心して快適に暮らすことができる社会がクローズアップされており、今後さらにユニバーサルデザインの認知度や意識が高まっていくことが期待される。

【年代別】



■ 名称や内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 名称も内容も知らない ■ 無回答

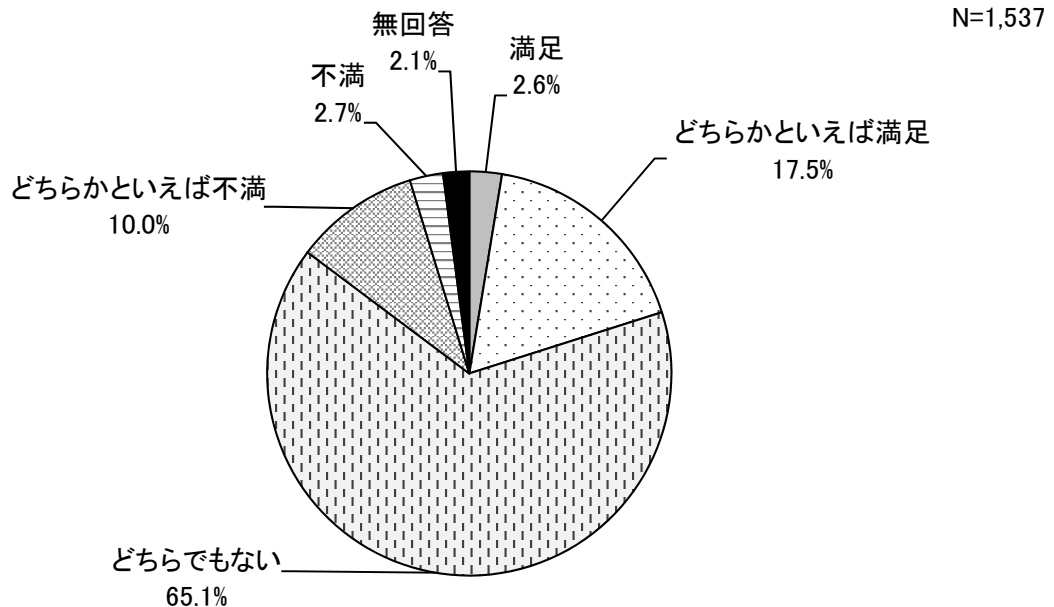
【職業別】



■ 名称や内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 名称も内容も知らない ■ 無回答

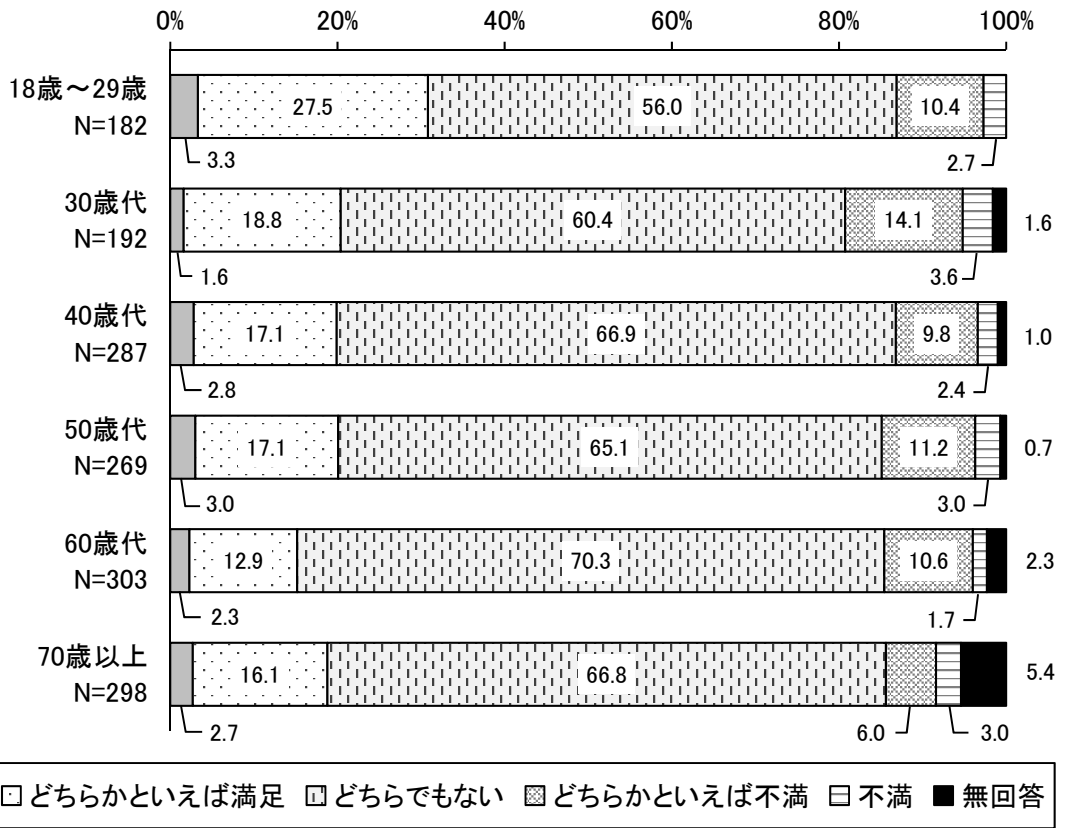
問17 あなたは浜松市のユニバーサルデザインによるまちづくりについてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

ユニバーサルデザインによるまちづくりに『満足である』人は20.1%

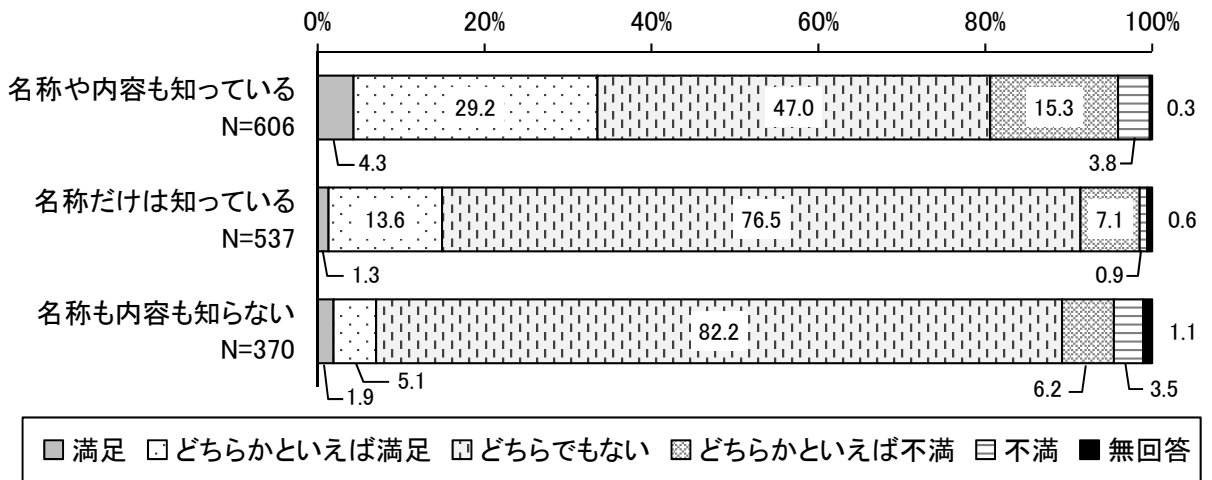


- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は20.1%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』であるは12.7%となり、『満足である』が『不満である』を7.4ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は65.1%を占める。
- 年代別でみると、『満足である』の回答割合は、18歳～29歳の30.8%が最も高く、次いで30歳代の20.4%となった。一方で、60歳代の15.2%が最も低く、次いで70歳以上の18.8%が低い。
- 問16のユニバーサルデザインの認知度別でみると、「名称や内容も知っている」層の『満足である』は33.5%となり、「名称だけは知っている」層（14.9%）や「名称も名前も知らない」層（7.0%）の『満足である』と比べて高い。
- ユニバーサルデザインをよく知ってもらえるよう、周知を図っていくとともに、まちづくりにおける満足度も高められるよう取り組みを進めていく。

【年代別】



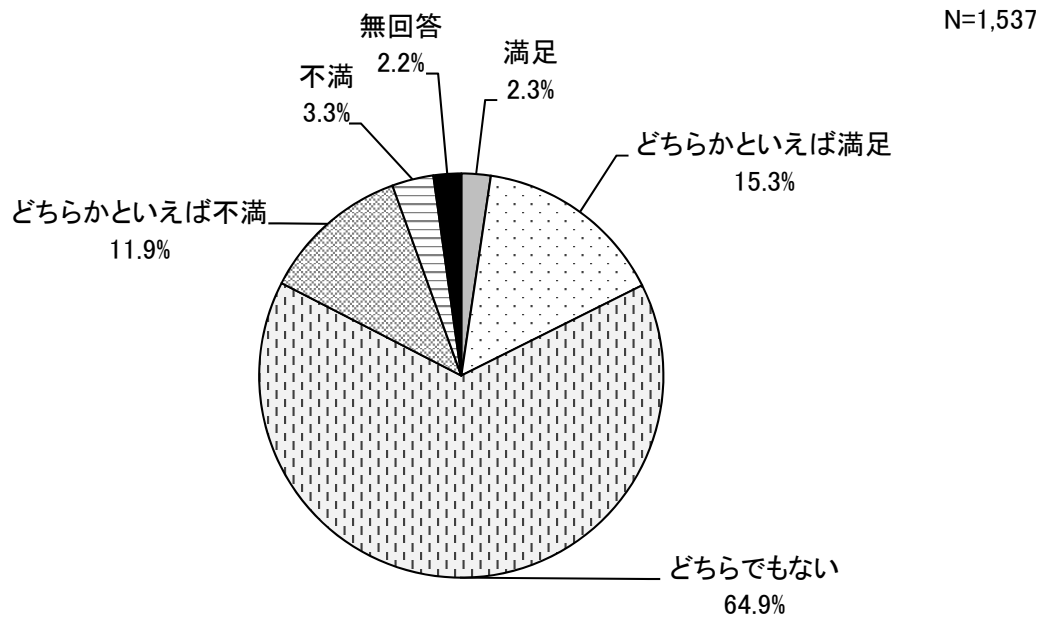
【問 16 ユニバーサルデザインの認知度別】



問 18 あなたは浜松市の男女共同参画社会*の実現に向けた取り組みについてどのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

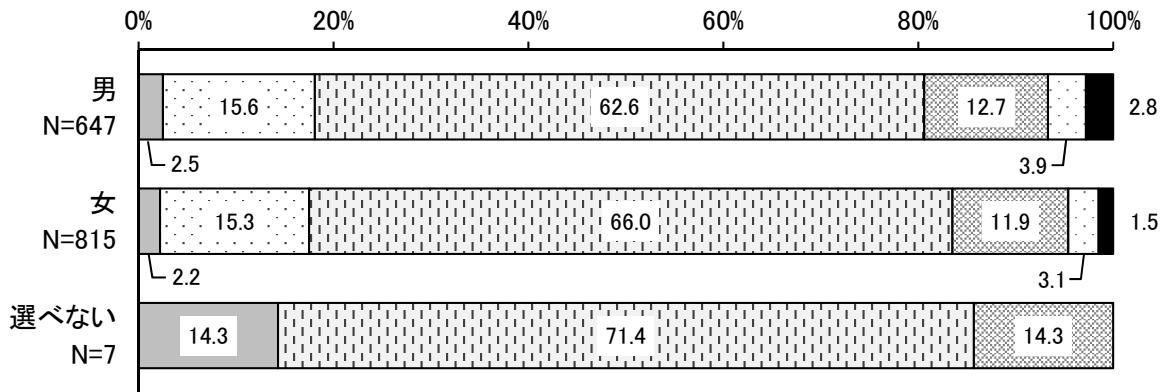
* 男女共同参画社会とは、男女が共に、対等の立場で、自らの意志によって社会のあらゆる分野に参画できる社会のことです。

男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて『満足である』人は 17.6%



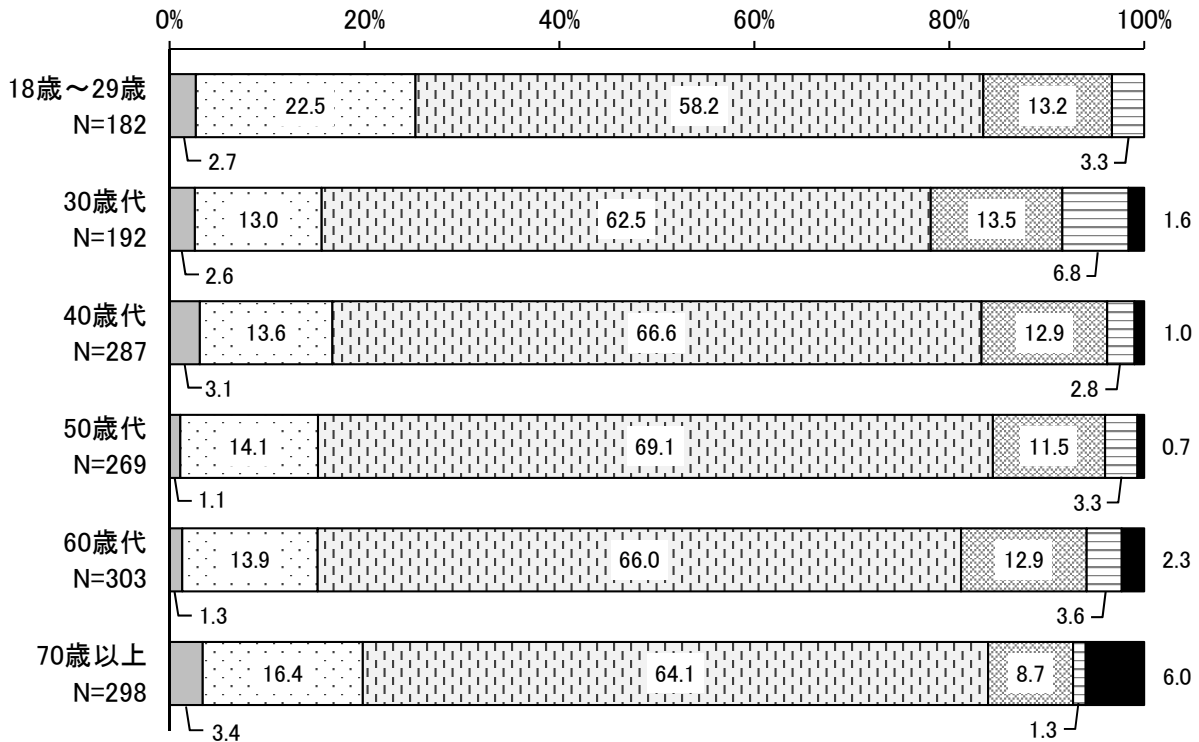
- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は 17.6%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』であるは 15.2%となり、『満足である』が『不満である』を 2.4 ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は 64.9%を占める。
- 性別でみると、『満足である』の回答割合は、男性が 18.1%、女性が 17.5%、選べないが 14.3%となり、男性がやや高い結果となった。
- 年代別でみると、『満足である』の回答割合は、18 歳～29 歳の 25.2%が最も高く、次いで 70 歳以上の 19.8%となった。『不満である』の回答割合は、30 歳代の 20.3%が最も高い結果となった。
- 「どちらでもない」が 64.9%と非常に大きな割合を占めることから、「男女共同参画社会の実現」が未だ一般的にイメージしにくいものと推察される。さらなる取り組みを進めるとともに、男女共同参画推進の意義について、より一層の周知啓発や情報発信に努めていく。

【性別】



■ 満足 □ どちらかといえば満足 ▨ どちらでもない ▩ どちらかといえば不満 □ 不満 ■ 無回答

【年代別】

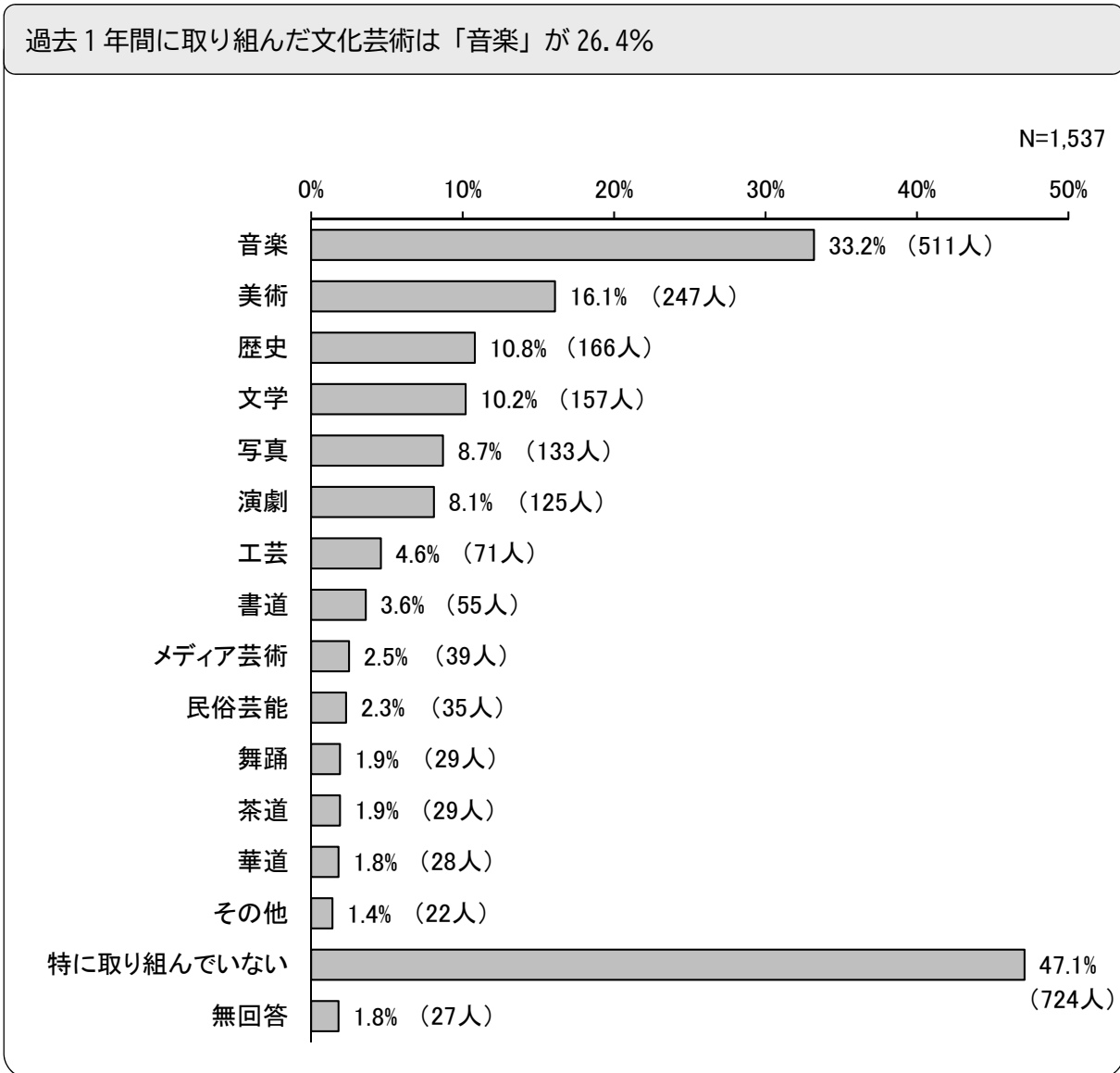


■ 満足 □ どちらかといえば満足 ▨ どちらでもない ▩ どちらかといえば不満 □ 不満 ■ 無回答

2-6 文化振興について

問19 あなたは、過去1年間にどのような文化芸術に取り組みましたか。鑑賞などサービスの受け手として楽しんだものを含みます。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

過去1年間に取り組んだ文化芸術は「音楽」が26.4%



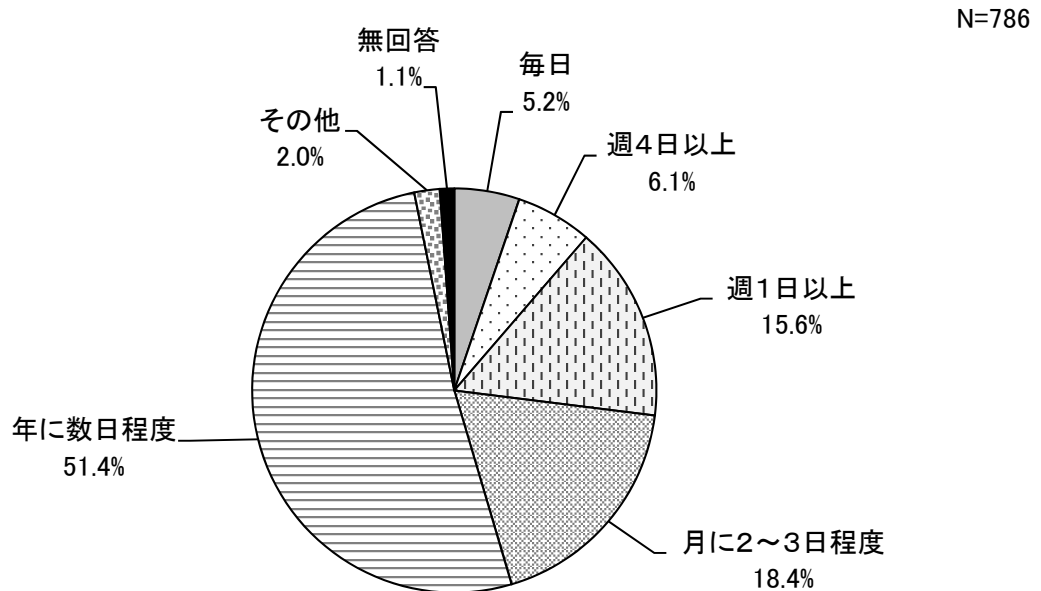
- 取り組んだ芸術は、「音楽」が33.2%と最も高く、次いで美術の16.1%となった。一方で、「特に取り組んでいない」については47.1%と半数に近い回答結果となった。
- 性別でも、「音楽」が最も高く、男性が32.6%、女性が35.0%、選べないが28.6%となった（選べないは「歴史」と「文学」も同率）。
- 年齢別でもすべての年代で「音楽」が最も高い。なかでも18歳～29歳においては51.6%と、他の年代の2～3割台と比べて高い回答結果となった。

【性別・年代別】

		音楽	美術	歴史	文学	写真	演劇	工芸	書道	メディア芸術	民俗芸能	舞踊	茶道	華道	その他	特に取り組んでいない	無回答
性別	男 N=647	32.6	13.4	13.8	9.0	11.6	4.9	5.1	2.2	2.6	3.1	1.1	1.4	0.5	1.9	47.6	1.2
	女 N=815	35.0	18.7	8.0	11.0	6.5	10.9	4.3	4.4	2.7	1.6	2.7	2.3	2.9	1.2	46.3	2.1
	選べない N=7	28.6	14.3	28.6	28.6	-	-	14.3	-	-	-	-	-	14.3	-	57.1	-
年代別	18歳～29歳 N=182	51.6	14.8	9.3	11.5	18.1	12.6	2.7	5.5	7.1	1.6	1.6	2.7	2.2	0.5	34.6	-
	30歳代 N=192	30.7	11.5	9.9	8.9	5.2	5.7	5.7	2.6	2.1	1.6	0.5	1.0	0.5	1.0	55.7	0.5
	40歳代 N=287	32.1	15.3	13.9	10.5	9.4	5.9	4.5	4.2	2.4	3.1	1.0	2.4	1.0	1.0	50.2	1.4
	50歳代 N=269	35.3	21.2	13.0	14.5	8.6	12.3	4.5	3.0	3.7	1.1	2.2	1.5	3.0	1.1	42.8	1.5
	60歳代 N=303	28.1	17.2	11.6	9.2	8.3	6.6	5.0	2.6	1.3	1.7	2.0	2.3	2.0	0.7	47.9	2.0
	70歳以上 N=298	28.2	15.1	6.7	7.4	5.0	6.7	5.0	4.0	0.3	4.0	3.4	1.3	2.0	3.7	49.0	4.0

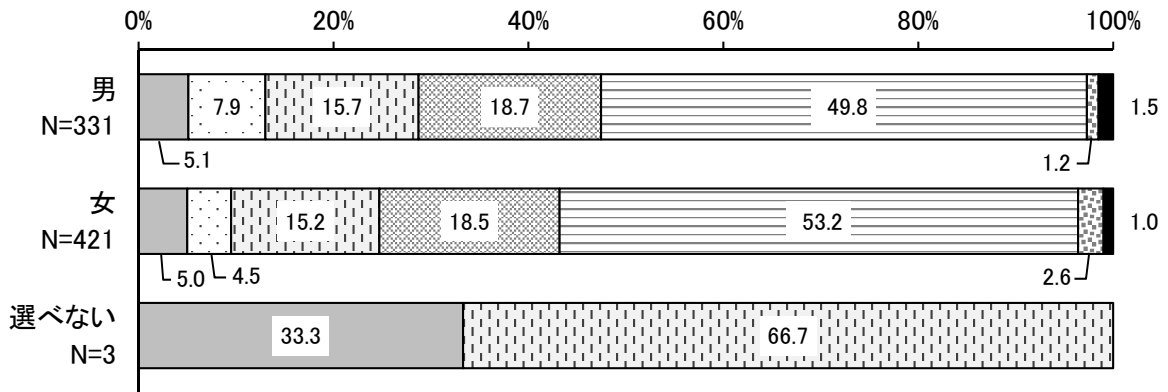
問20 あなたは、問19で回答した文化芸術についてどのくらいの頻度で取り組んでいますか。
(問19で選んだもののうち最も力を入れているものに関して1つだけ○を付けてください)

文化芸術に取り組む頻度は『月に2日以上』が45.3%



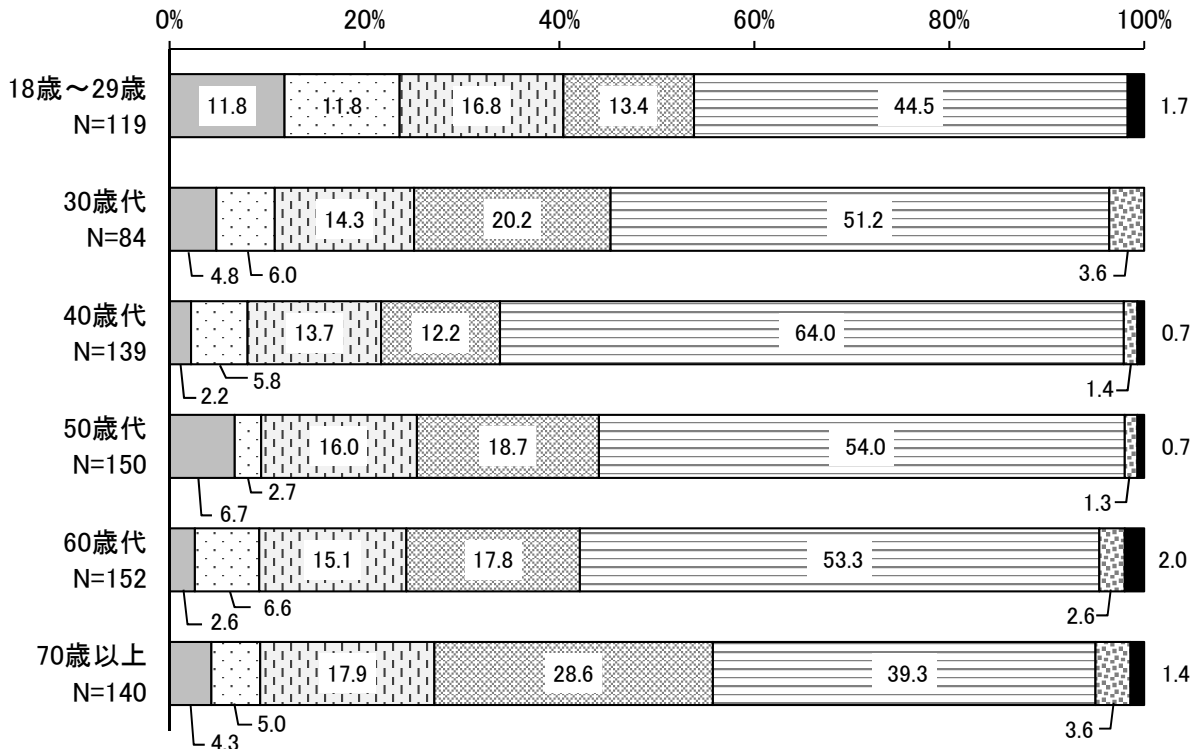
- 「年に数回程度」が51.4%と最も高く、次いで「月に2～3日程度」の18.4%となった。総じて取り組む頻度が少ないほど回答割合は高い。『月に2日以上』は45.3%となった。
- 性別でみると、『月2日以上』の回答割合は、男性が47.4%、女性が43.2%、選べないが100.0%となった。男女別では男性の方が高い。
- 年代別でみると、『月2日以上』の回答割合は、70歳以上が55.8%と最も高く、次いで18歳～29歳の53.8%となった。40歳代の33.9%が最も低い。

【性別】



■ 毎日 □ 週4日以上 ▨ 週1日以上 ▩ 月に2~3日程度 ▪ 年に数日程度 ▧ その他 ■ 無回答

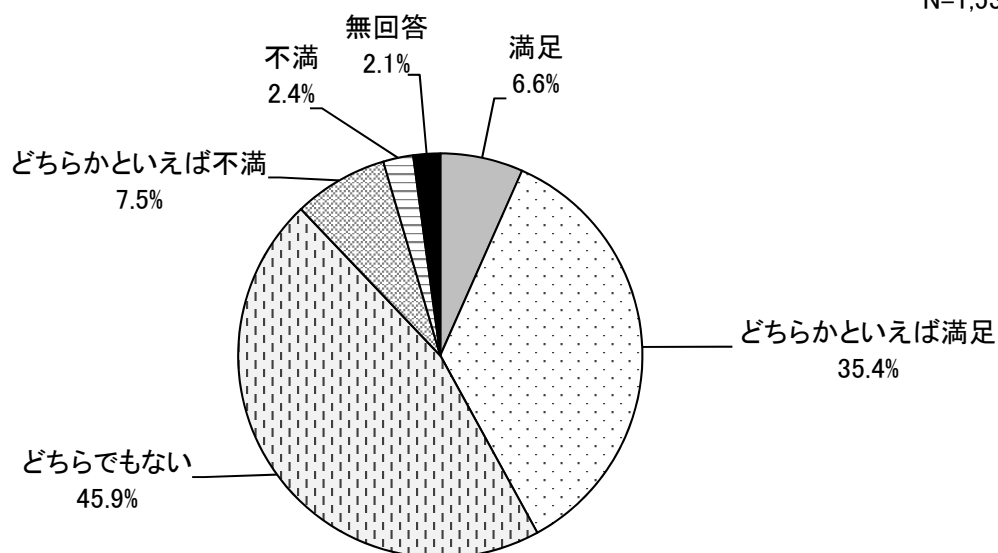
【年代別】



■ 毎日 □ 週4日以上 ▨ 週1日以上 ▩ 月に2~3日程度 ▪ 年に数日程度 ▧ その他 ■ 無回答

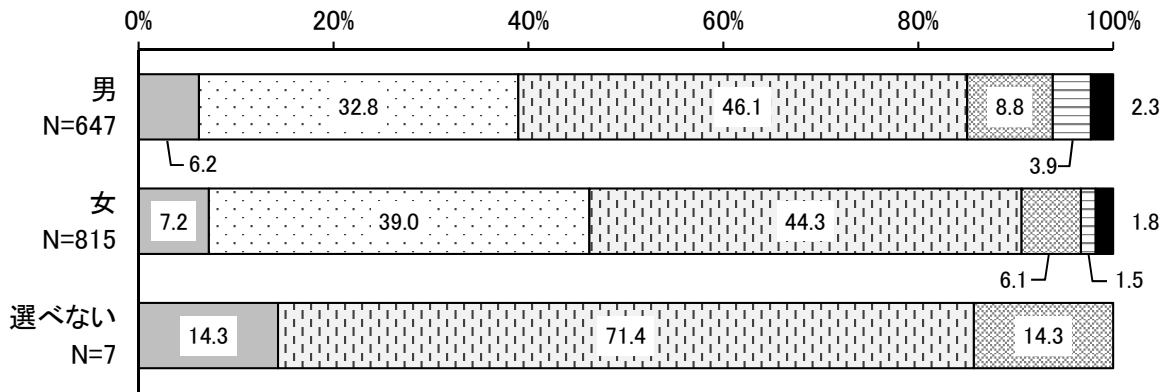
問 21 あなたは音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。(1つだけ○を付けてください)

音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組みについて『満足である』は42.0%



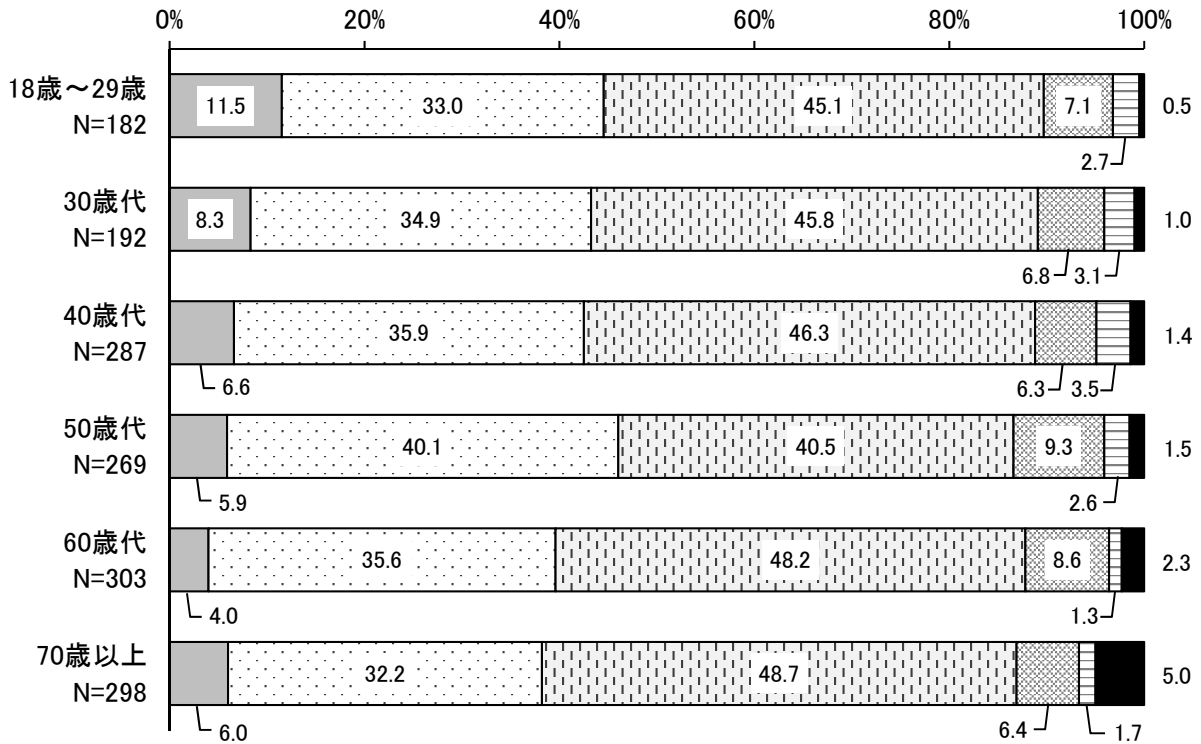
- 「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』は42.0%となった。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた『不満である』は9.9%となり、『満足である』が『不満である』を32.1ポイント上回った。一方で「どちらでもない」は45.9%と半数に近い。
- 性別で見ると、『満足である』は、男性が39.0%、女性が46.2%、選べないが14.3%となった。男女別では女性の方が7.2ポイント高い。
- 年代別で見ると、『満足である』は、50歳代の46.0%が最も高く、次いで18歳～29歳の44.5%となった。60歳代以上は4割を下回る回答結果となった。
- 国内外の創造都市との連携・交流を通じて浜松市を広く発信するとともに、市民の創造的活動に対する支援、人材の育成などを通じ、文化と産業活動の連携で発展する創造都市・浜松の実現を目指す。また、都市ブランドとしての音楽文化の国内外への発信と交流を促進し、魅力ある音楽文化を求めて人々が集まる「音楽の都」づくりを進めていく。

【性別】



■ 満足 □ どちらかといえば満足 ▨ どちらでもない ▩ どちらかといえば不満 ▪ 不満 ■ 無回答

【年代別】



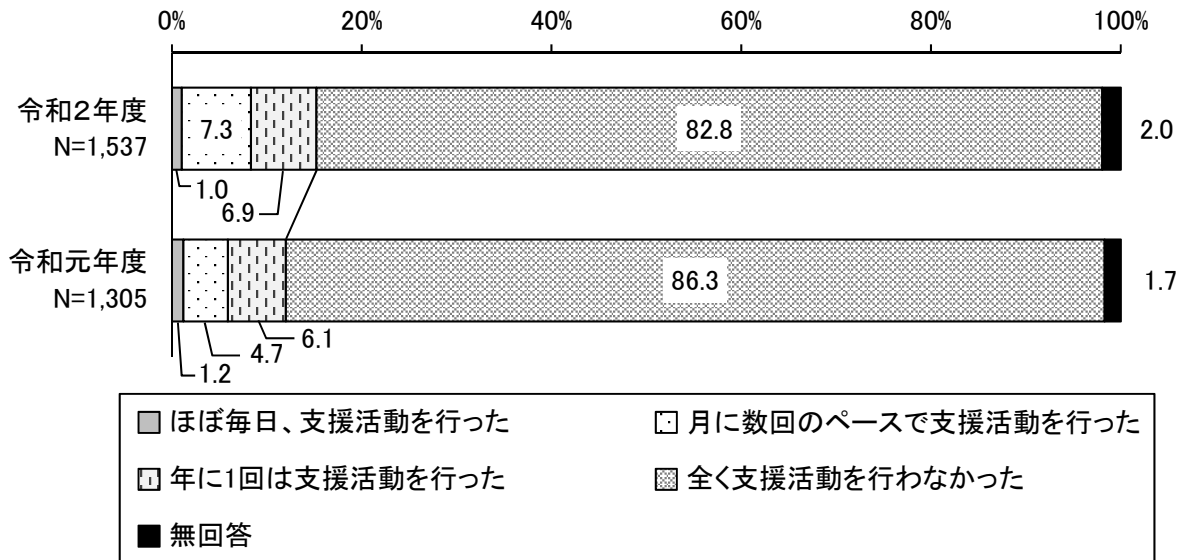
■ 満足 □ どちらかといえば満足 ▨ どちらでもない ▩ どちらかといえば不満 ▪ 不満 ■ 無回答

2-7 スポーツの推進について

問 22 あなたは、過去1年間にスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。

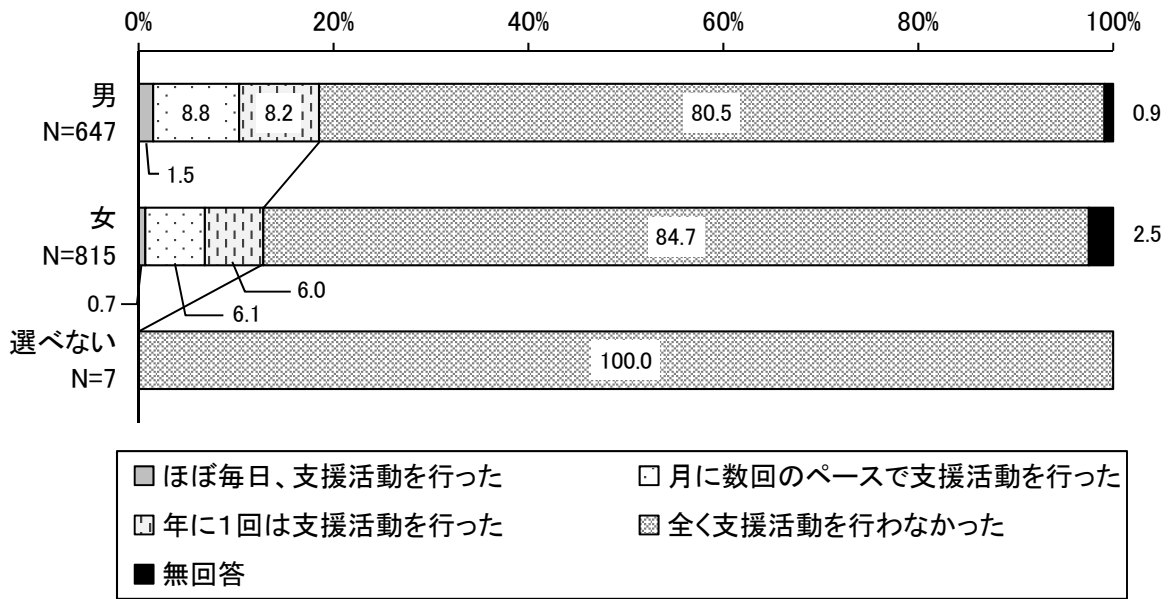
スポーツイベントや各種競技の大会におけるボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小・中学校、高校、大学の部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。(1つだけ○を付けてください)

スポーツ活動の支援を『年1回以上』行った人は15.2%

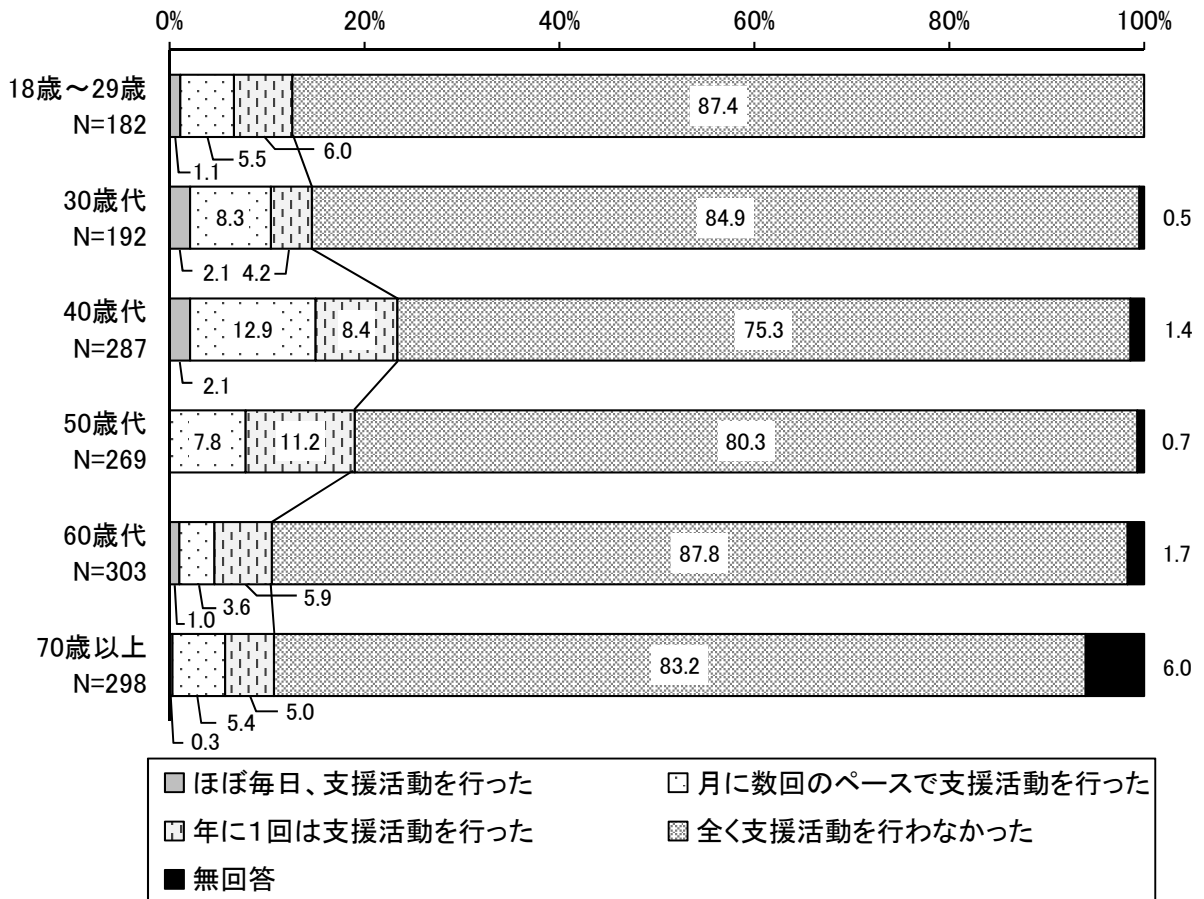


- 「ほぼ毎日、支援活動を行った」、「月に数回のペースで支援活動を行った」、「年に1回は支援活動を行った」を合わせた『年1回以上』は15.2%となった。第2期浜松市スポーツ推進計画では、年1回以上のスポーツ支援実施率35%程度を目標としているが、推進計画の目標を19.8ポイント下回った。ただし令和元年度との比較では3.2ポイント上回る回答結果となった。
- 性別でみると、『年1回以上』と回答した割合は、男性が18.5%、女性が12.8%、選べないが0.0%となった。男女別では男性の方が5.7ポイント高い。
- 年代別でみると、『年1回以上』の回答割合は40歳代の23.4%が最も高く、次いで50歳代の19.0%となった。自らの子供が部活動やスポーツクラブなどに所属し、保護者として手伝う機会が多いためと考えられる。
- 多くの年代に支援の動きが広がるよう、スポーツイベントなどにおけるボランティア活動の醸成や指導の支援者を増やす取り組みも求められる。

【性別】

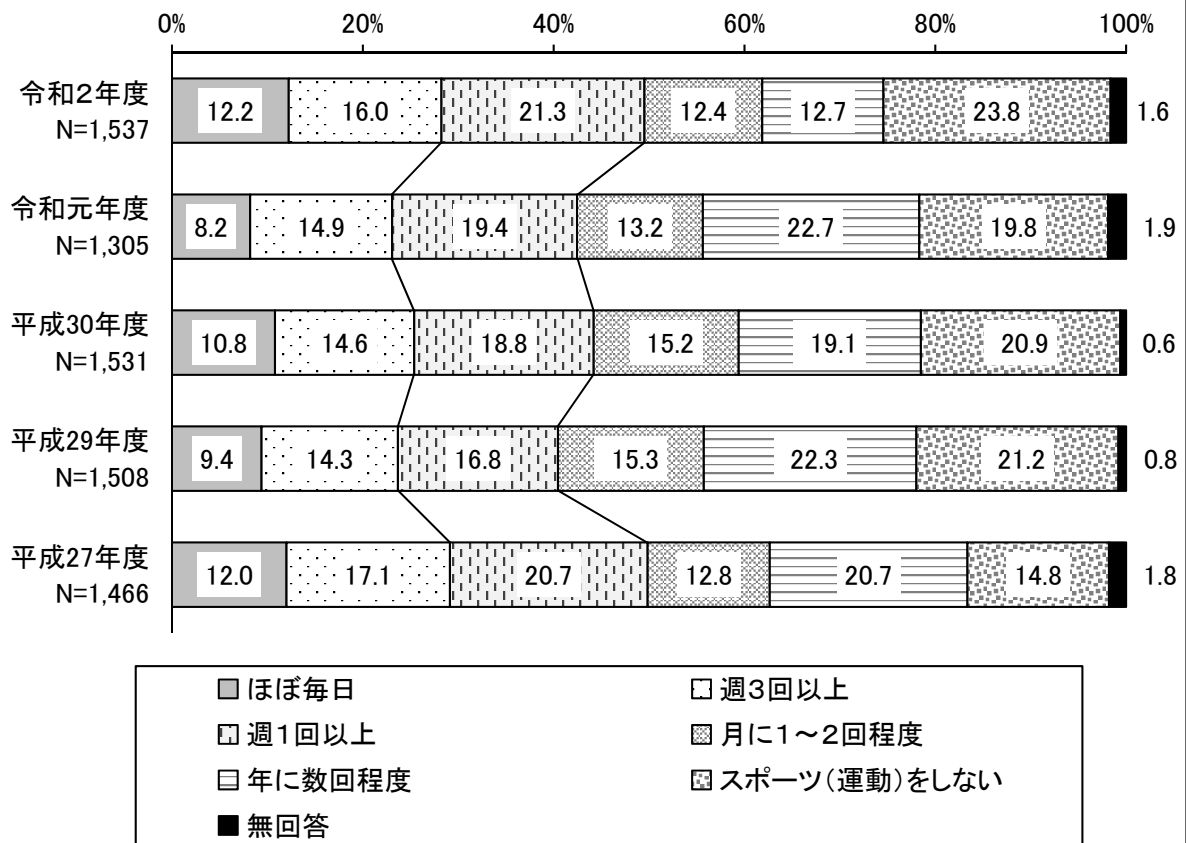


【年代別】



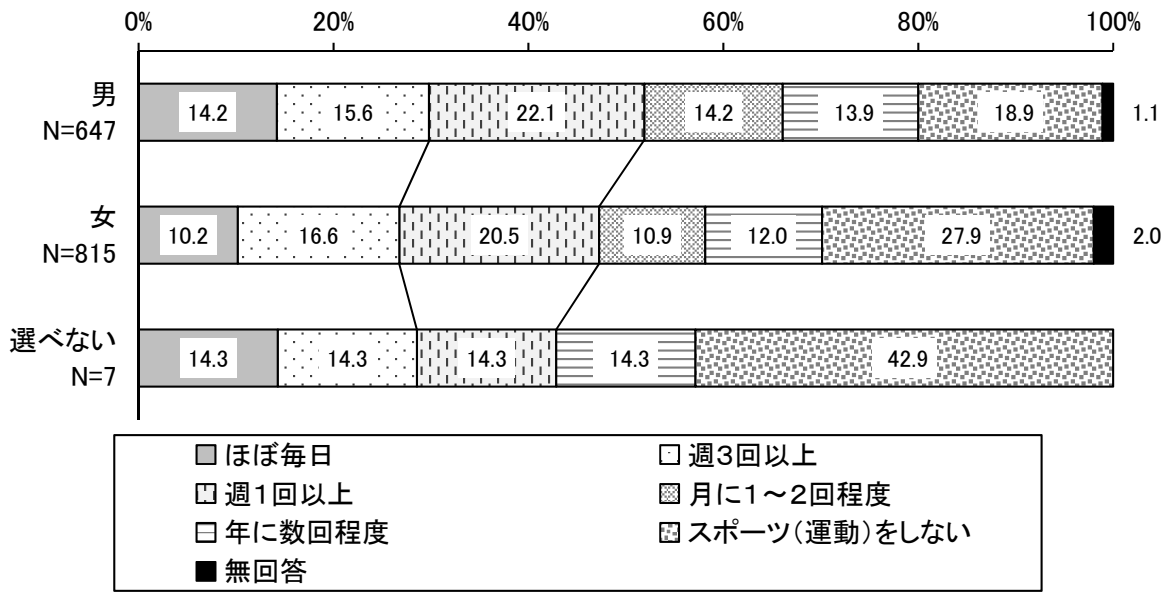
問 23 あなたは、過去1年間でスポーツ（運動）をどの程度行いましたか。
 身体を動かすことを目的としたもの（ウォーキングや階段昇り降りなど）から本格的な競技スポーツ
 まで、あらゆる運動を含みます。（1つだけ○を付けてください）

スポーツを『週1回以上』行っている人は49.5%

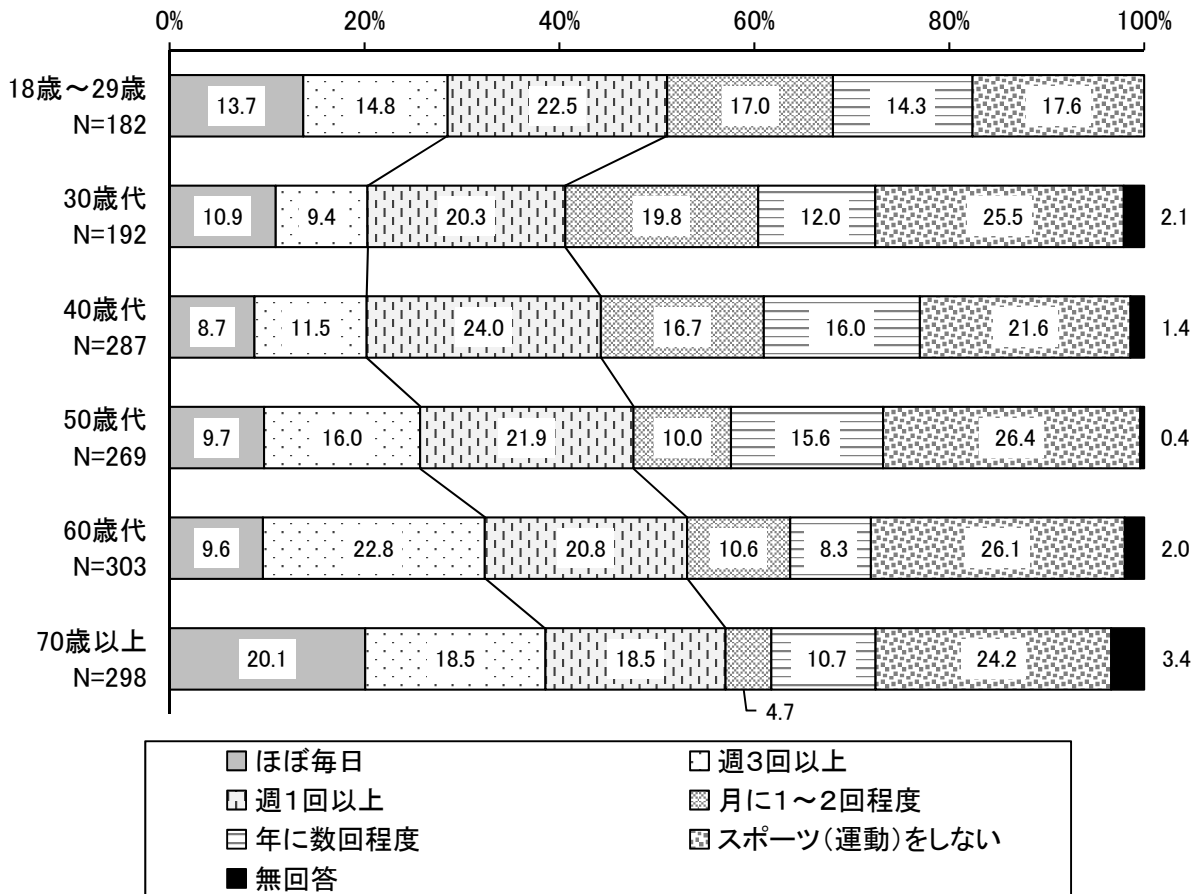


- 「ほぼ毎日」、「週3回以上」を合わせた『週3回以上』は28.2%となった。令和元年度との比較では5.1ポイントの増加となった。『週3回以上』と「週1回以上」を合わせた『週1回以上』は49.5%となった。令和元年度との比較では7.0ポイントの増加となった。第2期浜松市スポーツ推進計画ではスポーツ実施率を、週3回以上で30%程度、週1回以上で65%程度を数値目標としているが、『週3回以上』では目標値を1.8ポイント下回るとともに、『週1回以上』は目標値を15.5ポイント下回った。
- 性別で見ると、『週1回以上』では男性が51.9%、女性が47.3%、選べないが42.9%となった。男女別では男性の方が4.6ポイント高い。
- 年代別で見ると、18~29歳を除き、若い世代ほど実施割合が低い。
- スポーツに対するイメージは激しい運動や勝敗を競うことと捉えている人が多いが、「スポーツ基本法」では「健康維持や仲間との交流など多様な目的で行うものもスポーツである」と捉えている。皆が日常の中で楽しんで実施する身体活動もスポーツに含まれるということ共有し、スポーツの捉え方の意識改革を図ることが大切である。特に、子育てや働き盛り世代において、楽しく体を動かすよう働きかけを進めていくことが必要である。

【性別】

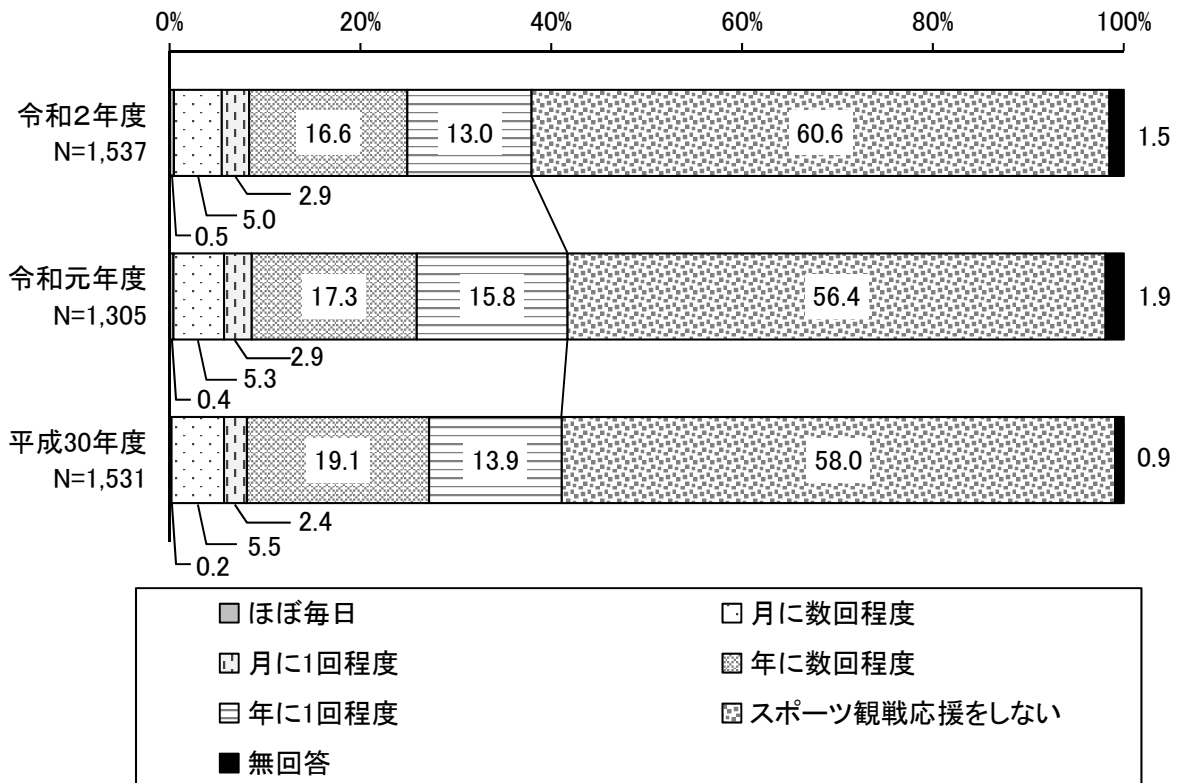


【年代別】



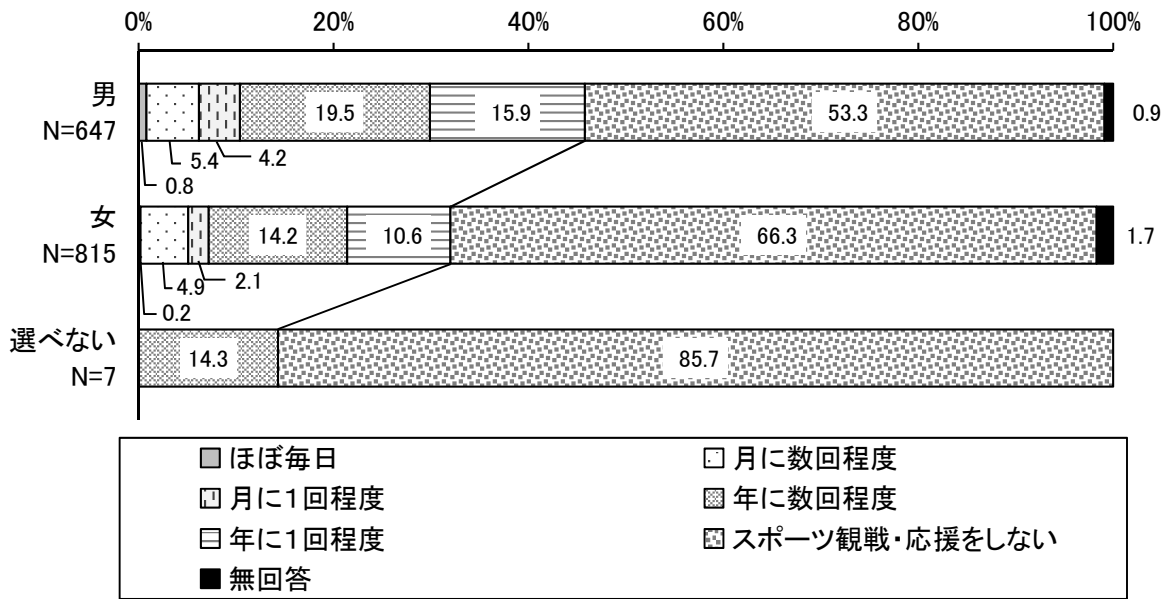
問 24 あなたは、過去1年間で実際に会場に出向いてスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。プロスポーツだけでなく、地域のスポーツ活動や少年団などの観戦・応援も含まれます。
(1つだけ○を付けてください)

スポーツ観戦・応援を『年1回以上』行った人は38.0%

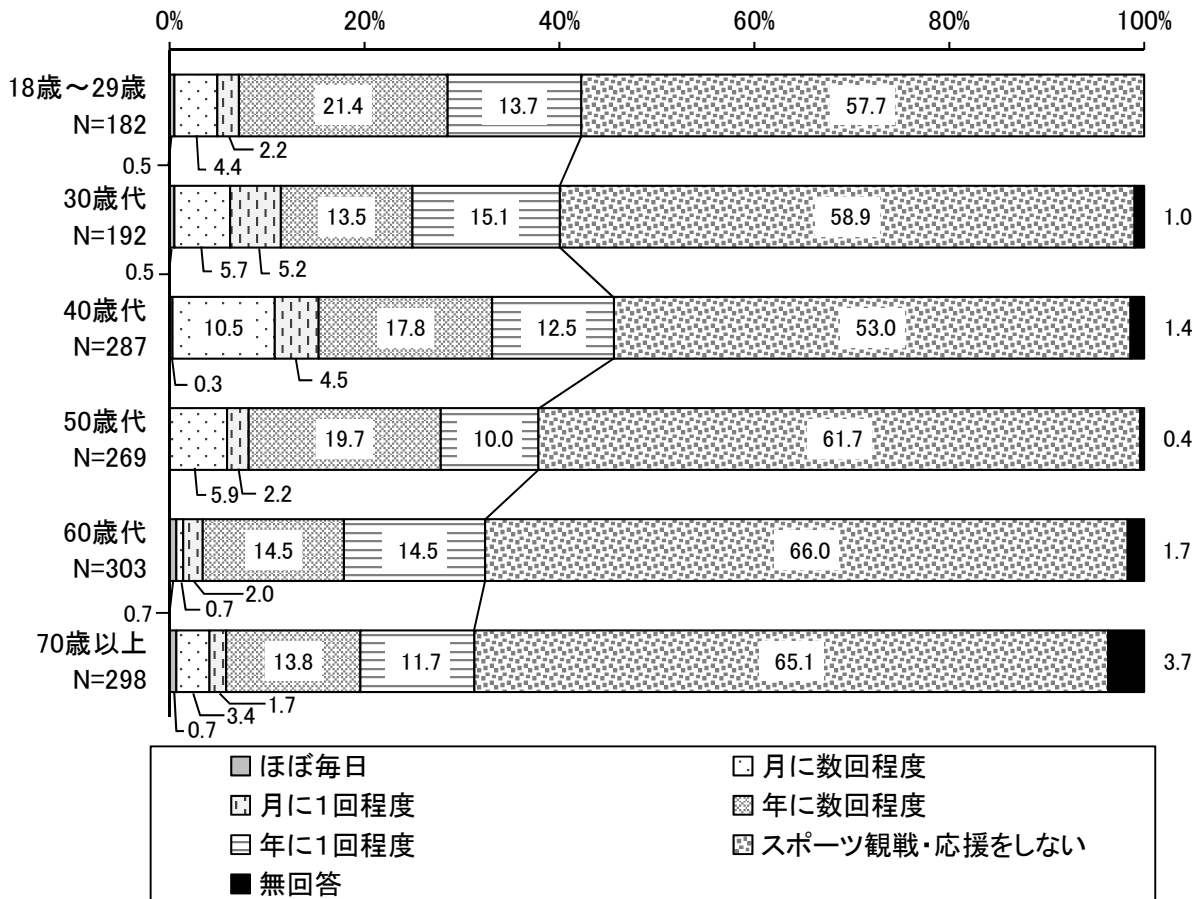


- 「ほぼ毎日」、「月に数回程度」、「月に1回程度」、「年に数回程度」、「年に1回程度」を合わせた『年1回以上』は38.0%となった。第2期浜松市スポーツ推進計画では、年1回以上のスポーツ観戦・応援実施率を50%程度を目標としているが、推進計画の目標を12.0ポイント下回った。また、令和元年度との比較では3.7ポイント下回る回答結果となった。
- 性別で見ると、『年1回以上』は男性が45.8%、女性が32.0%、選べないが14.3%となった。男女別では男性の方が13.8ポイント高い。
- 年代別で見ると、『年1回以上』は40歳代の45.6%が最も高い。これは、問22のスポーツ活動の支援の頻度において、40歳代の回答割合が最も高いのと同様に、自らの子供が参加するスポーツ活動の試合も観戦していることが要因の1つと考えられる。
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、スポーツと身近に接する機会創出のための施策を進めていく。

【性別】



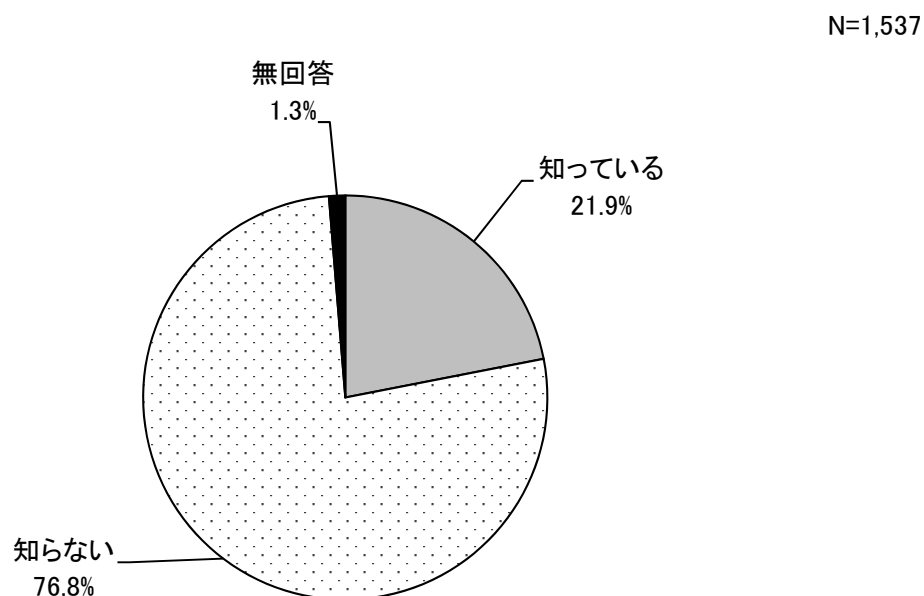
【年代別】



2-8 ブラジルホストタウンの取り組みについて

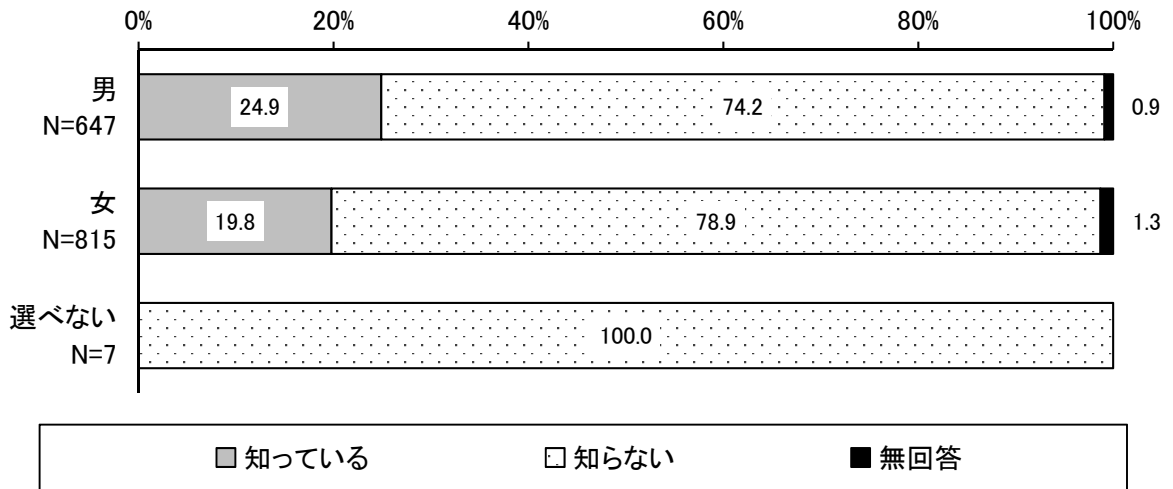
問 25 あなたは、浜松市が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるブラジルのホストタウンとして、ブラジル選手団の事前合宿を受け入れることをご存じですか。（1つだけ○を付けてください）

ブラジルホストタウンとして、ブラジル選手団の事前合宿を受け入れることを「知っている」人は 21.9%

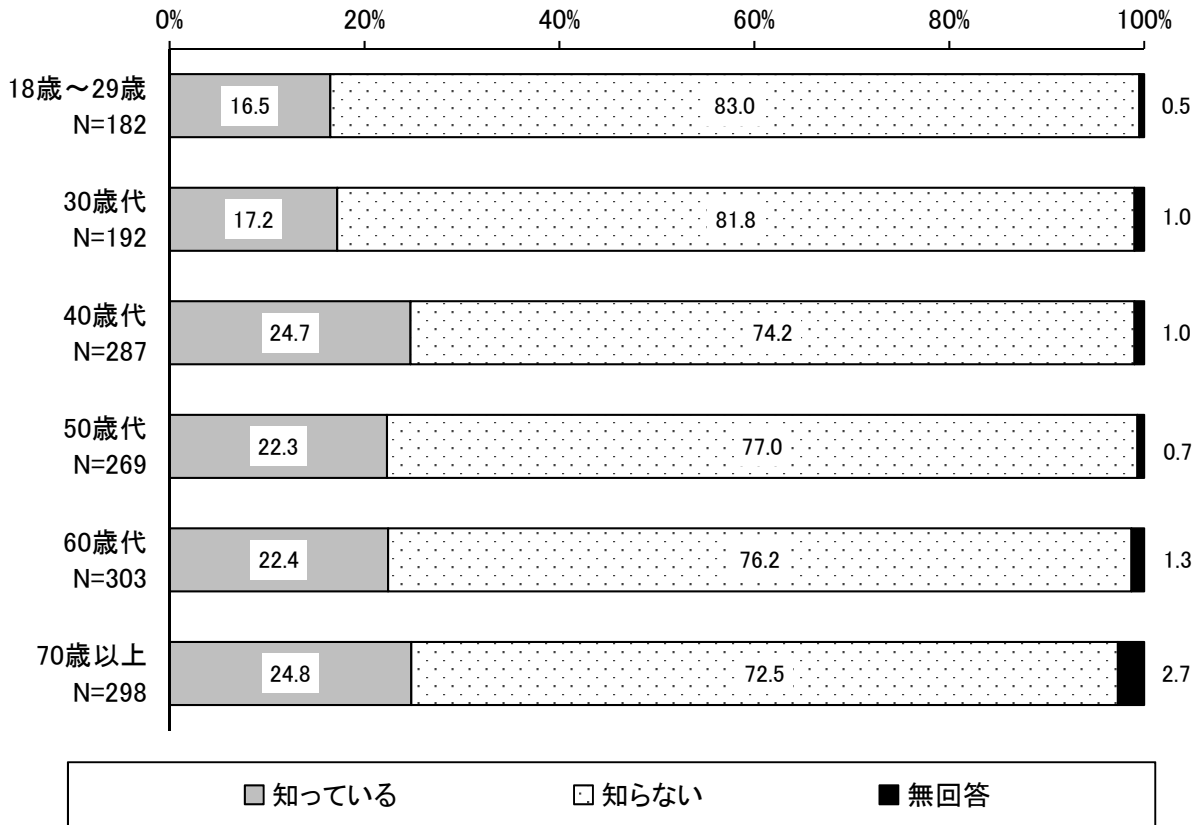


- 「知っている」が 21.9%となり、「知らない」の 76.8%を大きく下回った。
- 性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、男性が 24.9%、女性が 19.8%、選べないが 0.0%となった。
- 年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、70 歳以上の 24.8%が最も高く、次いで 40 歳代の 24.7%となった。40 歳代以上で 2 割を超えているのに対し、30 歳代以下は 1 割台にとどまる。
- ブラジル選手団の事前合宿について、PRを強化していく。

【性別】

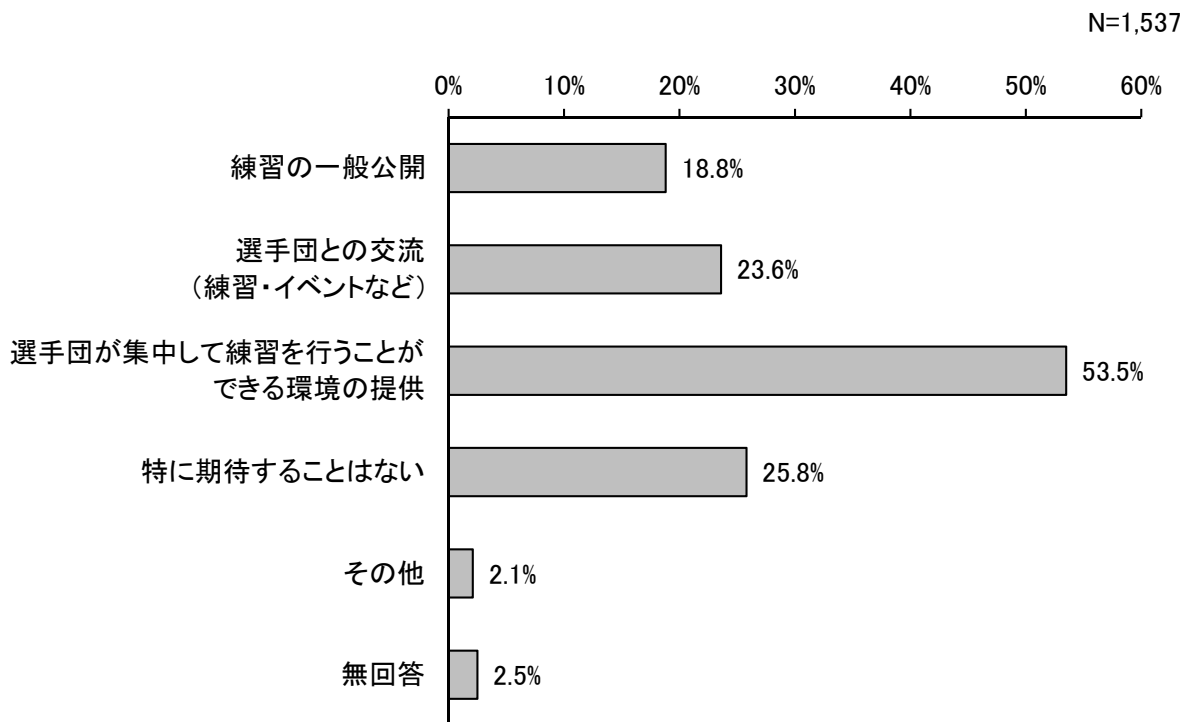


【年代別】



問 26 ブラジル選手団の事前合宿に関して、浜松市に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

ブラジル選手団の事前合宿に関して期待することは「選手団が集中して練習を行うことができる環境の提供」が 53.5%



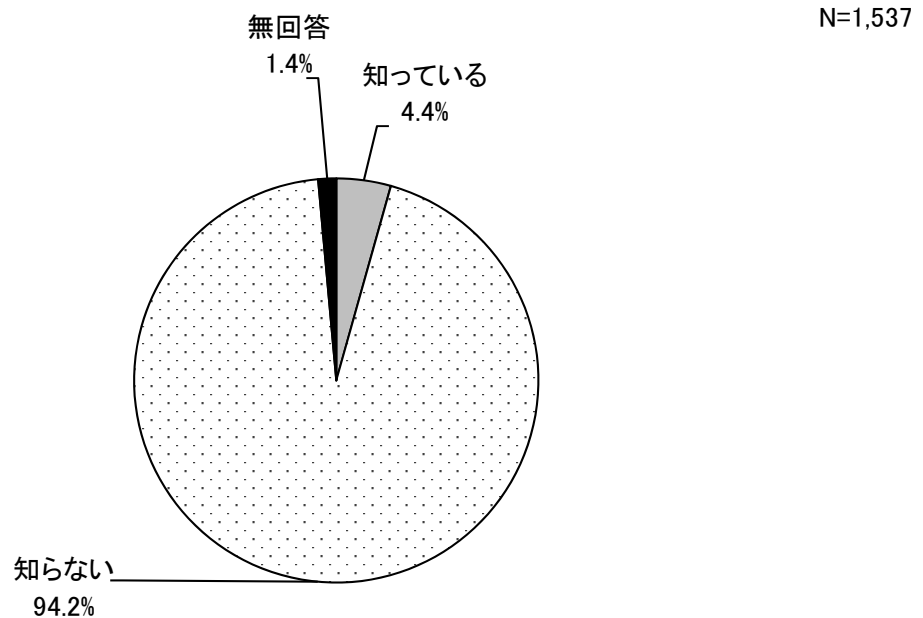
- 「選手団が集中して練習を行うことができる環境の提供」が 53.5%と最も高く、「選手団との交流（練習・イベントなど）」と「特に期待することはない」が2割台となった。
- 性別で見ると、男性と女性で「選手団が集中して練習を行うことができる環境の提供」が最も高く、男性が 50.9%、女性が 56.4%となった。選べないは「特に期待することはない」が最も高く、57.1%となった。
- 年代別で見ると、「選手団が集中して練習を行うことができる環境の提供」が最も高く、特に 50 歳代では 60.6%と6割を超える。

【性別・年代別】

		練習の一般公開	選手団との交流 (練習・イベントなど)	選手団が集中して練習を行うことが できる環境の提供	特に期待することはない	その他	無回答
性別	男 N=647	22.1	25.5	50.9	26.1	2.5	1.7
	女 N=815	16.7	22.5	56.4	24.5	1.8	2.7
	選べない N=7	-	-	42.9	57.1	-	-
年代	18歳～29歳 N=182	15.9	22.0	47.8	30.8	1.1	-
	30歳代 N=192	22.4	26.0	56.8	22.4	4.2	1.0
	40歳代 N=287	17.8	29.6	52.6	25.1	2.4	1.4
	50歳代 N=269	20.8	27.5	60.6	20.8	2.2	1.1
	60歳代 N=303	19.1	24.4	53.1	24.8	1.3	2.6
	70歳以上 N=298	16.8	13.1	49.0	31.2	2.0	7.0

問 27 ブラジル選手団の事前合宿をサポートする市民ボランティア「トルシーダ・ブラジル」をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

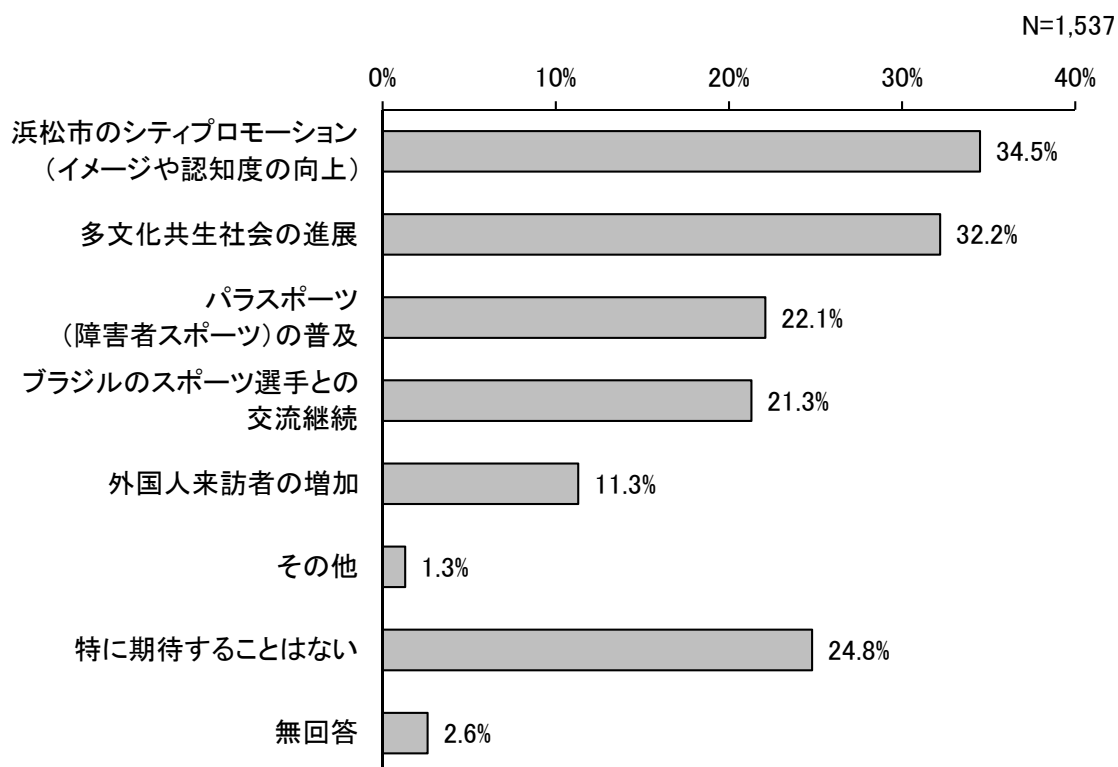
「トルシーダ・ブラジル」を「知っている」人は4.4%



- 「知っている」が4.4%となり、「知らない」の94.2%を大きく下回った。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期により、「トルシーダ・ブラジル」の活動機会がなくなっていたことが大きな要因と考えられる。
- 「トルシーダ・ブラジル」の活動について、PRを強化していく。

問 28 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会終了後のレガシー（遺産）として、期待することは何ですか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会終了後のレガシー（遺産）として、期待することは「浜松市のシティプロモーション（イメージや認知度の向上）」が 34.5%

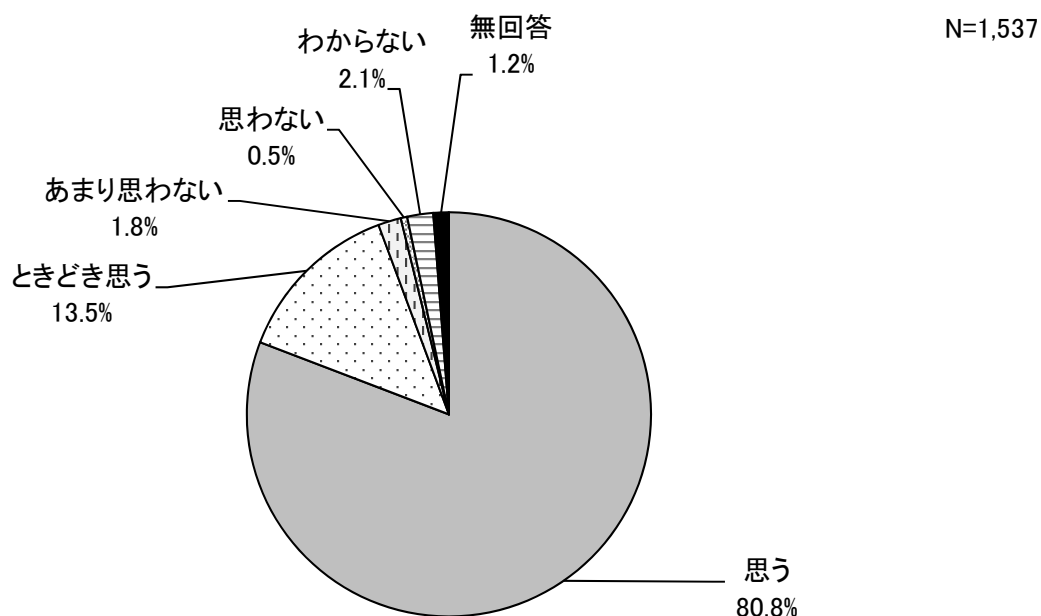


- 「浜松市のシティプロモーション（イメージや認知度の向上）」が 34.5%と最も高く、次いで「多文化共生社会の進展」が 32.2%となった。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを残すためには、ブラジル選手団の事前合宿の成功が鍵となる。オール浜松体制で万全の準備を進めていく。

2-9 人権について

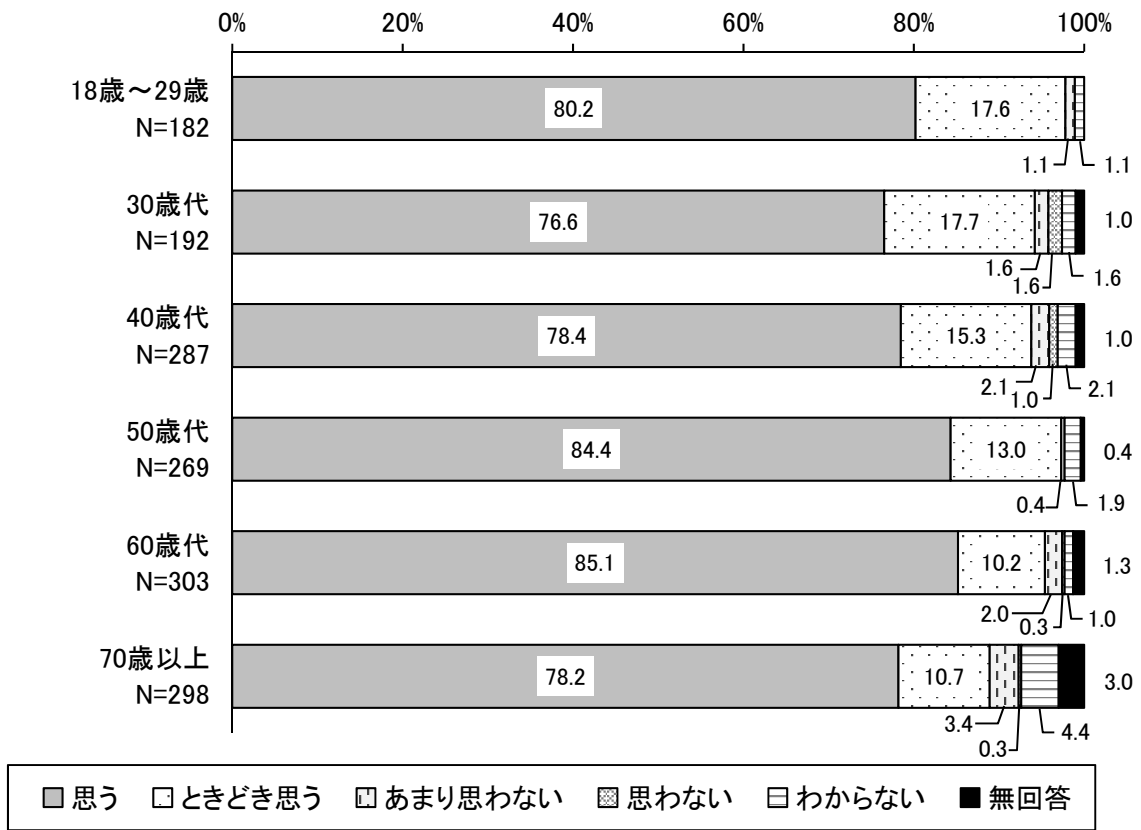
問29 あなたは、人権は重要なことだと思いますか。(1つだけ○を付けてください)

人権は『重要である』が94.3%

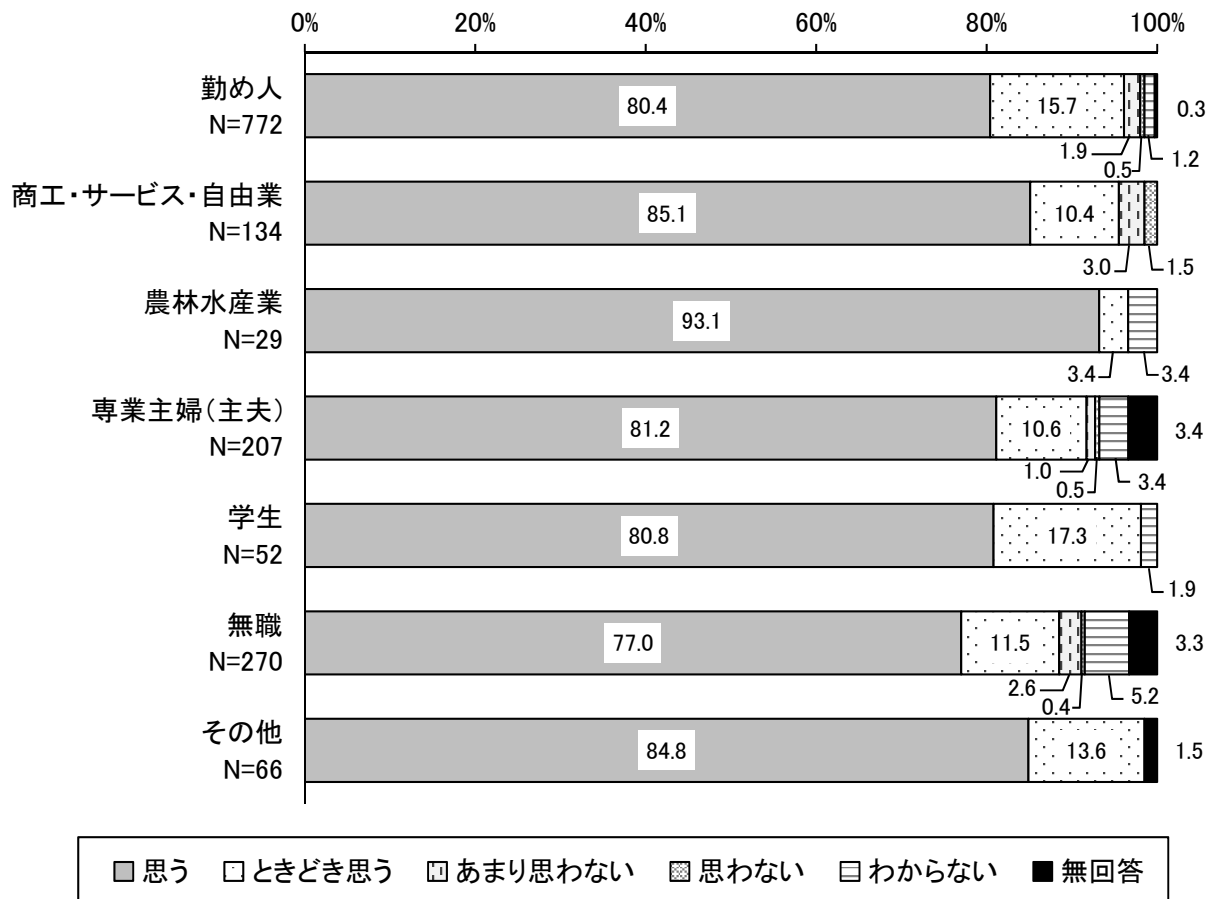


- 「思う」と「時々思う」を合わせた『重要である』は94.3%となり、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『重要でない』の2.3%を大きく上回った。
- 年代別でみると、『重要である』と回答した割合は、18歳～29歳が97.8%と最も高く、70歳以上が88.9%と最も低い。70歳以上を除くすべての年代層で9割台となった。
- 職業別でみると、『重要である』と回答した割合は、学生が98.1%と最も高く、無職が88.5%と最も低い。無職のみが8割台にとどまっている。
- 浜松市では、令和2年3月に「第2次浜松市人権施策推進計画」を策定し、人権に関する総合的な施策の推進を図っている。

【年代別】

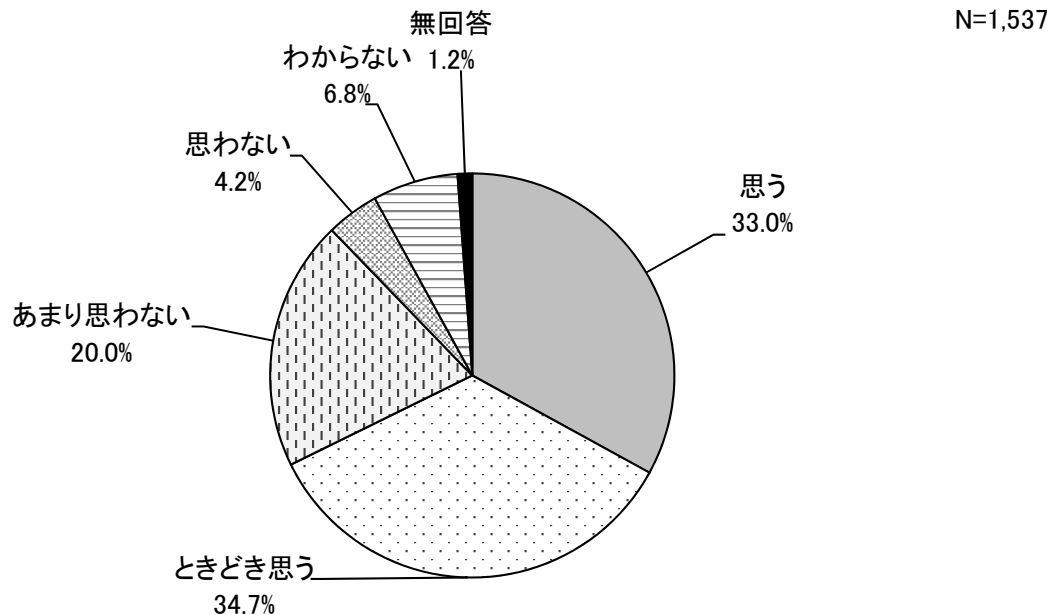


【職業別】



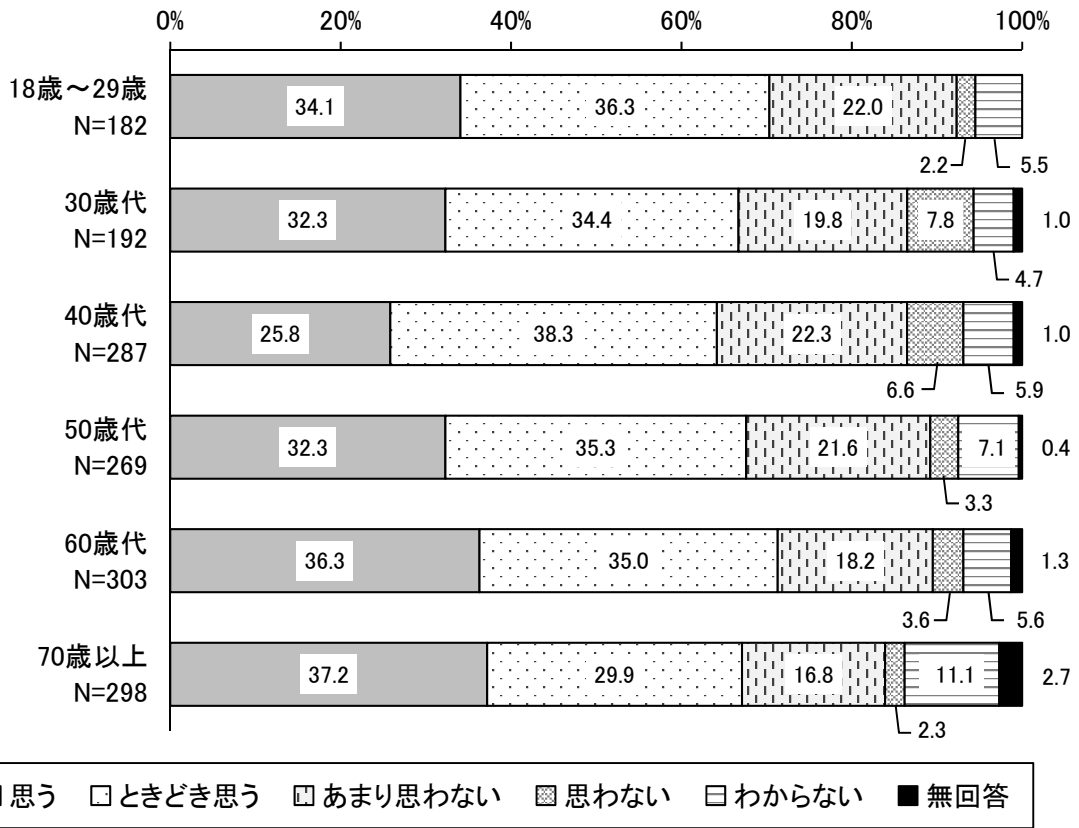
問30 あなたの周りでは、お互いの人権を守りながら生活できていると感じますか？（1つだけ○を付けてください）

お互いの人権を守りながら『生活できていると思う』人は67.7%

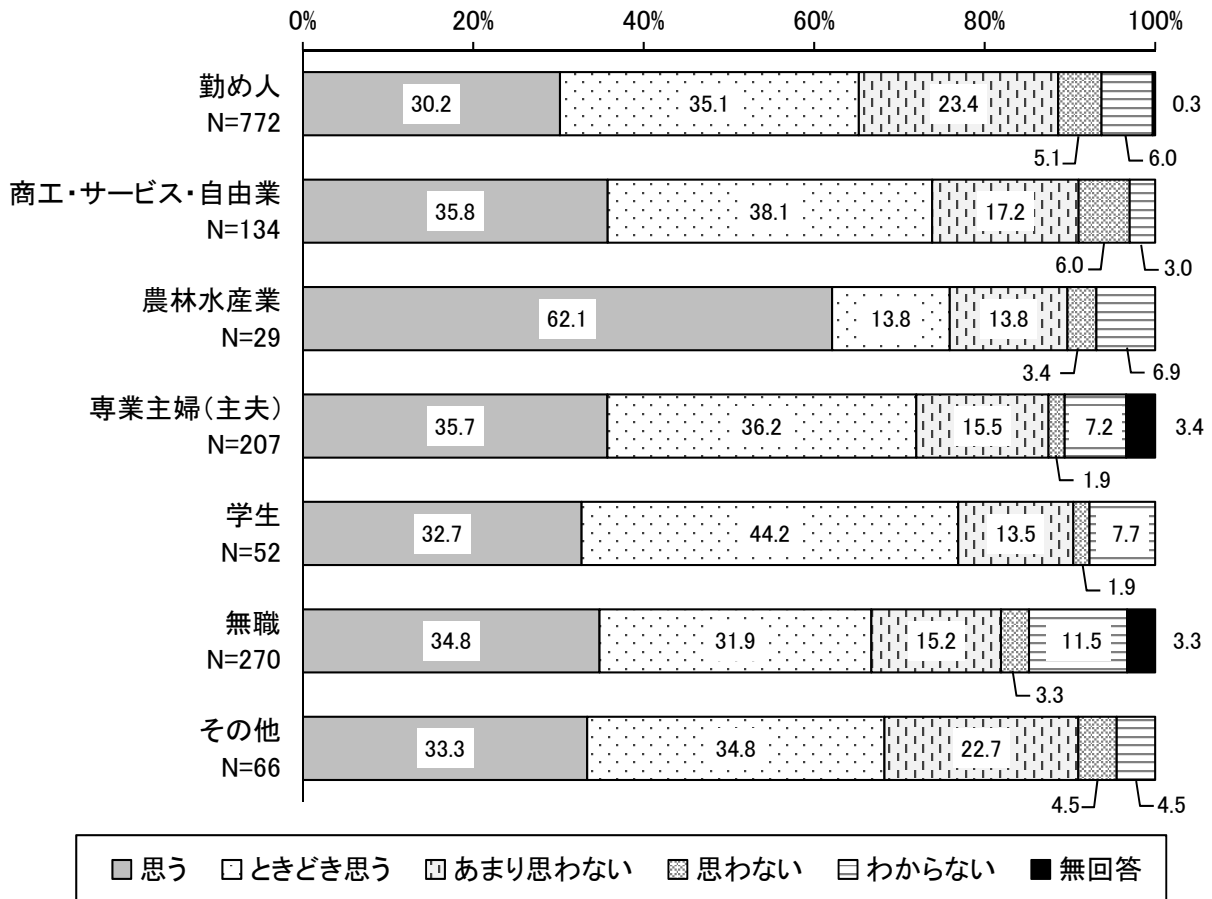


- 「思う」と「ときどき思う」を合わせた『生活できていると思う』は67.7%となり、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『生活できていると思わない』の24.2%を大きく上回った。
- 年代別でみると、『生活できていると思う』と回答した割合は、60歳代が71.3%と最も高く、次いで18歳～29歳の70.4%となった。60歳代と18歳～29歳のみ7割台となり、他の年代層は6割台となった。40歳代が64.1%と最も低い。
- 職業別でみると、『生活できていると思う』と回答した割合は、学生が76.9%と最も高く、次いで農林水産業が75.9%となった。一方、勤め人が65.3%と最も低く、次いで無職が66.7%となった。
- 企業も社会の構成員であるという考え方が定着し、社会的責任（CSR）が重要視されるようになってきていることから、企業における啓発活動およびその支援も実施していく。

【年代別】

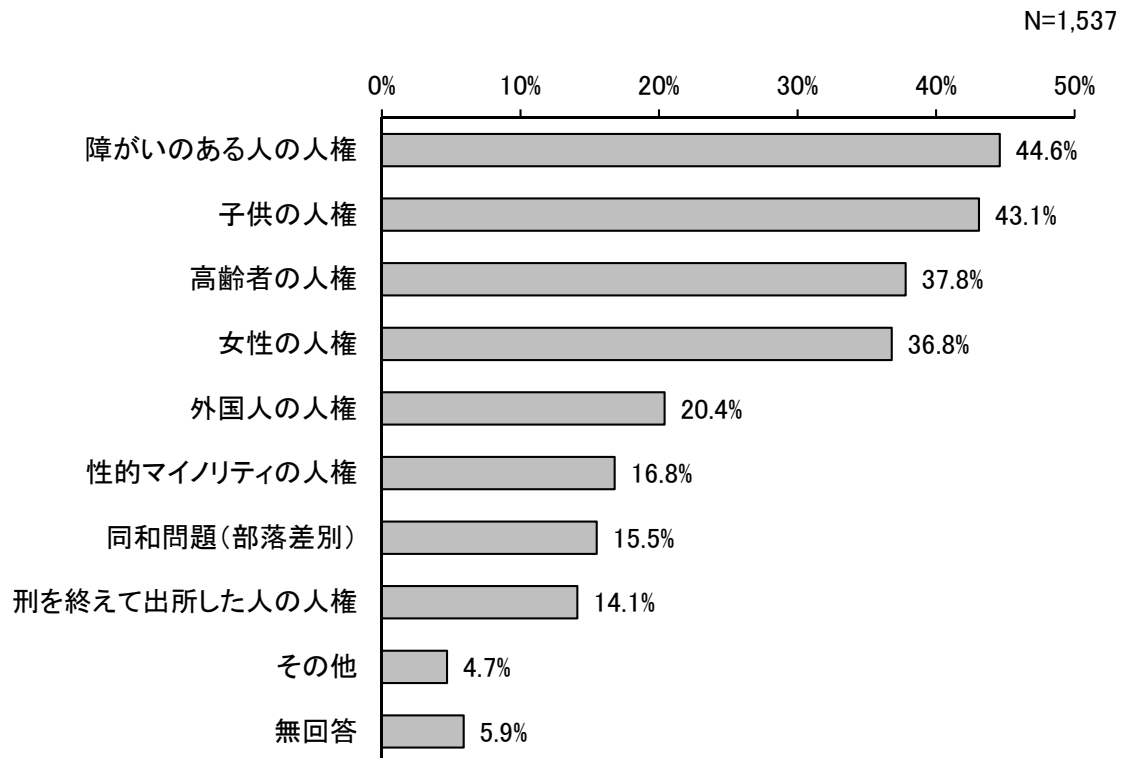


【職業別】



問 31 浜松市ではさまざまな人権に関する、講座や研修会を実施しています。あなたは、どのような人権について知りたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

知りたい人権は「障がいのある人の人権」が 44.6%



- 知りたい人権は、「障がいのある人の人権」が 44.6%と最も高く、次いで「子供の人権」が 43.1%となり、上記2項目が4割台となった。
- 性別でみると、男性と選べないでは「障がいのある人の人権」がそれぞれ 44.2%、57.1%と最も高く、女性は「女性の人権」が 49.2%と最も高い。
- 年代別でみると、18歳～29歳は「女性の人権」が最も高く、30歳代と40歳代では「子供の人権」が、50歳代では「障がいのある人の人権」が、60歳代では「障がいのある人の人権」・「高齢者の人権」が、70歳以上では「高齢者の人権」が最も高い。
- 自身に関わりのある人権について関心が高いことがうかがえる。

【性別・年代別】

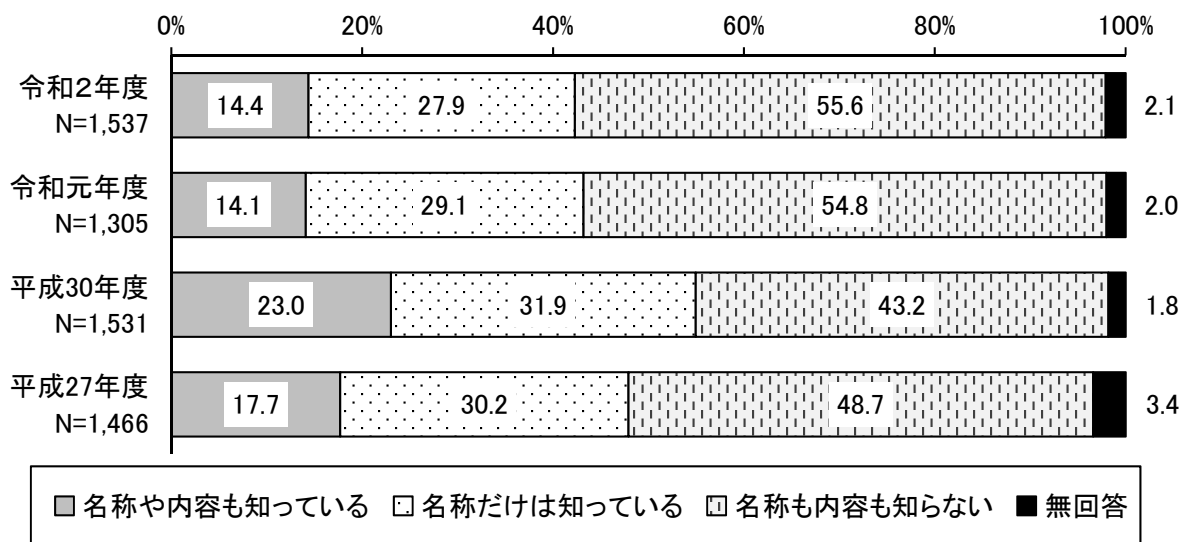
		障がいのある人の人権	子供の人権	高齢者の人権	女性の人権	外国人の人権	性的マイノリティの人権	同和問題（部落差別）	刑を終えて出所した人の人権	その他	無回答
性別	男 N=647	44.2	43.9	35.7	21.0	24.3	13.9	18.4	17.2	6.2	5.4
	女 N=815	45.0	43.4	38.5	49.2	17.4	18.8	13.3	11.8	3.6	5.9
	選べない N=7	57.1	42.9	28.6	42.9	42.9	42.9	-	28.6	14.3	-
年代	18歳～29歳 N=182	36.3	39.0	13.2	45.1	20.3	26.9	17.6	20.9	3.8	4.4
	30歳代 N=192	44.3	56.3	21.4	42.7	22.4	23.4	15.1	16.7	3.6	5.2
	40歳代 N=287	49.1	56.8	24.7	36.9	23.3	22.6	18.8	16.7	2.4	2.8
	50歳代 N=269	48.3	40.9	40.1	42.4	20.4	17.1	16.4	13.8	5.9	4.8
	60歳代 N=303	48.5	34.7	48.5	33.7	21.5	12.2	15.8	11.6	7.3	6.6
	70歳以上 N=298	38.9	34.9	62.8	26.2	14.4	5.4	10.1	8.7	4.7	10.4

2-10 生物多様性について

問 32 あなたは「生物多様性※」についてご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

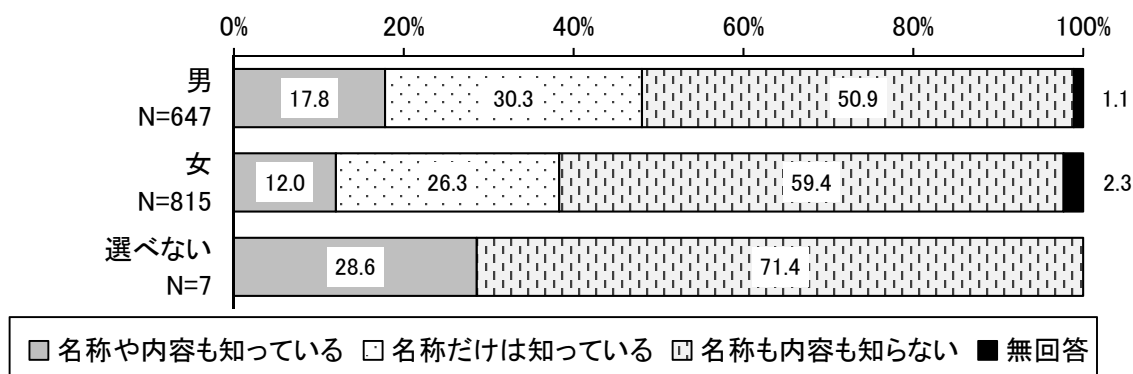
※ 生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。すべての生き物には違い(「生態系の多様性」「種の多様性」)、「遺伝子の多様性)があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。

「生物多様性」の『認知度』は42.3%

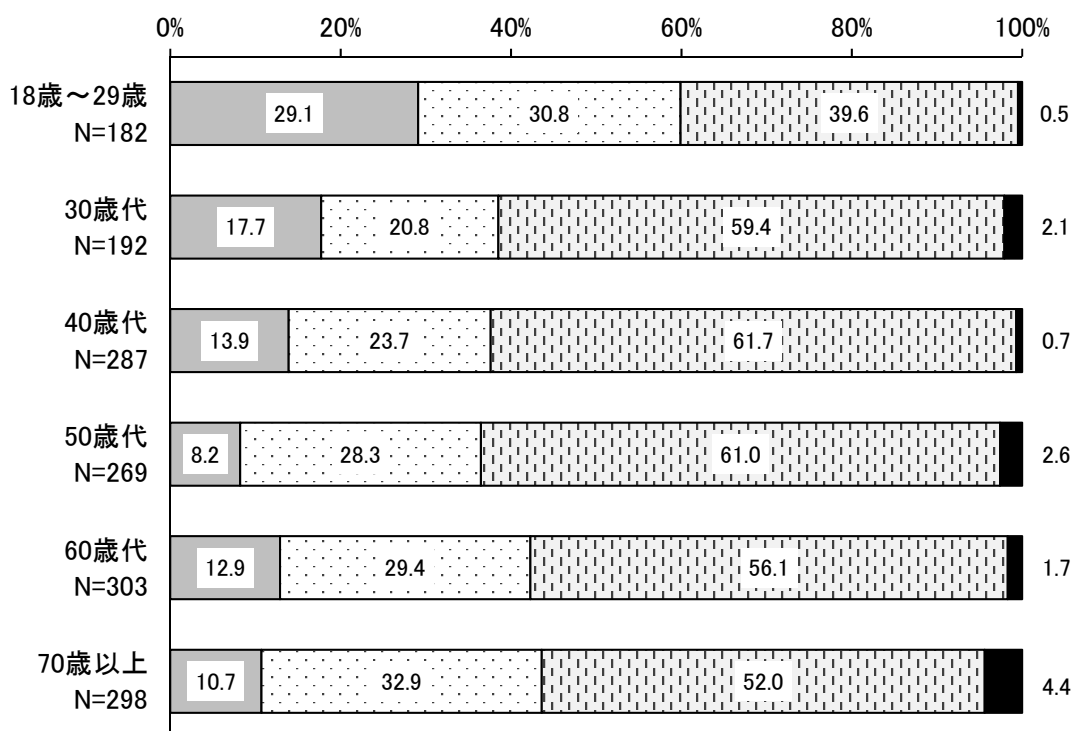


- 「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は42.3%となった。令和元年度との比較では『認知度』は0.9ポイント減少したが、「名称や内容も知っている」は0.3ポイント増加した。
- 性別でみると、『認知度』は男性が48.1%、女性が38.3%、選べないが28.6%となった。男女別では男性の方が9.8ポイント高い。
- 『認知度』を年代別でみると18歳~29歳は59.9%と半数を超えており、また職業別でも、学生が69.2%と最も高い。若い世代は他の年代と比べ、「生物多様性」について知る機会が多いといえる。

【性別】

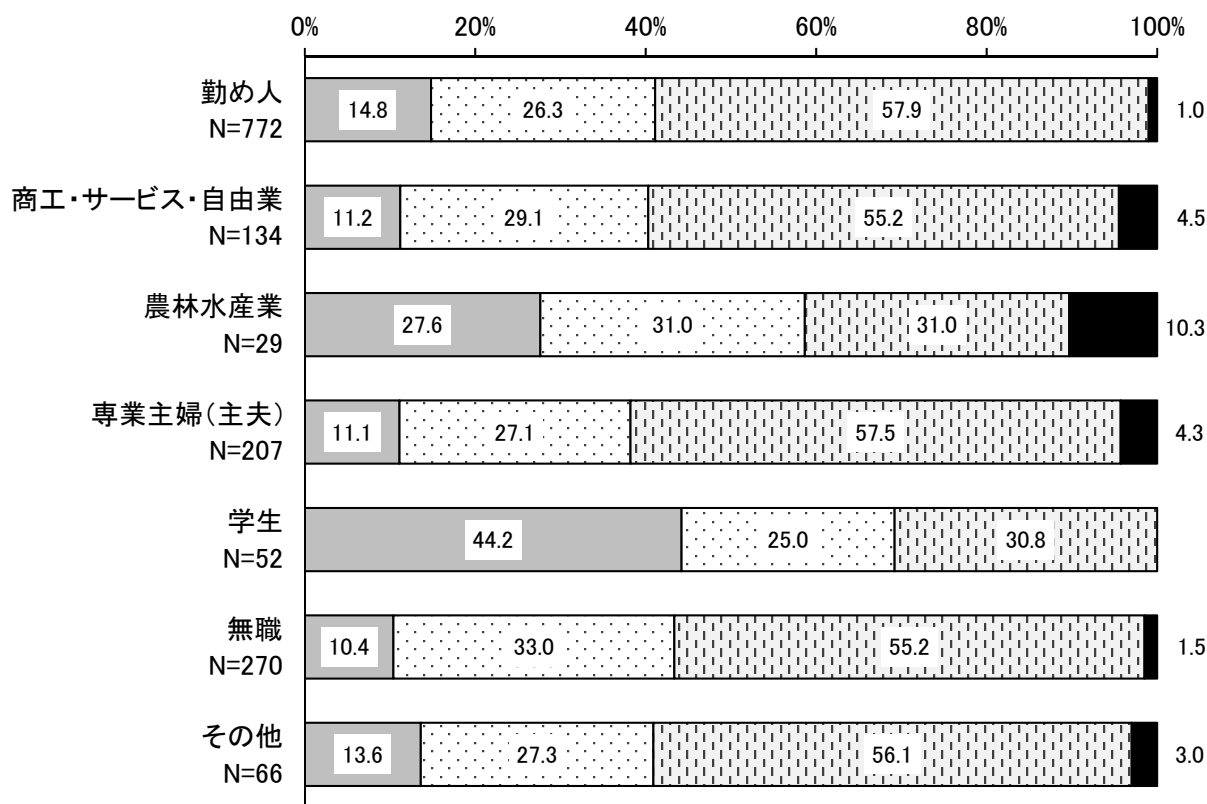


【年代別】



■ 名称や内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 名称も内容も知らない ■ 無回答

【職業別】

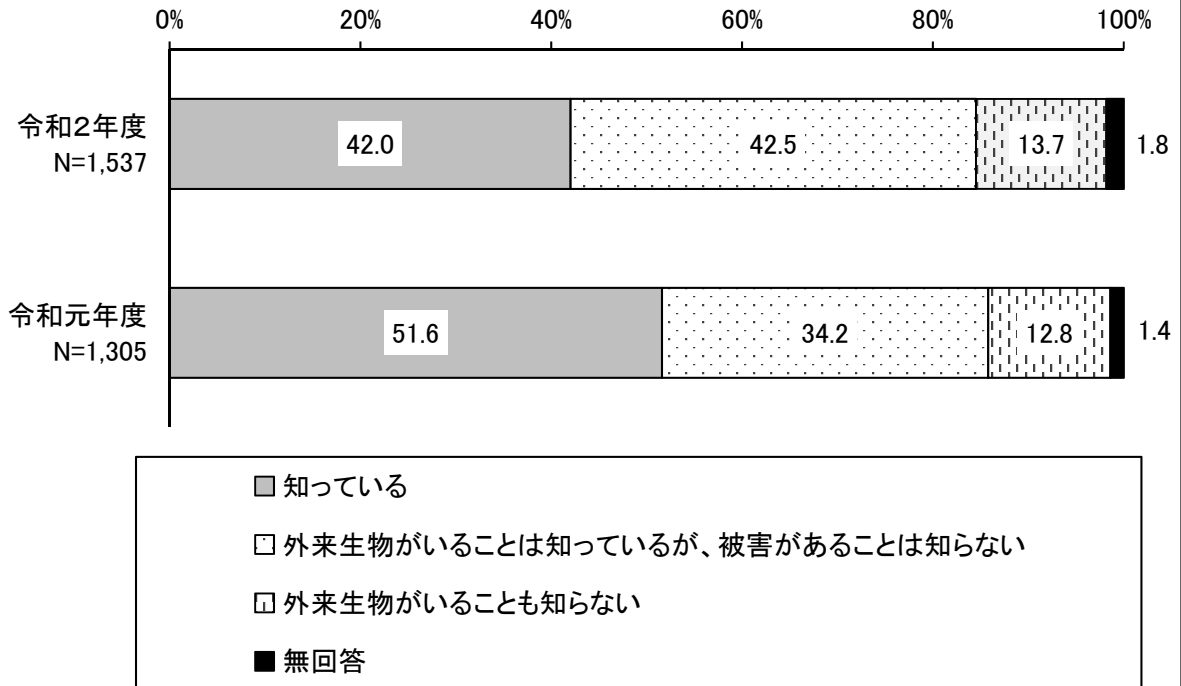


■ 名称や内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 名称も内容も知らない ■ 無回答

問 33 あなたは、市内でタイワンリスやアライグマなど外来生物※による被害があることをご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

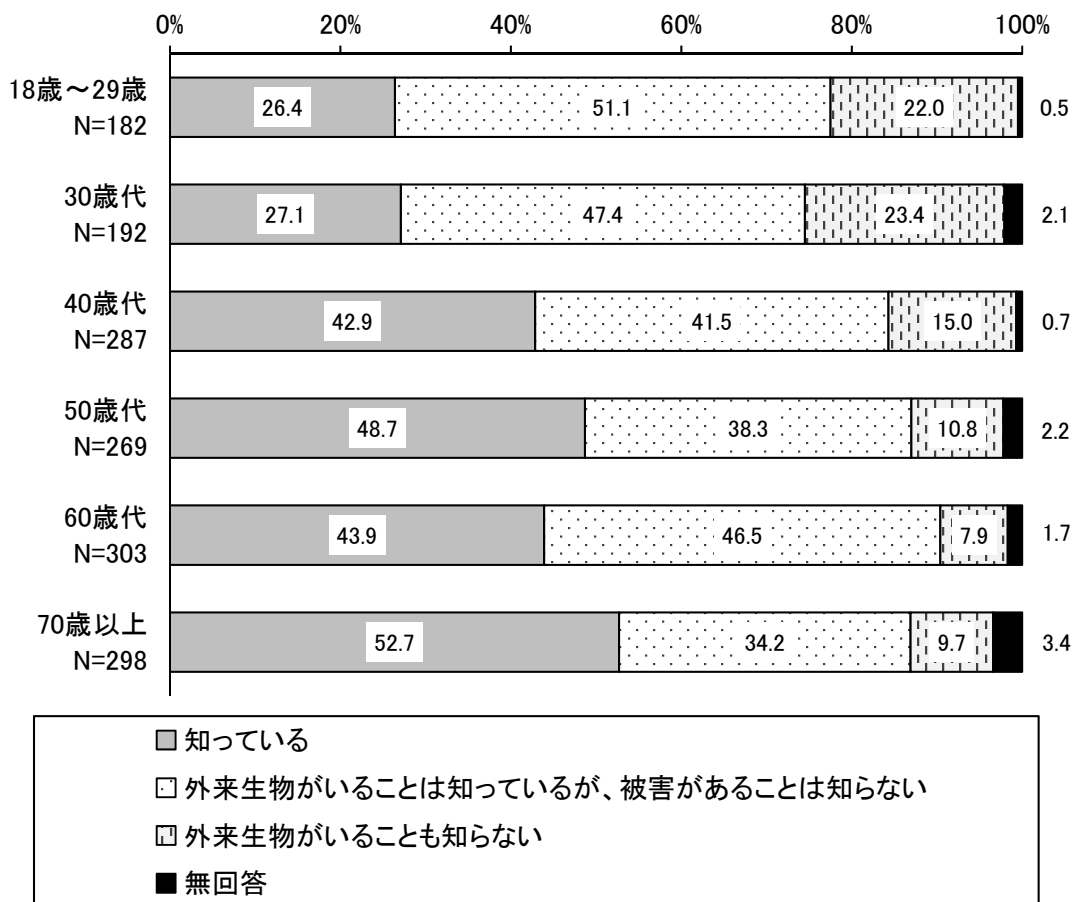
※ 外来生物とは、国外から人為的に移入された、本来その地域にいなかった生物のことです。

市内で外来生物による被害があることを知っている人は42.0%

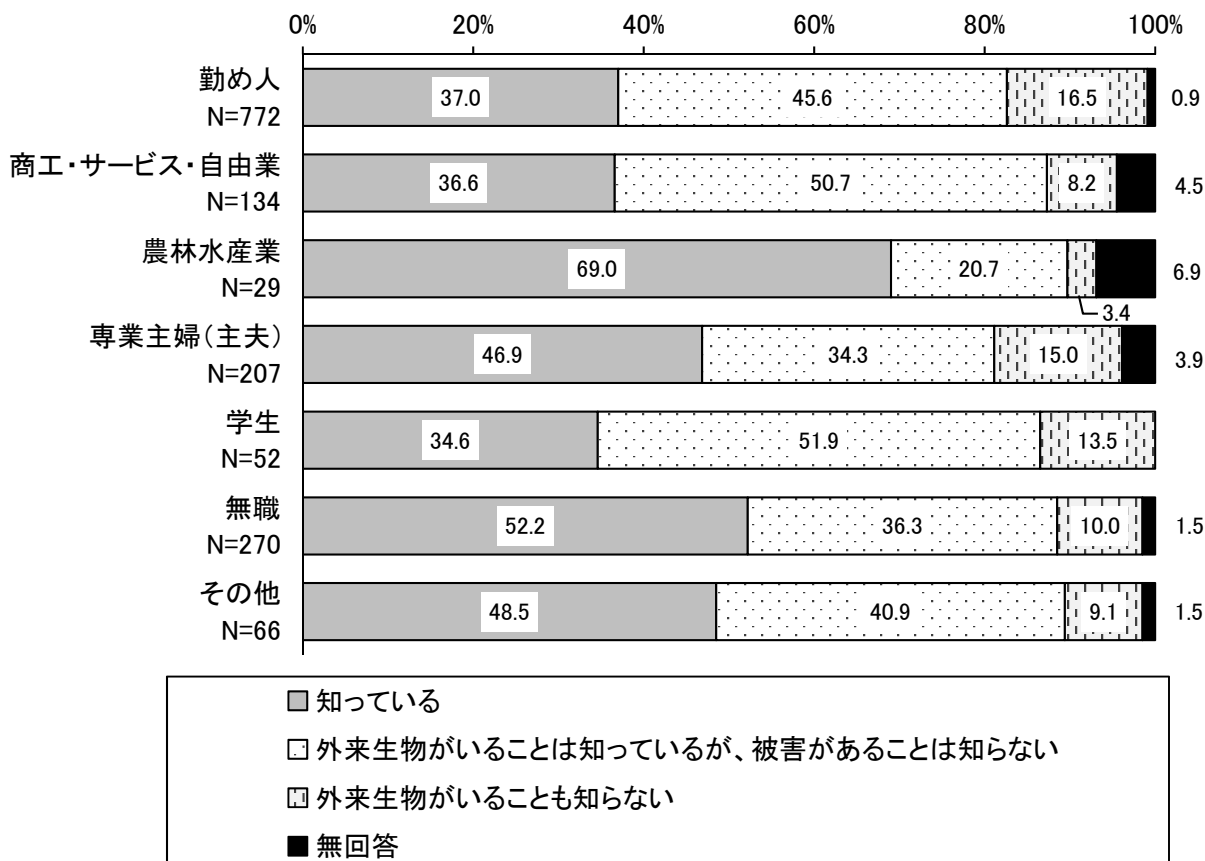


- 外来生物による被害があることを「知っている」と「外来生物がいることは知っているが、被害があることは知らない」を合わせると84.5%となった。令和元年度の85.8%とほぼ変わらず、市内に外来生物がいることを認識している市民の割合は高いといえる。
- 一方で、「外来生物がいることは知っているが、被害があることは知らない」と「外来生物がいることも知らない」を合わせると56.2%となり、被害があることを知らない割合は令和元年度と比べ9.2ポイント増加した。
- 年代別でみると、外来生物による被害があることを「知っている」は18歳～29歳が26.4%と最も低く、総じて年齢が若いほど被害を知らない割合が高い。
- 職業別でみると、外来生物による被害があることを「知っている」は農林水産業が69.0%と最も高い。農作物被害など、生活に直結することが関心の高さにつながっていると考えられる。

【年代別】

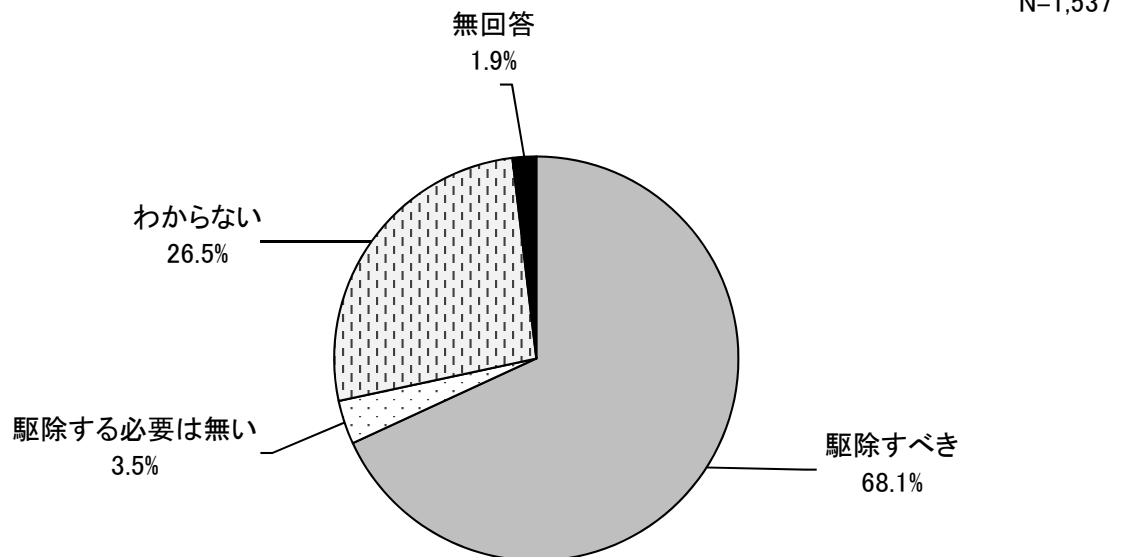


【職業別】



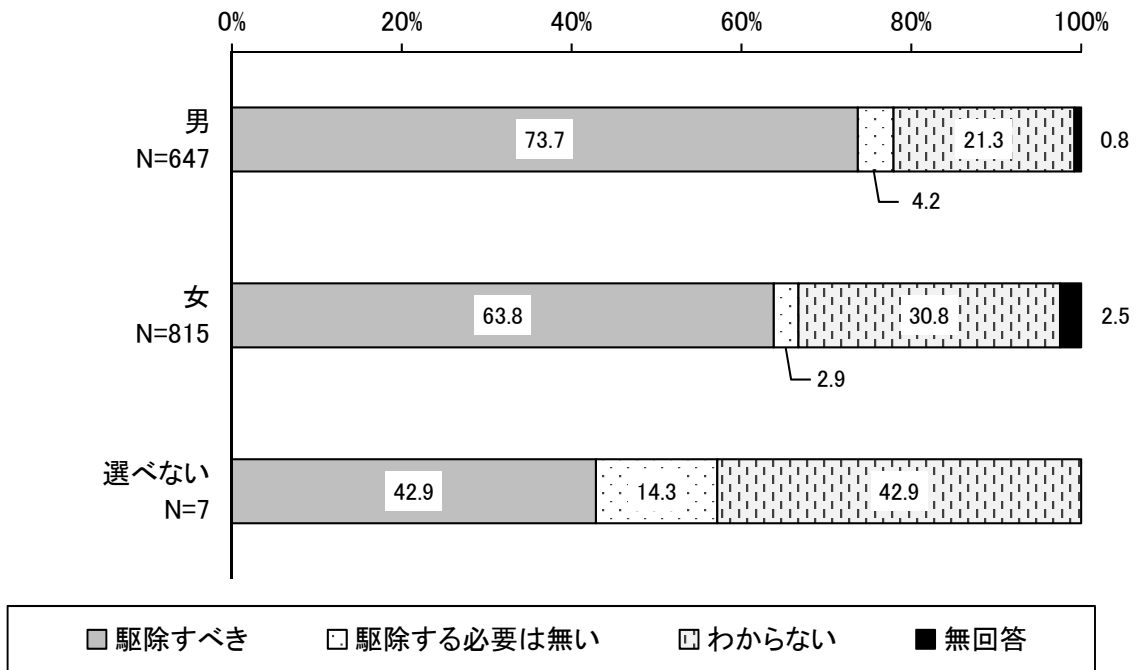
問 34 浜松市では、生態系に影響を及ぼすタイワンリスやアライグマなどの外来生物の駆除に取り組んでいますが、あなたは、外来生物を駆除することについて、どのように考えますか。(1つだけ○を付けてください)

外来生物を「駆除すべき」は 68.1%

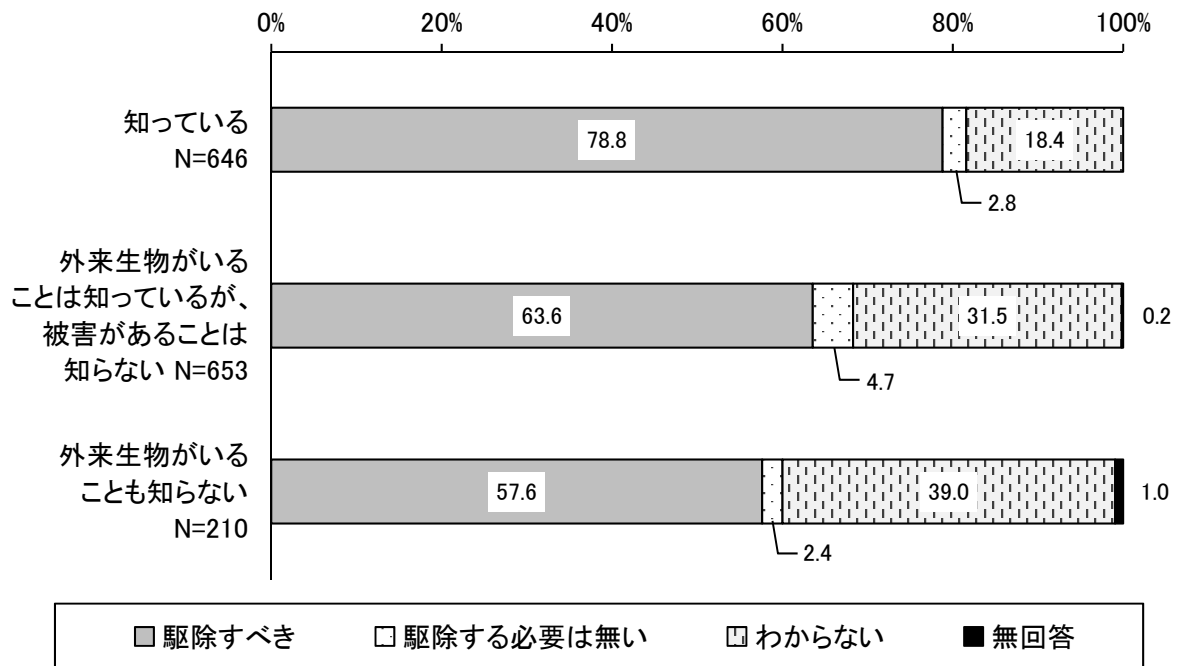


- 「駆除すべき」は 68.1%となり、「駆除する必要は無い」の 3.5%を大きく上回った。
- 性別で見ると、「駆除すべき」は男性が 73.7%、女性が 63.8%、選べないが 42.9%となった。男女別では男性の方が 9.9 ポイント高い。
- 問 33 の外来生物による被害の認知度の有無別で見ると、被害を「知っている」層の「駆除すべき」は 78.8%と全体調査の「駆除すべき」より高い。「外来生物がいることも知らない」層の「駆除すべき」は 57.6%と全体調査と比べ低い回答結果となった。
- 外来生物の中には、元々その場所にいる生き物を捕食したり、作物を荒らしたり、悪影響を与えるものもいる。今後も環境に大きな影響を与える外来生物の防除を実施していく。

【性別】



【問 33 被害の認知度の有無別】

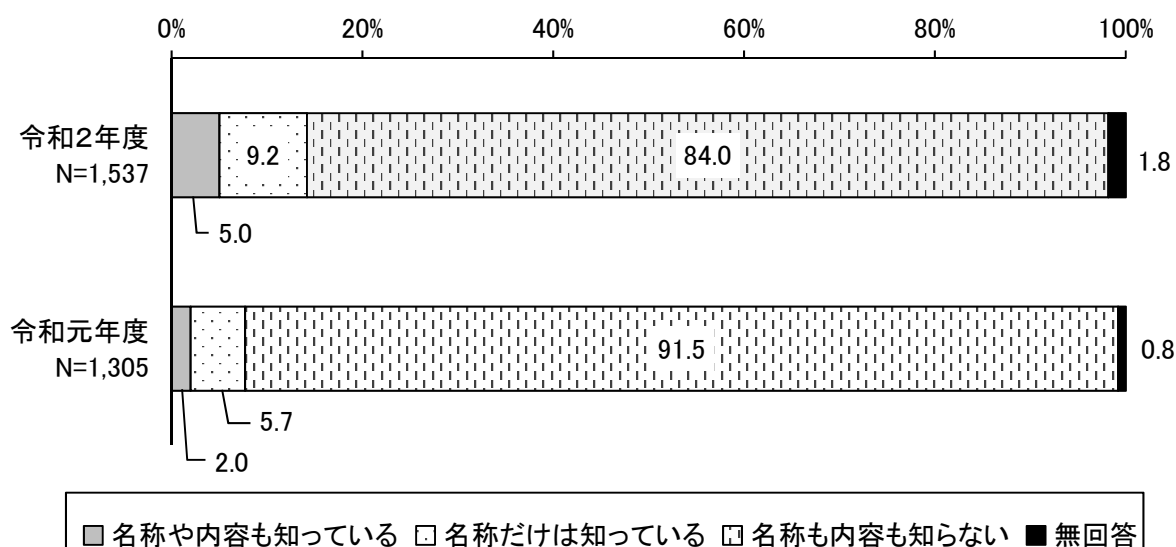


2-11 消費生活について

問 35 あなたは、「エシカル消費※」という言葉をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

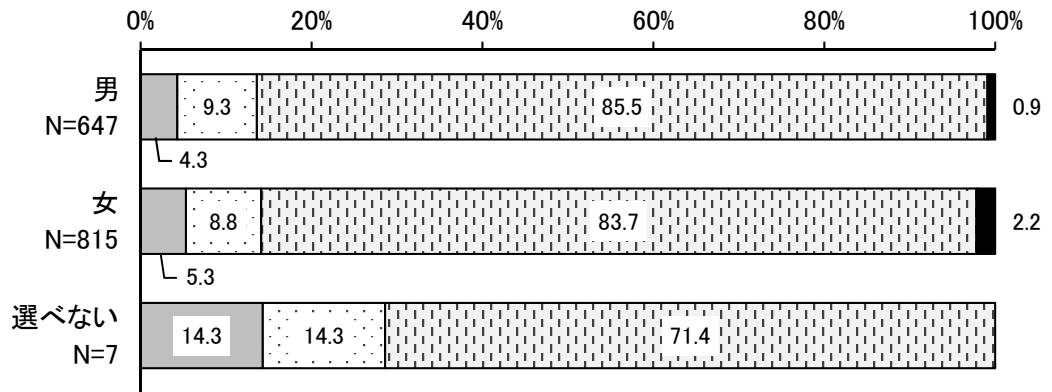
※ エシカルとは、倫理的という意味です。また、人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを選んで消費することを「エシカル消費」といいます。

「エシカル消費」の『認知度』は14.2%



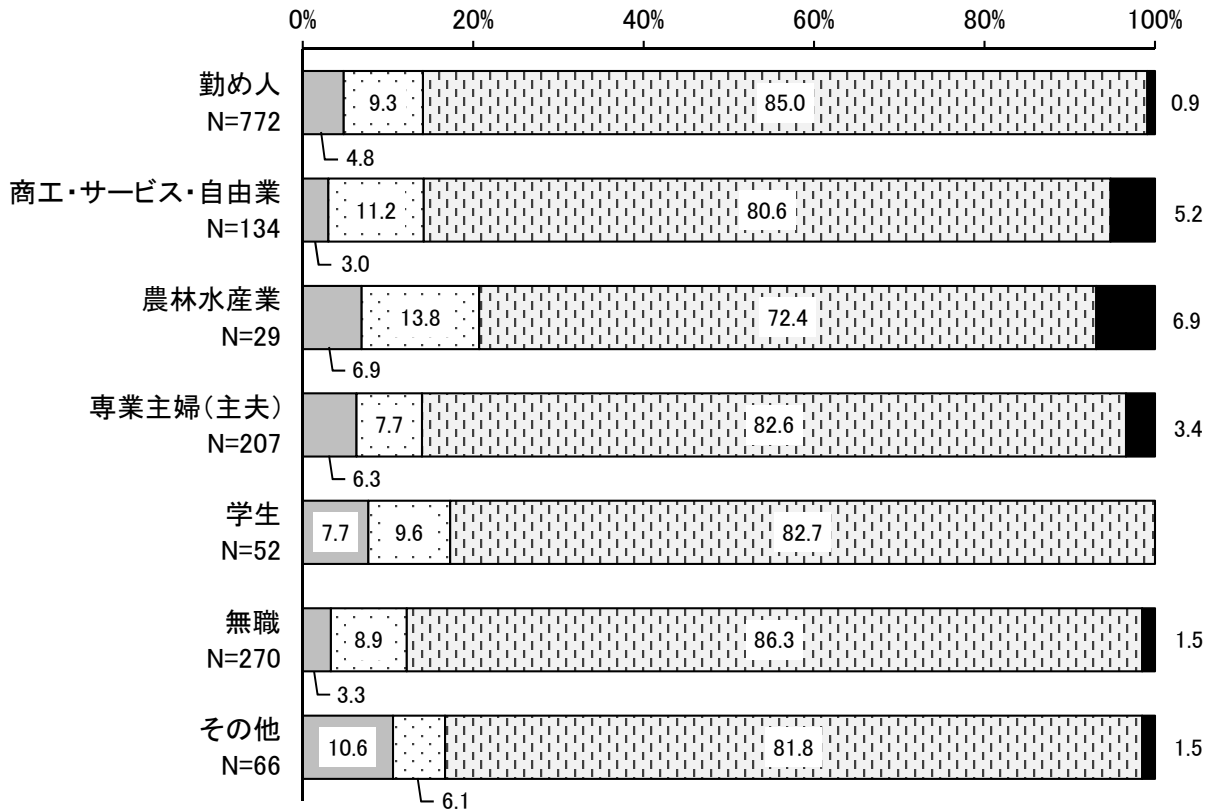
- 「名称や内容も知っている」が5.0%、「名称だけは知っている」が9.2%、「名称も内容も知らない」が84.0%となった。「名称や内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は14.2%となった。
- 令和元年度と比較すると、「名称や内容も知っている」は3.0ポイントの増加、『認知度』は6.5ポイントの増加となった。
- 性別で見ると、『認知度』の回答割合は、男性が13.6%、女性が14.1%、選べないが28.6%となった。男女別では女性の方がやや高い。
- 職業別で見ると、『認知度』の回答割合は、農林水産業が20.7%と最も高く、次いで学生の17.3%となった。他の職業と比べ関連の深い農林水産業や学校教育を受けた学生の回答割合が高い。
- 消費者教育の推進を地方公共団体に義務付ける消費者教育推進法(平成24年)の施行を受けて、市はエシカル消費をテーマとした小中学校の教材づくりなどを進め、若年層を中心に普及を図っている。現状、認知度は低いものの、エシカル消費の普及・啓発は、公正で持続可能な社会を実現することを目指すSDGs推進の施策の一つであり、積極的に周知に努める必要がある。

【性別】



■ 名称や内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 名称も内容も知らない ■ 無回答

【職業別】



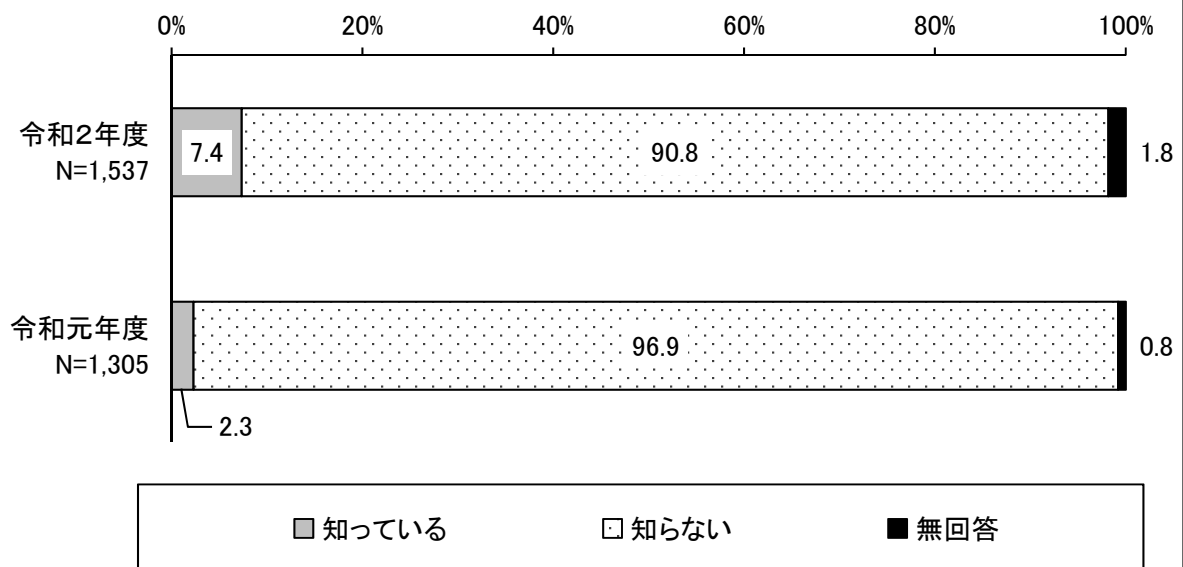
■ 名称や内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 名称も内容も知らない ■ 無回答

問 36 浜松市は、平成 29 年 11 月に全国で 4 番目のフェアトレードタウン※になりましたが、ご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

※ フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレード※の輪を広げていく自治体のことです。

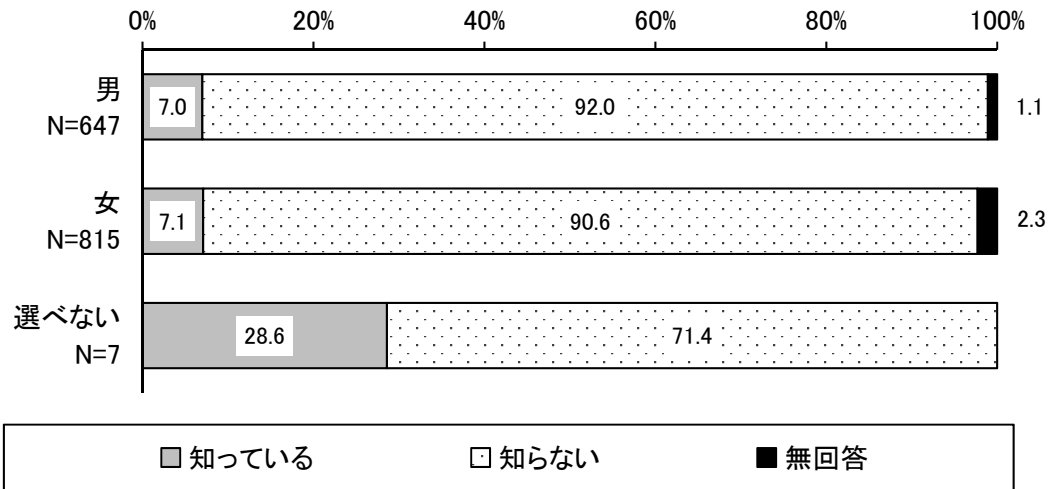
※ フェアトレードとは、発展途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取引」することによって、立場の弱い発展途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。

浜松市が全国で4番目のフェアトレードタウンになったことを「知っている」人は7.4%

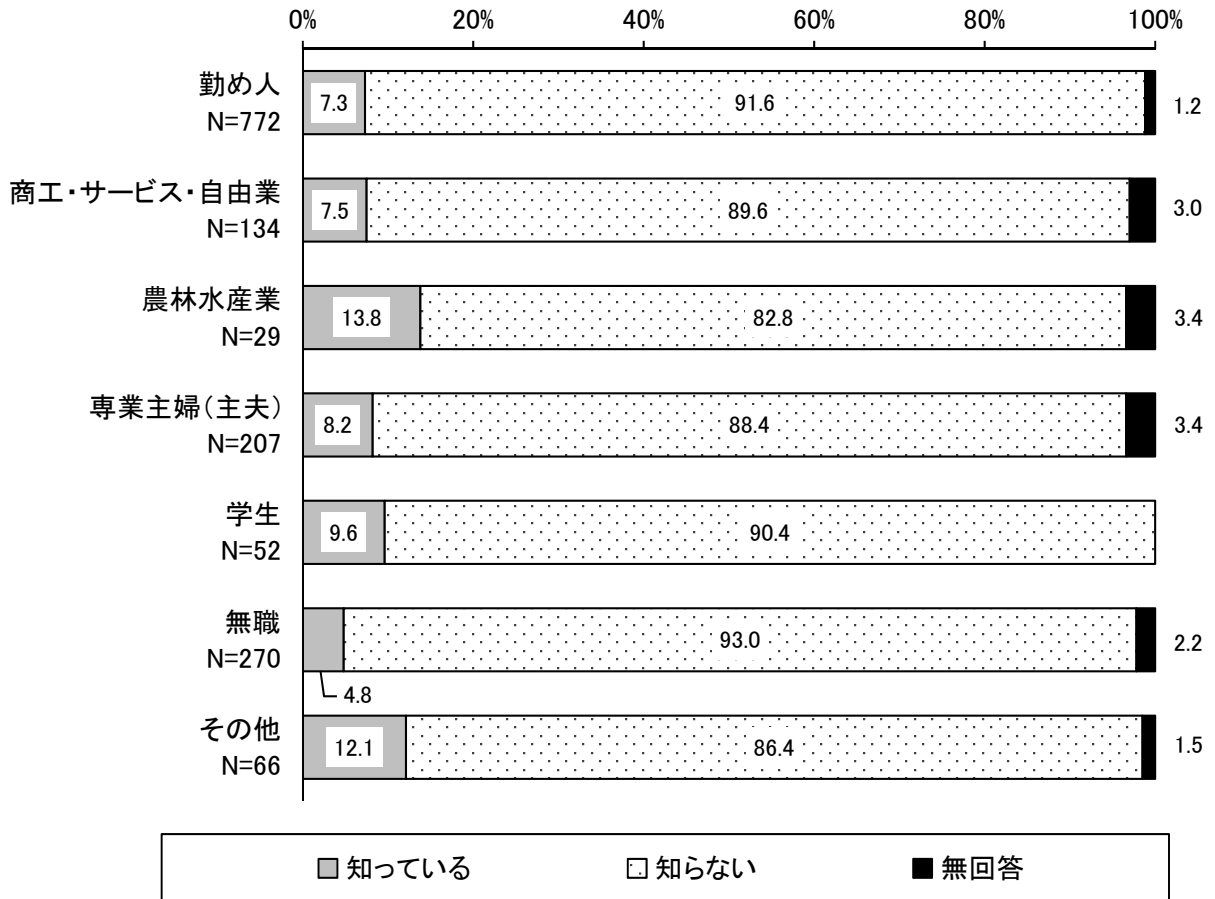


- 「知っている」は7.4%、「知らない」は90.8%となった。令和元年度と比べると、「知っている」は5.1ポイントの増加となった。
- 性別でみると、「知っている」と回答した割合は男性が7.0%、女性が7.1%、選べないが28.6%となった。
- 職業別でみると、「知っている」と回答した割合は、農林水産業が13.8%と最も高く、次いで、学生の9.6%となり、以下、専業主婦（主夫）の8.2%と続いた。他の職業と比べ関連の深い農林水産業や学校教育を受けた学生、消費に敏感な専業主婦（主夫）の回答割合が高い。
- フェアトレードはエシカル消費に含まれるものであるため、フェアトレードタウンの活動推進を通して人、社会、地域、環境に配慮したより良い未来を目指し、今後も民間の活動団体と連携協働した、普及・啓発活動に努めていく。

【性別】

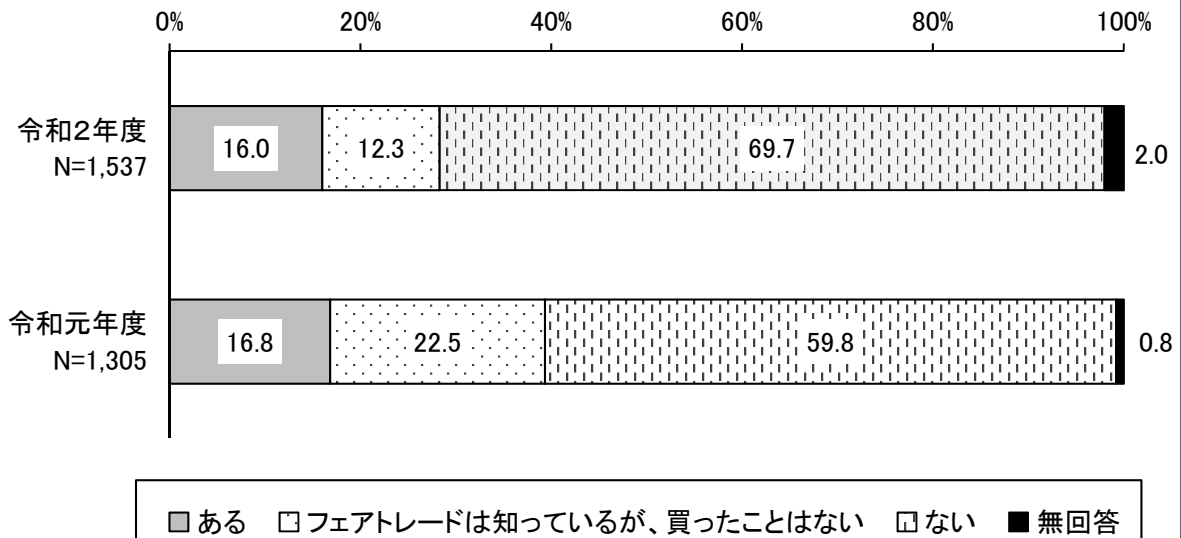


【職業別】



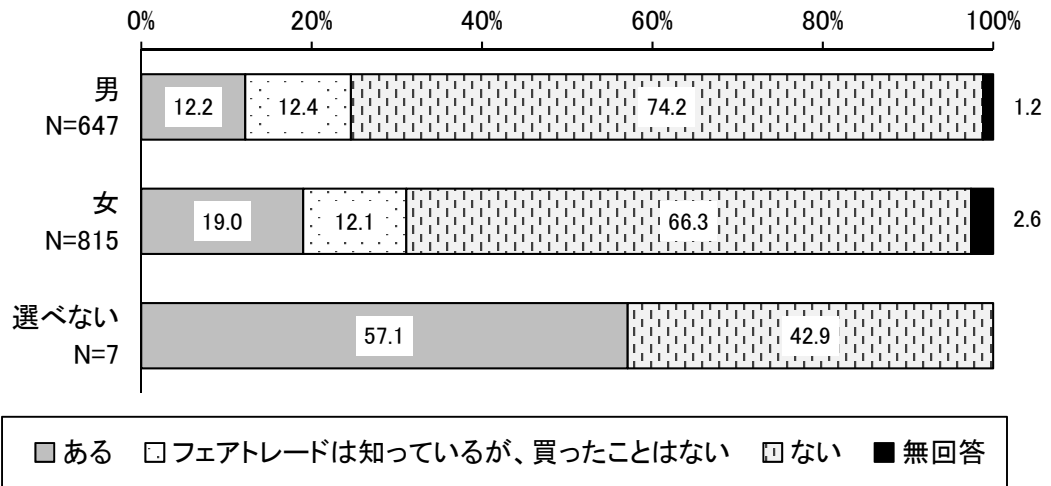
問 37 あなたは、フェアトレード商品を買ったことがありますか。(1つだけ○を付けてください)

フェアトレード商品を買ったことが「ある」人は16.0%

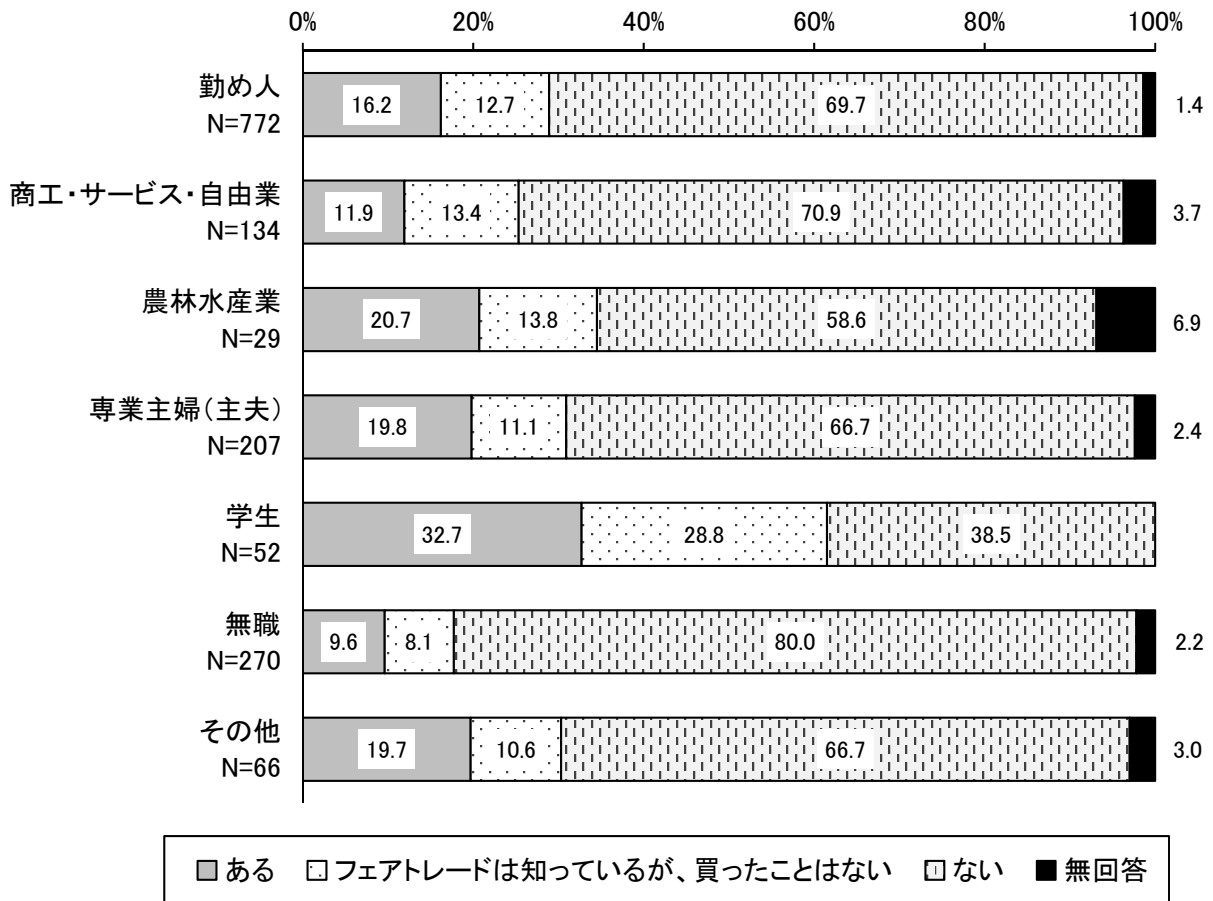


- 買ったことが「ある」は16.0%、「フェアトレードは知っているが、買ったことはない」は12.3%、「ない」は69.7%となった。「ある」と「フェアトレードは知っているが、買ったことはない」を合わせた『認知度』は28.3%となった。
- 令和元年度と比較すると、「ある」は0.8ポイント、『認知度』は11ポイントの減少となった。
- 性別でみると、「ある」と回答した割合は男性が12.2%、女性が19.0%、選べないが57.1%となった。男女別では女性の方がフェアトレード商品に対する関心が高いことがうかがえる。
- 職業別でみると、「ある」と回答した割合は、学生が32.7%と最も高く、次いで農林水産業の20.7%となった。専業主婦（主夫）も19.8%と他の職業と比べて高い。他の職業と比べ学校教育を受けた学生や関連の深い農林水産業、消費に敏感な専業主婦（主夫）の回答割合が高い。
- 浜松市にはコーヒーやチョコレートなど、フェアトレード商品を扱うお店が多くある。認知度の向上を図るため、市内でフェアトレード商品が購入できるショップを掲載したマップを積極的に配布するなど、今後も購入の促進に努めていく。

【性別】



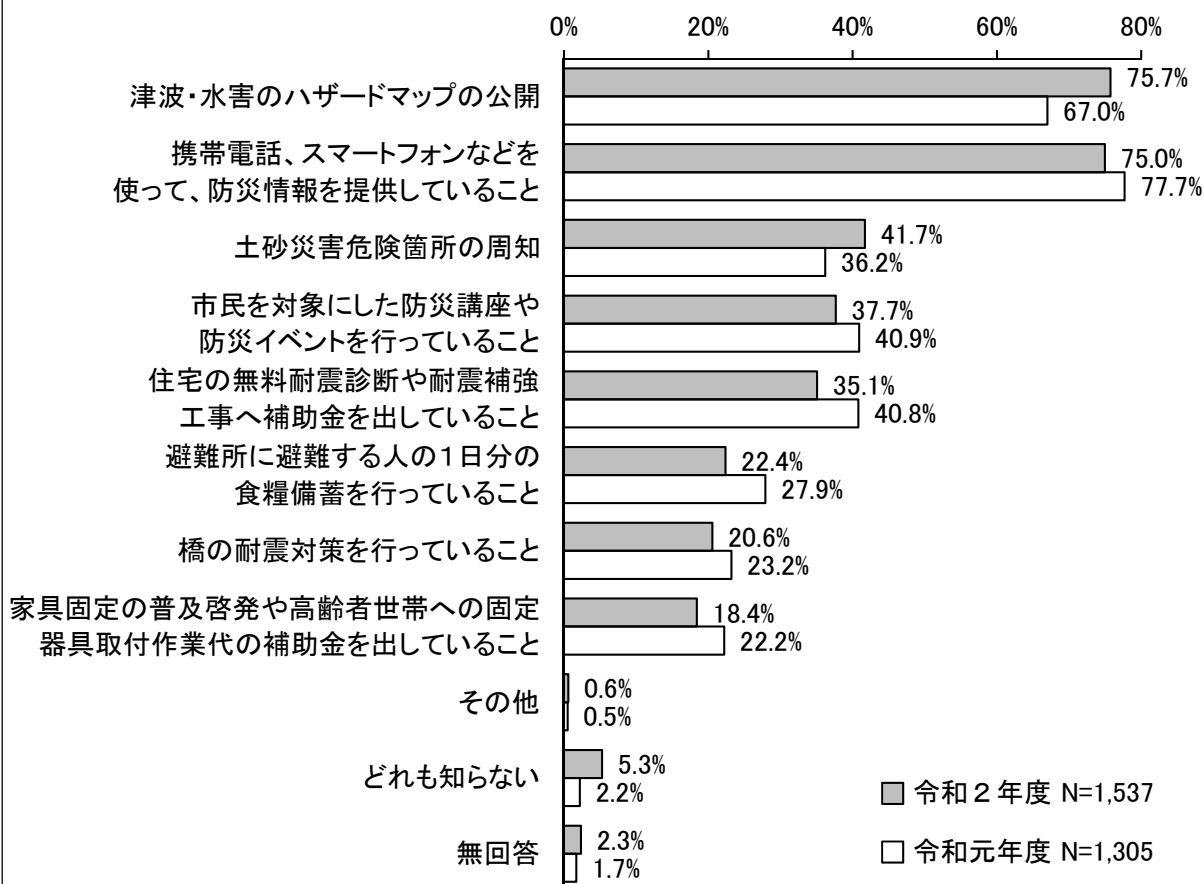
【職業別】



2-12 防災対策について

問 38 浜松市が行っている防災対策のうち、あなたがお存じのものをお選びください。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

知っている防災対策は「津波・水害のハザードマップの公開」が 75.7%



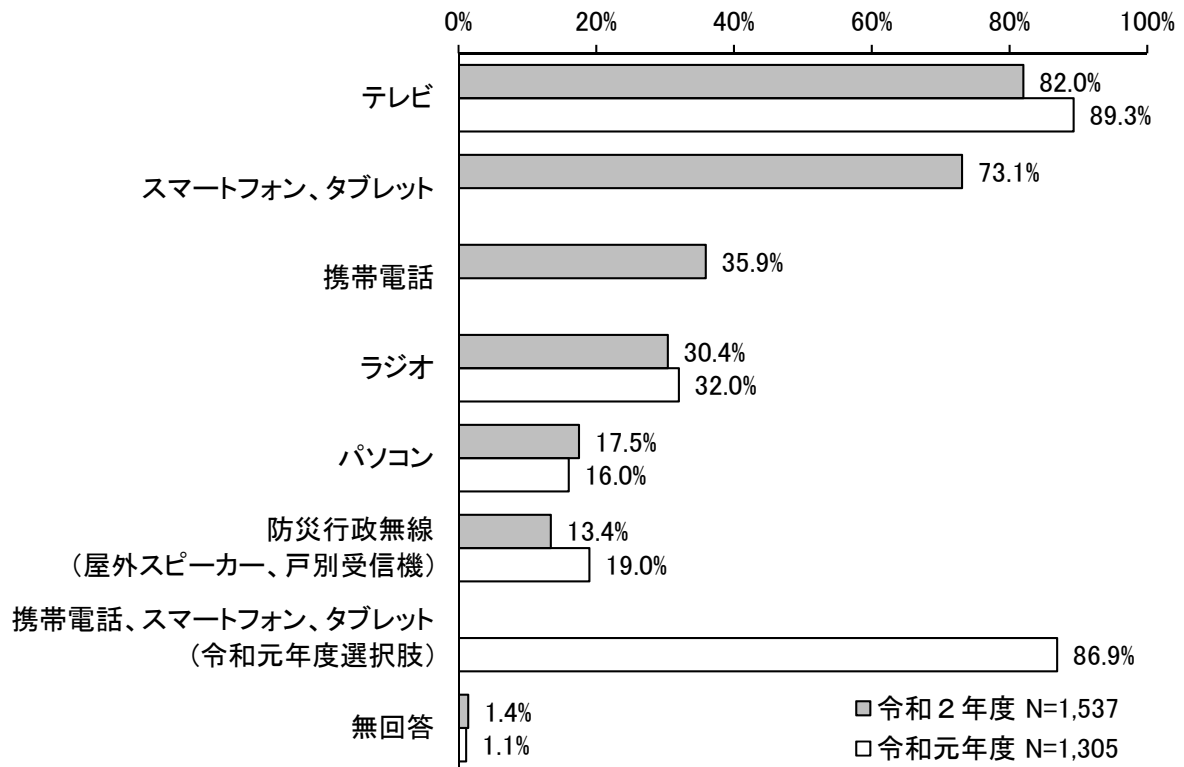
- 「津波・水害のハザードマップの公開」が 75.7%と最も高く、次いで「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」が 75.0%となった。それ以外の項目については、5割を下回る回答結果となった。
- 「どれも知らない」は 5.3%と非常に低く、市民の防災対策への意識は比較的高いといえる。
- 年代別で見ると、40歳代以下で「津波・水害のハザードマップの公開」が最も高く、50歳代以上では「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」が最も高い。
- 行政区別で見ると、東区と西区、南区では「津波・水害のハザードマップの公開」が最も高い。中区と北区、浜北区、天竜区は「携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること」が最も高い。天竜区では「土砂災害危険箇所の周知」も他の行政区と比べて高く、地域の災害事象と関連性の高い回答結果となった。
- 災害の危険を身近に感じ緊急時に備えることが、防災対策への関心にもつながることから、引き続き周知を図っていく。

【年代別・行政区別】

		津波・水害のハザードマップの公開	携帯電話、スマートフォンなどを活用して、防災情報を提供していること	土砂災害危険箇所の周知	市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること	住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること	避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること	橋の耐震対策を行っていること	家具固定の普及啓発や高齢者世帯への固定器具取付作業代の補助金を出していること	その他	どれも知らない	無回答
年代別	18歳～29歳 N=182	72.0	61.5	31.9	31.9	7.1	13.7	14.3	2.7	-	12.6	1.6
	30歳代 N=192	79.7	70.8	41.1	30.2	16.1	10.9	22.9	7.3	-	3.6	3.6
	40歳代 N=287	82.9	74.2	46.7	33.4	33.4	17.4	20.2	17.8	0.7	5.6	1.0
	50歳代 N=269	83.3	84.4	46.1	41.6	35.7	22.7	20.1	21.2	0.4	3.7	1.9
	60歳代 N=303	74.3	82.2	45.2	41.3	46.2	29.0	21.8	24.1	1.7	3.6	2.0
	70歳以上 N=298	63.1	70.1	35.6	43.3	53.7	32.9	22.8	27.5	0.3	4.7	4.0
行政区別	中区 N=453	74.4	75.7	38.9	39.1	34.0	23.4	18.1	20.3	0.7	7.1	1.8
	東区 N=243	81.1	76.1	41.2	34.2	35.4	16.5	17.7	13.6	0.4	2.9	2.5
	西区 N=212	81.6	72.2	47.2	42.5	37.7	24.1	25.0	19.8	1.4	2.4	1.9
	南区 N=197	83.8	76.1	39.1	36.5	35.5	25.9	21.8	20.8	-	3.6	2.5
	北区 N=191	67.0	69.1	44.0	40.8	34.0	21.5	20.9	15.7	0.5	8.9	4.2
	浜北区 N=180	68.9	77.2	36.1	34.4	32.2	21.1	20.0	16.1	-	5.6	2.8
	天竜区 N=55	65.5	80.0	67.3	29.1	43.6	29.1	32.7	27.3	1.8	5.5	-

問 39 あなたが災害情報などの危機管理に関する情報を得る手段を教えてください。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

災害情報を得る手段は「テレビ」が 82.0%



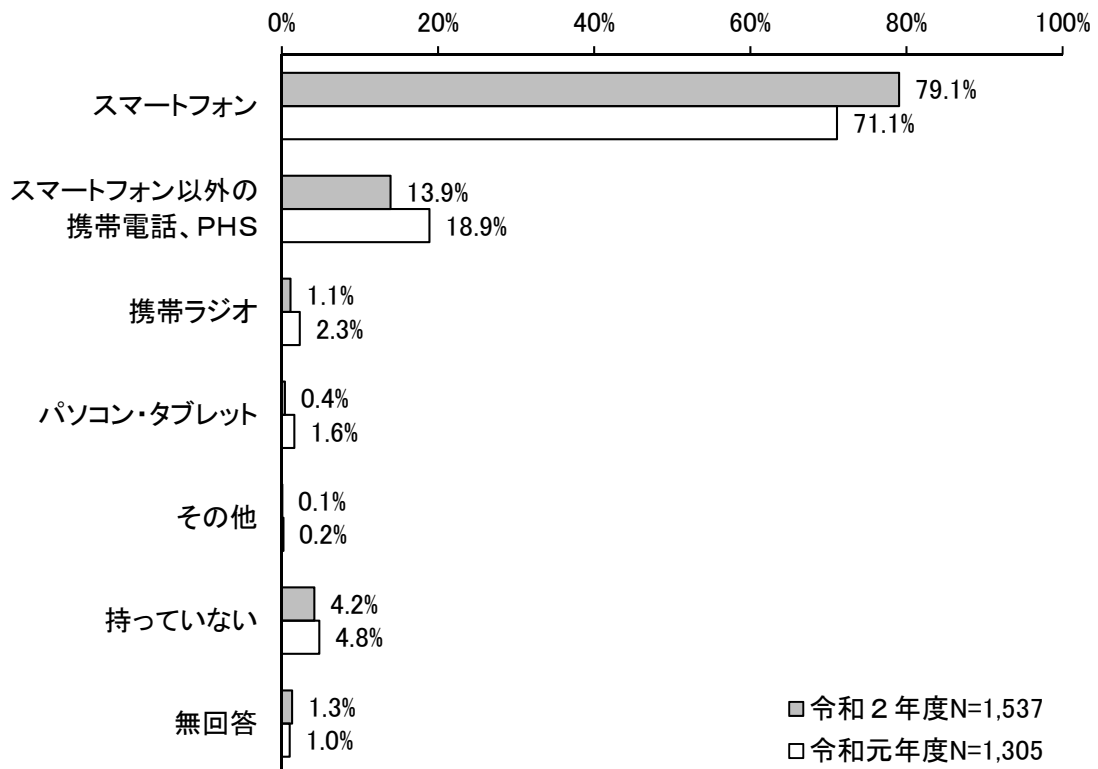
- 「テレビ」が 82.0%と最も高く、次いで「スマートフォン、タブレット」の 73.1%となった。それ以外の項目は4割以下となった。
- 年代別で見ると、50歳代以下では「スマートフォン、タブレット」が最も高く、60歳代以上で「テレビ」が最も高い。70歳以上では「携帯電話」や「ラジオ」も他の年代と比べて高く、その反面「スマートフォン、タブレット」の回答割合は低い。
- 行政区別で見ると、「テレビ」「スマートフォン、タブレット」はすべての行政区で上位2項目となった。旧浜松市以外のエリアを多く含む北区と浜北区、天竜区では「防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）」も他の行政区と比べて高い。防災行政無線が多く設置されているためと考えられる。

【年代別・行政区別】

		テレビ	スマートフォン、タブレット	携帯電話	ラジオ	パソコン	防災行政無線（屋外スピーカー、戸別受信機）	無回答
年代別	18歳～29歳 N=182	73.6	92.3	28.6	11.5	21.4	12.1	0.5
	30歳代 N=192	80.2	92.2	30.2	24.0	20.3	13.5	1.6
	40歳代 N=287	80.5	89.9	27.5	27.9	19.5	9.8	0.7
	50歳代 N=269	80.7	82.9	32.3	28.6	17.8	11.2	2.2
	60歳代 N=303	86.1	64.0	39.9	38.3	17.2	15.8	1.3
	70歳以上 N=298	87.2	33.6	51.3	41.9	11.7	17.1	2.0
行政区別	中区 N=453	82.8	74.6	36.0	28.0	17.4	3.5	1.3
	東区 N=243	77.4	73.7	37.4	31.3	20.6	2.9	1.2
	西区 N=212	82.5	69.3	37.7	34.0	17.9	11.3	0.9
	南区 N=197	84.3	75.1	38.6	31.5	18.8	7.1	1.0
	北区 N=191	81.7	72.8	31.4	29.8	17.8	27.2	3.7
	浜北区 N=180	81.7	74.4	35.6	29.4	13.9	33.3	1.1
	天竜区 N=55	89.1	63.6	29.1	34.5	10.9	58.2	-

問 40 あなたが外出時に持ち歩く情報受信端末はどれですか。(主なものに1つだけ○を付けてください)

外出時に持ち歩く情報受信端末は「スマートフォン」が79.1%



- 外出時に持ち歩く情報受信端末は、「スマートフォン」が79.1%と突出して高く、次いで、「スマートフォン以外の携帯電話、PHS」が13.9%となった。他の項目についてはごくわずかにとどまり、現状、多数が持ち歩く情報受信端末とはいえない回答結果となった。
- 年代別で見ると、70歳以上を除く年代で「スマートフォン」が最も高く、40歳代以下では9割以上の回答結果となった。70歳以上の「スマートフォン」は38.9%にとどまり、「スマートフォン以外の携帯電話、PHS」が40.6%と最も高い。
- 行政区別で見ると、すべての行政区で「スマートフォン」が最も高いが、天竜区では6割台にとどまる。天竜区の高齢化率が他と比べて高いためと考えられる。

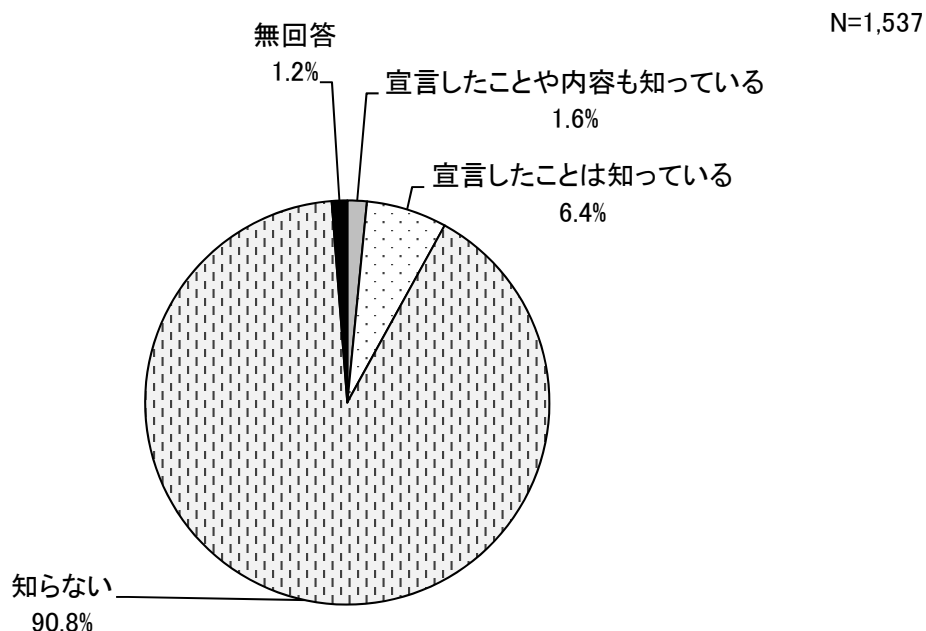
【年代別・行政区別】

		スマートフォン	スマートフォン以外の携帯電話、PHS	携帯ラジオ	パソコン・タブレット	その他	持っていない	無回答
年代別	18歳～29歳 N=182	98.4	-	-	1.1	-	-	0.5
	30歳代 N=192	95.3	3.1	-	-	-	-	1.6
	40歳代 N=287	96.5	1.7	-	-	-	1.0	0.7
	50歳代 N=269	87.0	8.9	0.4	0.7	-	1.1	1.9
	60歳代 N=303	73.3	18.8	1.0	0.3	0.3	5.0	1.3
	70歳以上 N=298	38.9	40.6	4.0	0.3	-	14.4	1.7
行政区別	中区 N=453	80.6	13.2	1.1	0.7	-	3.1	1.3
	東区 N=243	79.4	14.8	0.4	0.4	-	3.7	1.2
	西区 N=212	74.1	19.3	0.9	-	-	5.2	0.5
	南区 N=197	79.7	13.2	2.0	-	-	4.6	0.5
	北区 N=191	79.1	12.0	1.0	1.0	0.5	2.6	3.7
	浜北区 N=180	83.9	8.9	0.6	-	-	5.6	1.1
	天竜区 N=55	67.3	20.0	1.8	-	-	10.9	-

2-13 デジタル・ファースト宣言について

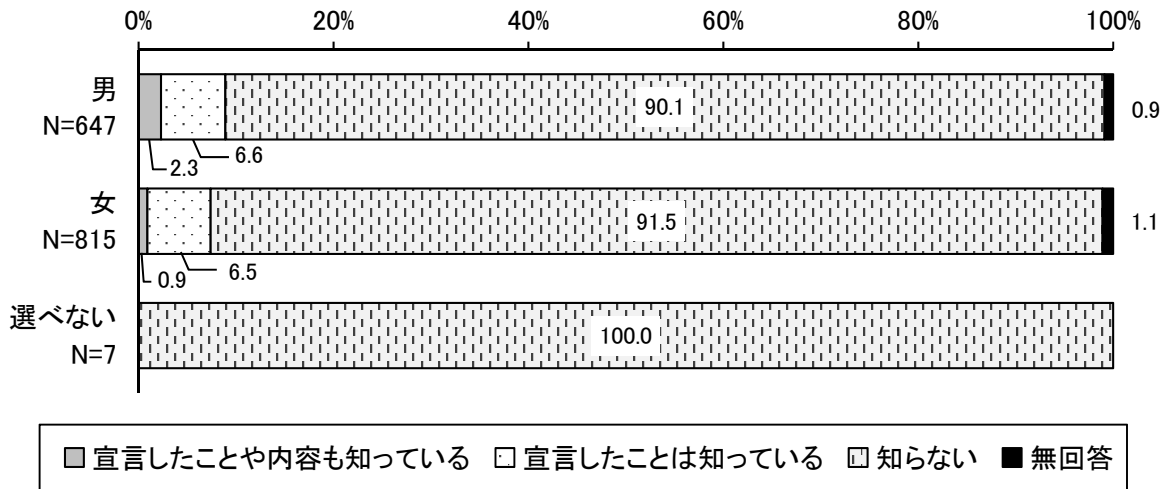
問 41 あなたは、「デジタルファースト宣言」したことをご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

「デジタルファースト宣言」の『認知度』は8.0%

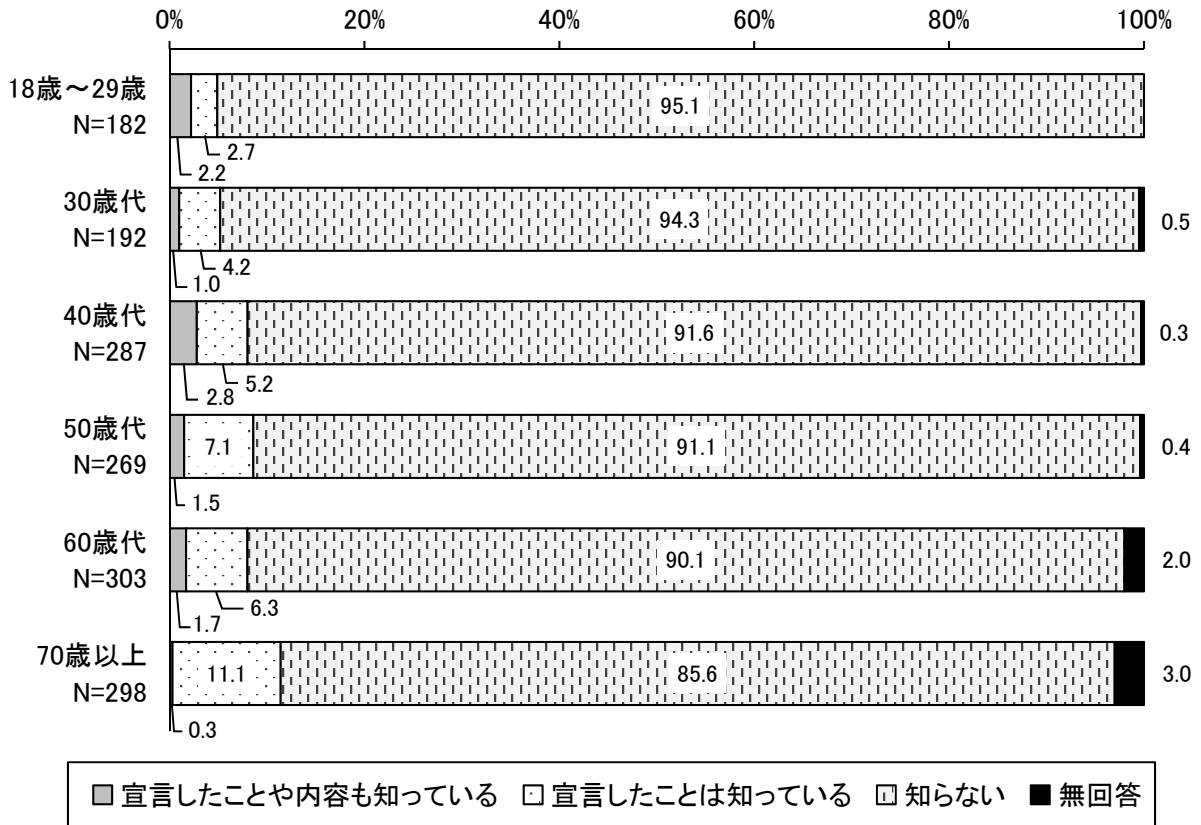


- 「宣言したことや内容も知っている」と「宣言したことは知っている」を合わせた『認知度』は8.0%となり、「知らない」の90.8%を大きく下回った。
- 性別で見ると、『認知度』の回答割合は、男性が8.9%、女性が7.4%、選べない0.0%となり、男女で比較すると、若干ながらも男性の方が高い。
- 年代別で見ると、『認知度』の回答割合は、70歳以上が11.4%と最も高く、次いで50歳代の8.6%となった。おおむね年代が高くなるほど高い。
- 都市づくりや市民サービスの提供、自治体運営に“デジタルファースト”で取り組み、デジタル技術を活用した地域課題の解決や市民生活の快適化を推進するとともに、必要な情報を必要な人に届ける戦略的な広報を展開するなど、周知・啓発を行うことで、『認知度』についても向上させていく。

【性別】

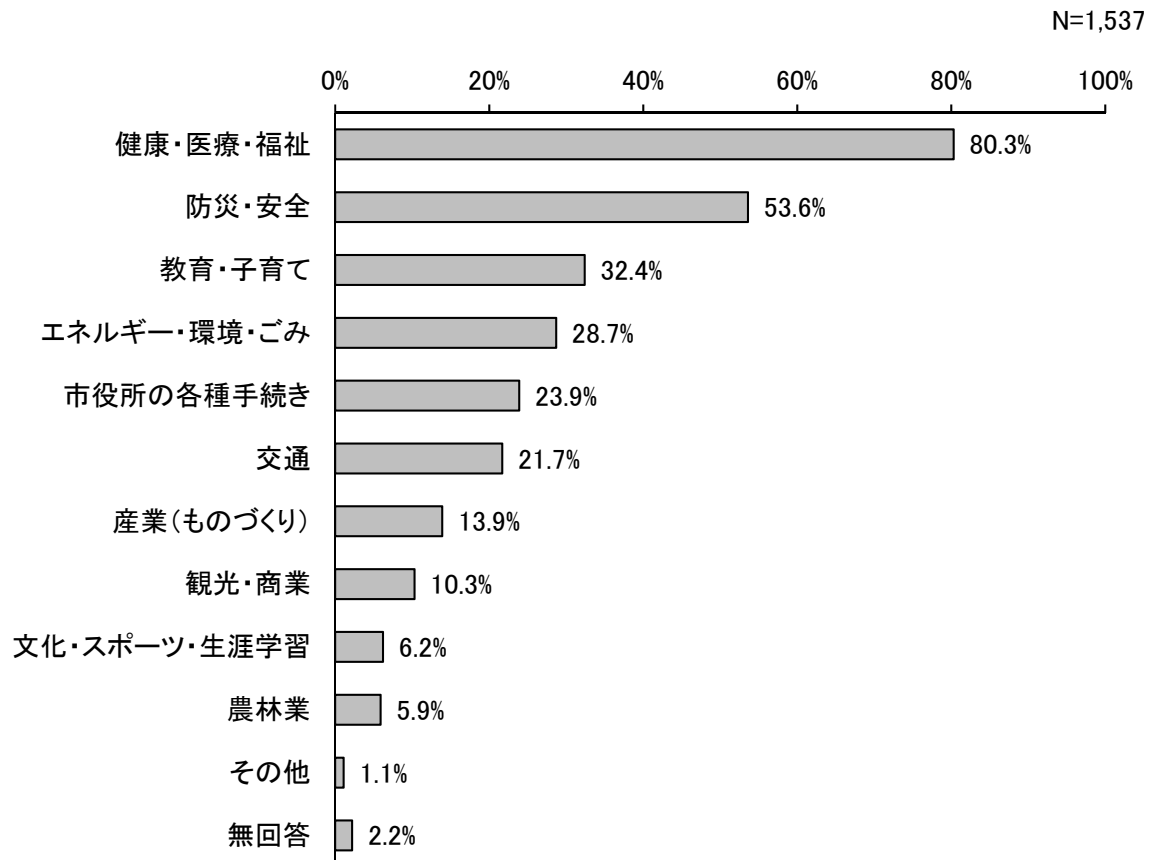


【年代別】



問 42 あなたは、どのような分野で先端技術の活用が進み、利便性や生産性が向上することを期待していますか。(3つまで○を付けてください)

先端技術の活用が期待される分野は「健康・医療・福祉」が 80.3%



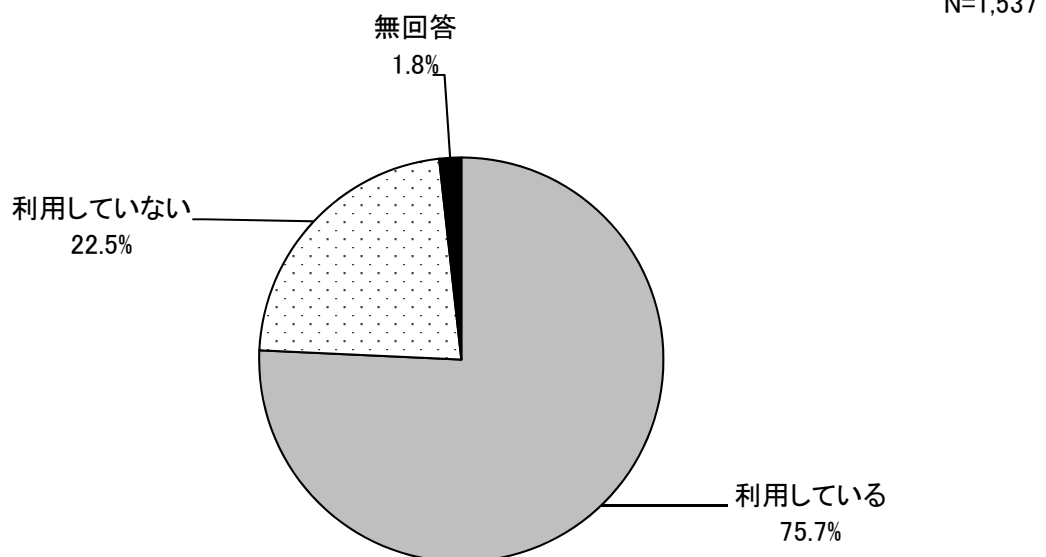
- 「健康・医療・福祉」が 80.3%と最も高く、次いで「防災・安全」の 53.6%となった。以下、「教育・子育て」が 32.4%と続くが、それ以外の項目は3割未満の回答割合となった。
- 性別で見ると、男女ともに「健康・医療・福祉」が最も高く、次いで「防災・安全」となった。
- 年代別で見ると、30歳代を除く年代で「健康・医療・福祉」が最も高く、次いで「防災・安全」となった。30歳代については「健康・医療・福祉」が最も高く、2番目は「教育・子育て」となった。子育て世代とみられる世帯の多くが教育分野のICT活用に期待していることがうかがえる。
- 「健康・医療・福祉」や「防災・安全」など、生活に身近な分野への期待、関心が高くなっている。地域課題の解決にデジタル等先端技術を積極的に活用するとともに、分野間連携の促進やデータ利活用を推進し、市民生活の快適化を図っていく。

【性別・年代別】

		健康・医療・福祉	防災・安全	教育・子育て	エネルギー・環境・ごみ	市役所の各種手続き	交通	産業（ものづくり）	観光・商業	文化・スポーツ・生涯学習	農林業	その他	無回答
性別	男 N=647	73.7	52.7	28.9	25.2	23.3	28.0	20.2	12.4	7.4	7.1	1.2	2.5
	女 N=815	86.0	54.4	36.2	31.0	24.0	17.4	8.7	9.1	5.3	4.9	1.0	1.8
	選べない N=7	71.4	57.1	42.9	42.9	28.6	14.3	14.3	-	14.3	-	-	-
年代	18歳～29歳 N=182	70.3	42.9	37.4	19.8	23.1	28.6	20.9	21.4	11.0	4.4	1.1	2.2
	30歳代 N=192	81.3	53.6	60.9	21.4	28.1	22.4	9.9	13.0	5.7	4.7	1.0	0.5
	40歳代 N=287	77.7	50.5	46.0	23.7	25.1	23.7	15.7	12.2	7.3	5.9	0.7	1.0
	50歳代 N=269	84.8	53.2	24.9	33.1	19.3	22.3	13.8	11.5	7.8	6.7	1.9	0.7
	60歳代 N=303	83.5	62.4	19.5	37.6	25.1	16.2	12.9	4.6	5.0	7.3	0.7	2.6
	70歳以上 N=298	81.5	55.0	17.4	31.2	23.2	20.5	12.1	4.0	2.7	5.4	1.3	5.0

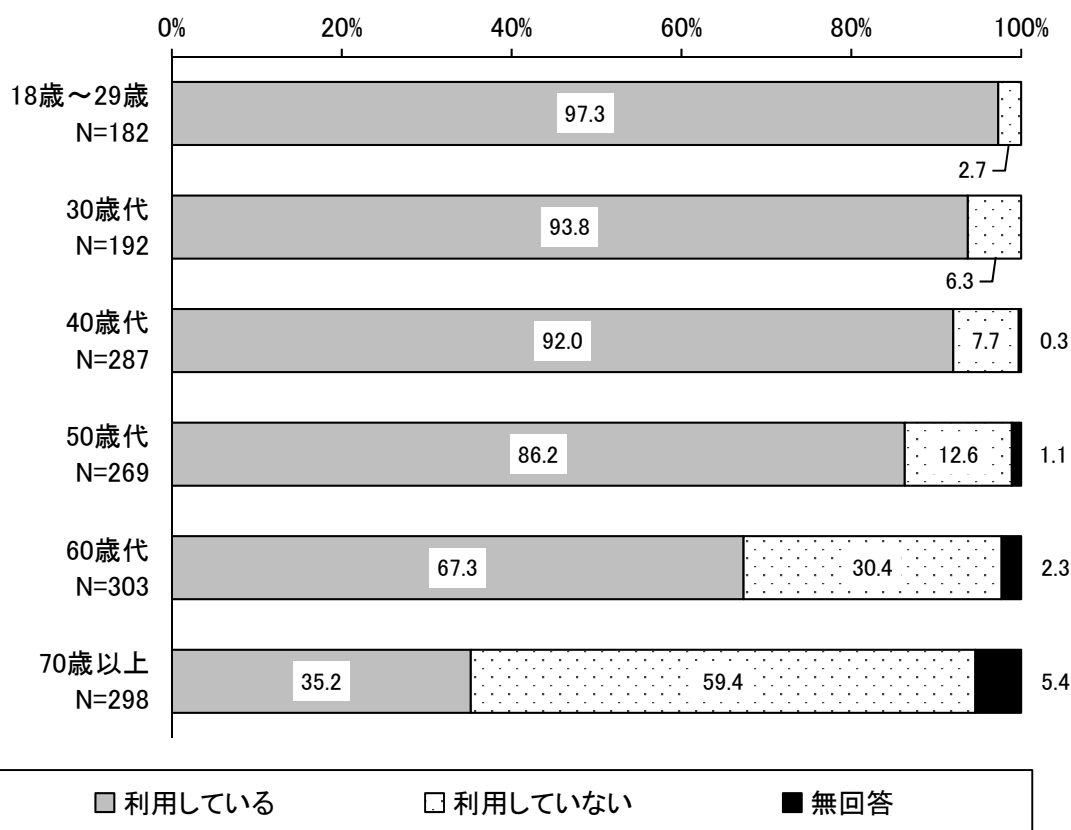
問 43 あなたは、過去1年間において、ご自宅でインターネット（電子メールの送受信、情報の検索、SNS〔ソーシャルネットワーキングサービス〕の利用、ホームページの閲覧、オンラインショッピングなど）を利用したことがありますか。（1つだけ○を付けてください）

インターネットを過去1年間に自宅で「利用している」人は75.7%

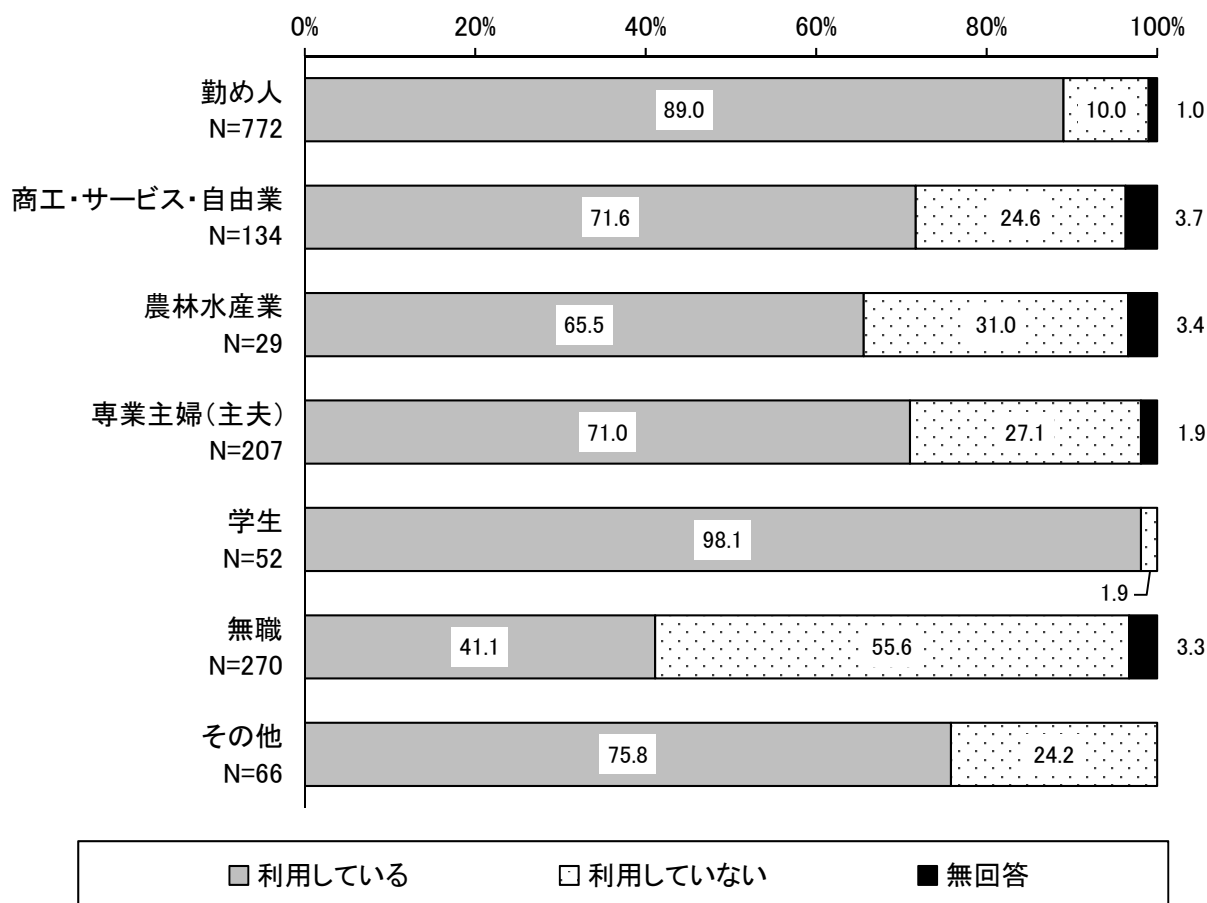


- 「利用している」は75.7%となり、「利用していない」の22.5%を大きく上回った。
- 年代別でみると、「利用している」と回答した割合は、18歳～29歳が97.3%と最も高く、70歳以上が35.2%と最も低い。年代が若いほど「利用している」回答割合が高い。
- 職業別でみると、「利用している」と回答した割合は、学生が98.1%と最も高く、次いで勤め人の89.0%となった。

【年代別】

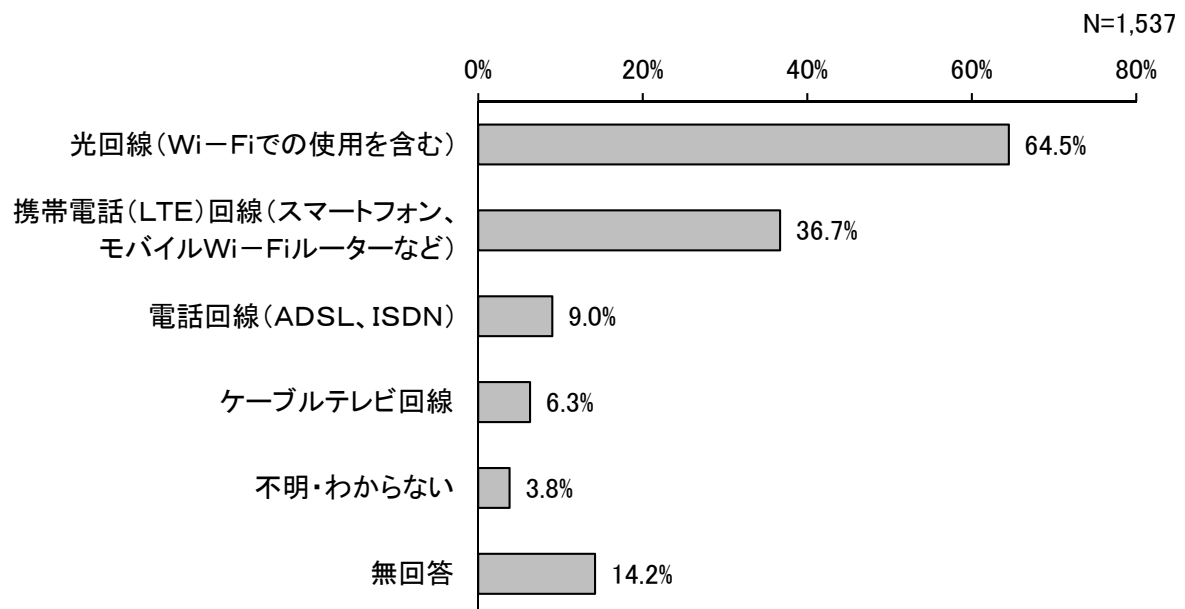


【職業別】



問 44 あなたのご自宅ではどのような回線でインターネットに接続していますか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

自宅で接続しているインターネット回線は「光回線 (Wi-Fiでの使用を含む)」が 64.5%



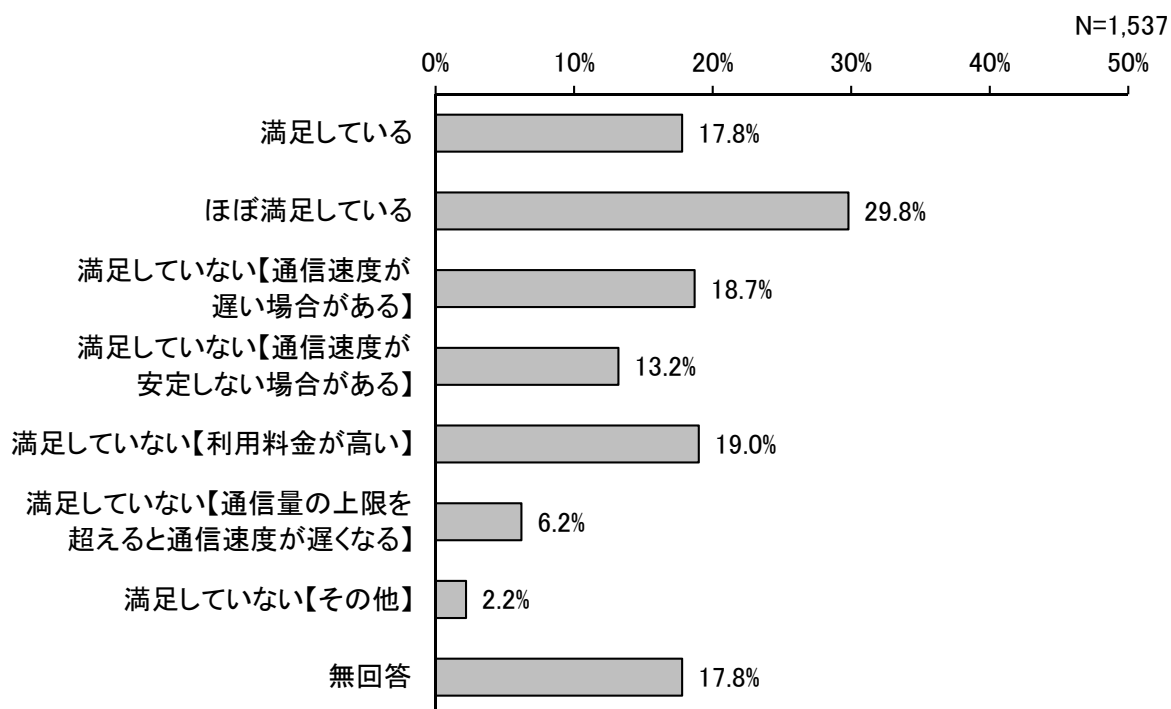
- 自宅で接続しているインターネット回線は、「光回線 (Wi-Fiでの使用を含む)」が 64.5% と最も高く、次いで「携帯電話 (LTE) 回線 (スマートフォン、モバイルWi-Fiルーターなど)」の 36.7% となった。
- 年代別でも、すべての年代で「光回線 (Wi-Fiでの使用を含む)」が最も高い。18～29 歳においては「携帯電話 (LTE) 回線 (スマートフォン、モバイルWi-Fiルーターなど)」も 47.3% と他の年代と比べて高い。
- 行政区別で見ると、天竜区を除いて、「光回線 (Wi-Fiでの使用を含む)」が最も高い。天竜区においては、「携帯電話 (LTE) 回線 (スマートフォン、モバイルWi-Fiルーターなど)」や「電話回線 (ADSL、ISDN)」が他の行政区に比べて高い。

【年代別・行政区別】

		光回線（W i i F iでの使用を含む）	携帯電話（L T E）回線 （スマートフォン、モバイルWi-Fiルーターなど）	電話回線（A D S L、I S D N）	ケーブルテレビ回線	不明・わからない	無回答
年代	18歳～29歳 N=182	83.0	47.3	7.1	8.2	2.2	2.7
	30歳代 N=192	78.1	40.6	6.8	6.8	1.0	4.7
	40歳代 N=287	79.1	35.2	6.6	3.1	0.7	5.6
	50歳代 N=269	70.6	42.4	8.6	5.6	1.9	9.7
	60歳代 N=303	56.8	36.3	12.5	8.3	1.7	20.8
	70歳以上 N=298	32.9	24.8	11.1	6.7	13.4	32.6
行政区	中区 N=453	61.1	37.5	7.5	9.9	4.0	14.3
	東区 N=243	68.7	39.5	7.8	4.9	2.9	11.9
	西区 N=212	67.5	35.8	6.6	3.8	6.1	15.1
	南区 N=197	67.5	34.5	12.7	8.6	3.0	12.7
	北区 N=191	67.0	34.6	8.4	4.2	3.7	14.7
	浜北区 N=180	65.0	36.1	11.1	2.8	2.8	14.4
	天竜区 N=55	41.8	41.8	20.0	3.6	3.6	20.0

問 45 あなたは、ご自宅で利用しているインターネット環境に満足していますか。不満があればその理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

自宅で利用しているインターネット環境に『満足である』は 47.6%



- 「満足している」は 17.8%となった。「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足である』は 47.6%となり、約半数が自宅のインターネット環境に高い評価を与える回答結果となった。
- 満足していない項目をみると、【利用料金が高い】が 19.0%と最も高く、次いで【通信速度が遅い場合がある】が 18.7%となり、3番目に【通信速度が安定しない場合がある】が 13.2%となった。
- 年代別でみると、『満足である』と回答した割合は、18～29 歳が 61.6%と最も高く、次いで 40 歳代が 54.4%となった。総じて年代が若いほど『満足である』割合が高い。動画視聴や通販サイトの閲覧など利用目的によっても満足度が違うと推察される。
- 居住形態別でみると、『満足である』と回答した割合は、借家が 54.6%と最も高く、半数以上が現在のインターネット環境に高い評価を与えている。一方、公営住宅では 18.8%と他の居住形態と比べてかなり低い回答結果となった。

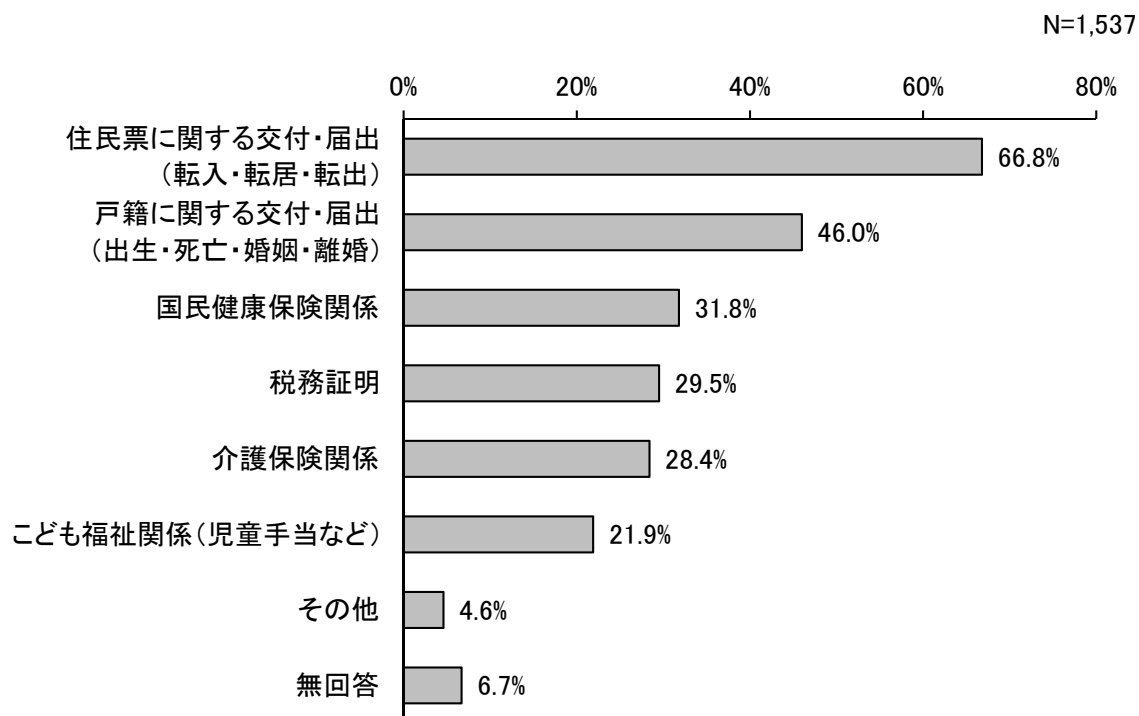
【年代別・居住形態別】

		満足している	ほぼ満足している	【満足していない 通信速度が遅い場合がある】	【満足していない 通信速度が安定しない・ 切断される場合がある】	【満足していない 利用料金が低い】	【満足していない 通信量の上限を超えると 通信速度が遅くなる】	【満足していない その他】	無回答
年代	18歳～29歳 N=182	30.8	30.8	22.5	19.8	11.0	3.8	0.5	2.7
	30歳代 N=192	26.6	27.6	22.9	18.2	16.7	8.9	1.0	5.2
	40歳代 N=287	16.4	38.0	18.5	17.1	24.0	7.0	1.4	5.2
	50歳代 N=269	18.6	33.5	21.2	13.8	21.9	8.6	1.5	10.4
	60歳代 N=303	12.2	30.7	20.1	11.6	22.1	6.9	4.0	22.4
	70歳以上 N=298	11.1	18.8	10.7	3.4	14.4	2.7	3.7	48.7
居住形態	持ち家 N=1,234	17.3	29.8	18.5	13.5	19.4	6.1	2.2	18.2
	借家 N=44	27.3	27.3	13.6	11.4	11.4	6.8	6.8	15.9
	賃貸アパート・ マンション N=207	20.3	33.3	20.3	11.6	18.4	7.7	1.0	13.0
	公営住宅 N=16	6.3	12.5	12.5	18.8	31.3	6.3	6.3	37.5
	社宅・寮 N=17	17.6	17.6	41.2	29.4	11.8	5.9	-	11.8
	その他 N=12	16.7	25.0	25.0	-	8.3	-	8.3	25.0

問 46 あなたは、オンライン申請※でどのような手続きが便利になることを望みますか。(3つまで○を付けてください)

※ オンライン申請とは、インターネットを利用して、申請・届出などの行政手続きをいつでも、どこからでも実現できるようにするものです。

オンライン申請で便利になることを望む手続きは「住民票に関する交付・届出(転入・転居・転出)」が66.8%



- 「住民票に関する交付・届出(転入・転居・転出)」が66.8%と最も高く、次いで「戸籍に関する交付・届出(出生・死亡・婚姻・離婚)」が46.0%、3番目に「国民健康保険関係」が31.8%となった。
- 性別でも、いずれも「住民票に関する交付・届出(転入・転居・転出)」が最も高く、次いで男性と女性では「戸籍に関する交付・届出(出生・死亡・婚姻・離婚)」となり、選べないでは「介護保険関係」となった。
- 年代別で見ると、70歳以上を除く年代で「住民票に関する交付・届出(転入・転居・転出)」が最も多い回答となった。70歳以上は「国民健康保険関係」が44.6%と最も高く、「介護保険関係」も41.3%と他の年代に比べて高い回答結果となった。
- オンライン申請で便利になることを望む手続きは、「住民票に関する交付・届出(転入・転居・転出)」や、「戸籍に関する交付・届出(出生・死亡・婚姻・離婚)」など、生活イベントに関する手続きが多く、これらの申請について時間や場所を問わず、最適な形で利用できるような調整を進め、市民生活の利便性の向上につなげていく必要がある。

【性別・年代別】

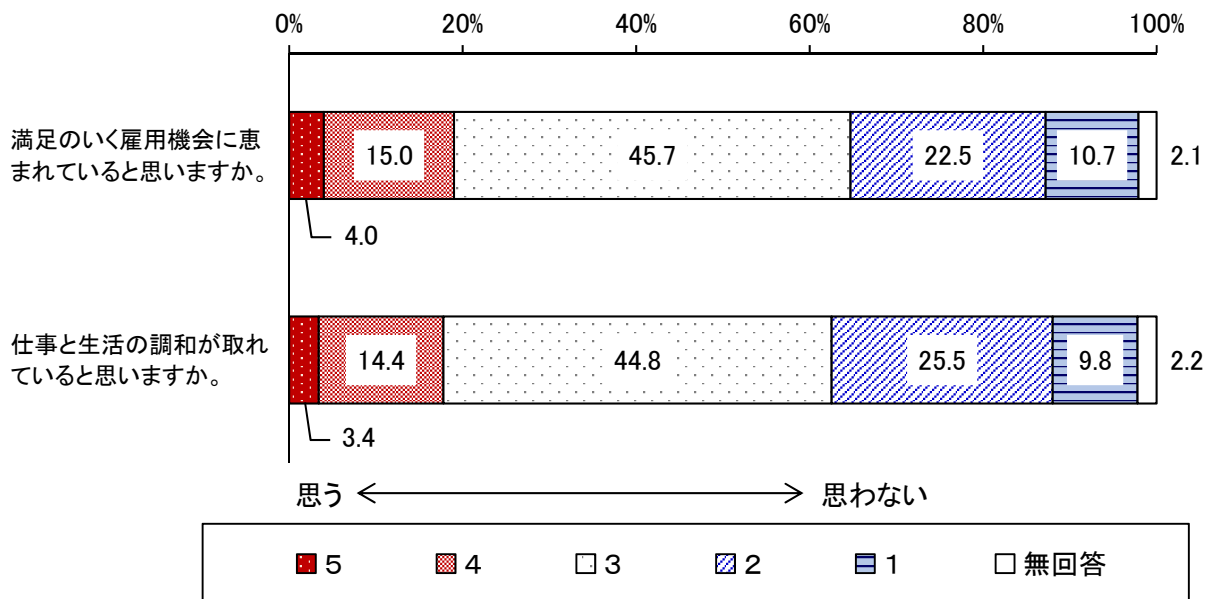
		住民票に関する交付・届出 (転入・転居・転出)	戸籍に関する交付・届出 (出生・死亡・婚姻・離婚)	国民健康保険関係	税務証明	介護保険関係	子ども福祉関係 (児童手当など)	その他	無回答
性別	男 N=647	69.4	47.3	30.8	32.5	22.3	19.6	5.6	6.2
	女 N=815	65.2	45.4	32.9	27.5	33.4	24.8	3.9	6.6
	選べない N=7	71.4	28.6	28.6	42.9	57.1	14.3	-	14.3
年代	18歳～29歳 N=182	84.1	45.6	30.2	31.9	12.6	29.1	1.1	1.6
	30歳代 N=192	79.7	53.6	28.1	25.0	13.0	50.0	3.1	3.1
	40歳代 N=287	72.8	45.6	23.0	34.1	15.3	41.5	4.5	3.1
	50歳代 N=269	70.3	45.0	25.7	32.0	35.7	13.0	5.6	4.5
	60歳代 N=303	62.4	48.2	36.3	34.0	40.3	5.6	5.6	7.9
	70歳以上 N=298	43.6	40.6	44.6	20.1	41.3	4.7	6.0	16.4

3 浜松市戦略計画 2020 について

問 47 あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

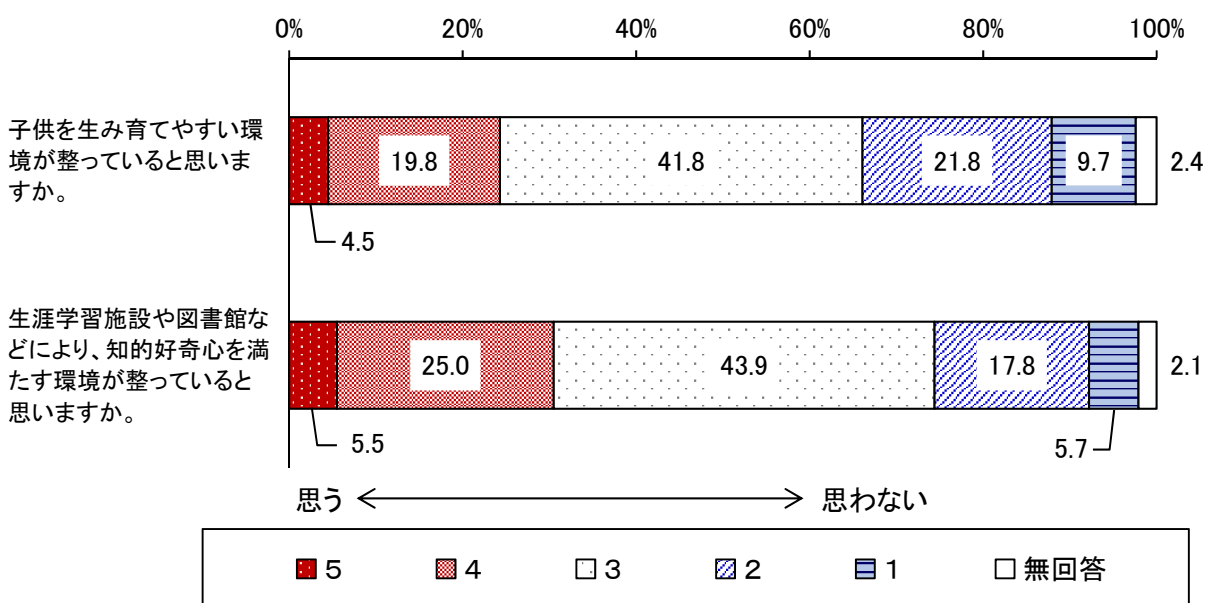
【若者がチャレンジできるまち】

N=1,537



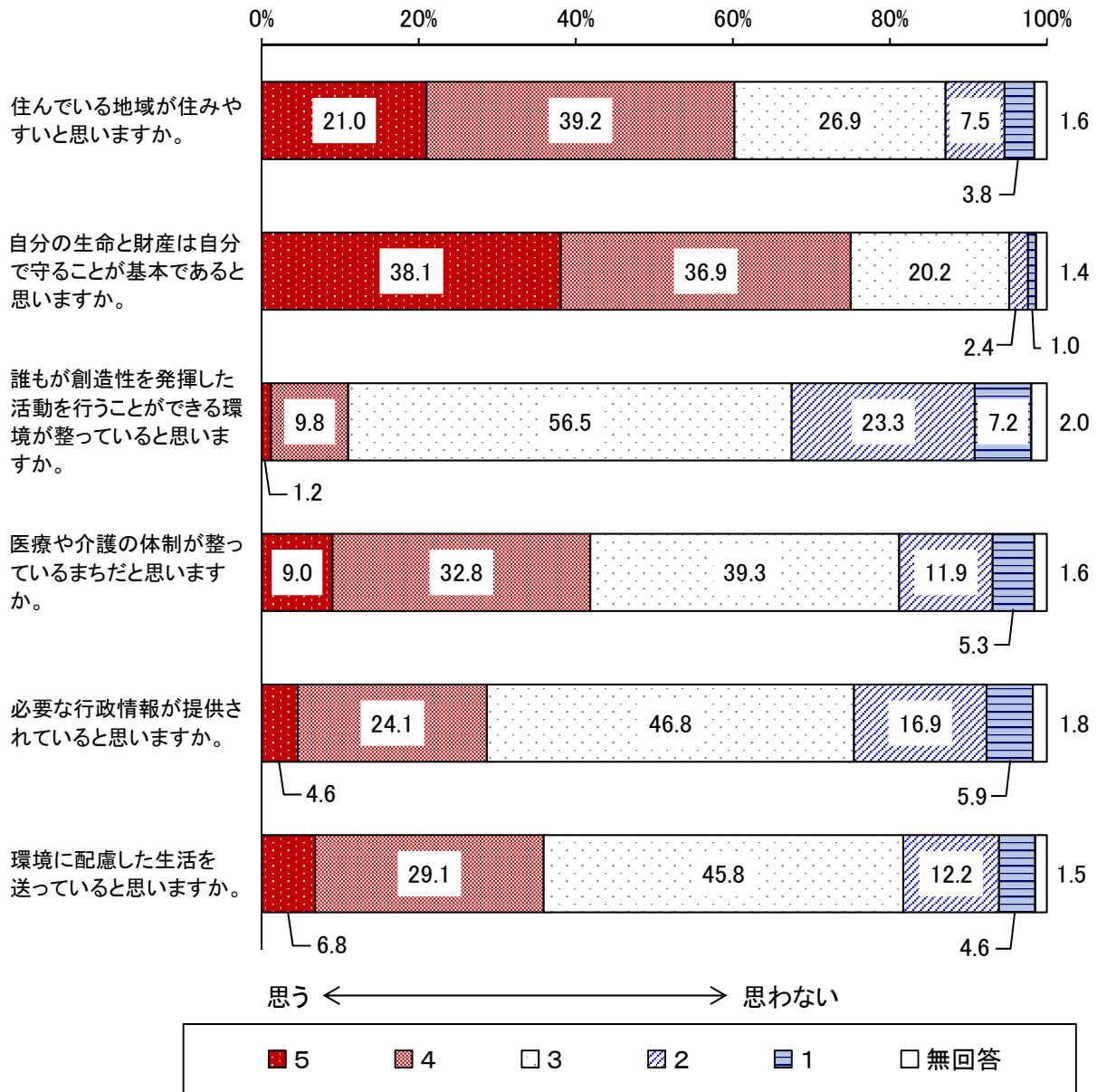
【子育て世代を全力で応援するまち】

N=1,537



【持続可能で創造性あふれるまち】

N=1,537



- 評価が「4」と「5」を合わせた『思う』の割合が最も高かった項目は、「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の75.0%だった。最も低かったのは「誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。」の11.0%だった。
- 令和元年度と比較すると、10項目中4項目が上昇となった。最も上昇したのは「医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。」の+3.1ポイントであった。一方で最も下降したのは「満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。」の▲5.6ポイントであった。いずれも新型コロナウイルス感染症の拡大との関連性が高い項目であり、影響が推察される結果となった。

【令和元年度調査との比較（プラス幅が大きい順）】

(単位:%)

	令和2年度 結果(A)	令和元年度 結果(B)	差 (A-B)
医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	41.8	38.7	3.1
子供を生き育てやすい環境が整っていると思いますか。	24.3	21.5	2.8
必要な行政情報が提供されていると思いますか。	28.7	26.8	1.9
住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	60.2	58.7	1.5
誰もが創造性を発揮した活動を行うことができる環境が整っていると思いますか。	11.0	11.9	▲ 0.9
生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	30.5	33.1	▲ 2.6
自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	75.0	78.3	▲ 3.3
仕事と生活の調和が取れていると思いますか。	17.8	22.7	▲ 4.9
環境に配慮した生活を送っていると思いますか。	35.9	41.4	▲ 5.5
満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	19.0	24.6	▲ 5.6

※A・Bの数値は「5」と「4」を合わせた『思う』の割合

【性別・年齢別・行政区別】

◎ = 6点以上 * = 4点以下 (単位: 点)

		若者がチャレンジできるまち		子育て世代を全力で応援するまち		持続可能で創造性あふれるまち					
		満足のいく雇用機会に恵まれているか。	仕事と生活の調和が取れているか。	子供を育てやすい環境が整っているか。	生涯学習施設や図書館などにより、好奇心を満たす環境が整っているか。	住んでいる地域が住みやすいか。	自分の生命と財産は自分で守ることができるか。	誰もが創造性を発揮した活動が行えるか。	誰もが創造性を発揮した活動を行えるか。	医療や介護の体制が整っているか。	必要な行政情報が提供されているか。
性別	男性	4.5	4.3	4.5	5.0	◎6.7	◎7.8	4.2	5.7	5.0	5.4
	女性	4.5	4.4	4.8	5.3	◎6.7	◎7.7	4.4	5.7	5.2	5.6
	選べない	*3.9	*3.9	*3.2	5.4	5.0	◎7.5	*3.6	4.6	*3.9	5.4
年齢別	10歳代	5.6	4.8	4.9	5.6	◎7.3	◎7.4	5.1	5.6	5.1	5.2
	20歳代	5.3	5.1	4.9	5.2	◎7.2	◎7.8	4.4	◎6.0	5.2	5.4
	30歳代	4.3	4.2	4.6	5.2	◎6.8	◎8.0	4.3	5.4	4.7	4.9
	40歳代	4.3	4.1	4.6	5.2	◎6.4	◎7.6	4.2	5.8	5.1	5.4
	50歳代	4.3	4.4	4.8	5.2	◎6.7	◎7.6	4.3	5.6	5.1	5.6
	60～64歳	4.4	4.2	4.3	4.9	◎6.4	◎7.7	4.2	5.3	4.8	5.4
	65～69歳	4.2	4.2	4.4	5.1	◎6.4	◎8.0	4.4	5.8	5.2	5.9
	70～74歳	4.5	4.5	5.0	5.2	◎6.6	◎7.7	4.6	5.9	5.3	5.9
	75歳以上	4.4	4.6	5.0	5.5	◎7.0	◎7.9	4.5	◎6.2	5.7	◎6.3
行政区別	中区	4.5	4.4	4.8	5.4	◎6.9	◎7.9	4.3	5.8	5.1	5.6
	東区	4.5	4.3	4.7	5.0	◎6.8	◎7.7	4.5	◎6.0	5.1	5.6
	西区	4.5	4.2	4.5	5.2	◎6.4	◎7.7	4.5	5.7	5.0	5.5
	南区	4.4	4.3	4.4	5.0	◎6.4	◎7.4	4.3	5.6	5.3	5.6
	北区	4.9	4.7	5.0	5.5	◎6.8	◎7.8	4.5	5.7	5.2	5.7
	浜北区	4.3	4.4	4.8	5.1	◎6.9	◎7.8	4.3	5.6	5.1	5.4
	天竜区	*3.3	*3.6	*3.6	4.1	4.9	◎8.0	*3.8	4.5	4.3	5.1

- 【性別・年齢別・行政区別】の表は、評価が「5」を10点、「4」を7.5点、「3」を5点、「2」を2.5点、「1」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど思う度合が高くなる指数である。
- 性別・年齢別・行政区別でみると、すべての属性で「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。」の指数が最も高い。

付録 調査票

令和2年度 市民アンケート調査 (第47回)

日ごろ、市政の推進につきましましては、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。
市民の皆さまには、新型コロナウイルス感染症の防止対策のため、3つの密を避ける『新しい生活様式』による感染予防に取り組んでいただいているところでございます。

現在本市の新型コロナウイルス感染症対策として、事業者が3密対策を促進するための支援や天竜材を使用した3密回避設備の導入支援、Pay Payと連携した中小店舗支援など、経済活動の回復に向けて取り組んでいるところであります。

さて、浜松市では、これまで市民の皆さまのお考えを伺うことで市政の充実に努めてまいりました。今後のまちづくりの基礎調査として市民アンケート調査を実施し、市民の皆さまの暮らしが豊かになるよう活用していきたいと考えております。

この調査を実施するにあたり、市内在住の満18歳以上の皆さまの中から無作為に3,000人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果につきましては、広報はまつや浜松市公式Webサイト（ホームページ）などで報告させていただきます予定です。

令和2年7月 浜松市長 鈴木 康友

～ あなたはご存じですか？ ～

問1 次の項目について、あなたはご存じですか。1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

① 市制記念日 ※浜松市では市制施行を記念して、7月1日を市制記念日として定めています。	1 知っている	2 知らない
② 浜松市歌 ※浜松市では、平成19年、新たに浜松市歌を制定しました。市歌について伺います。	1 知っている、歌うこともできる	2 知っているが、歌うことはできない
③ 協働センター ※平成24年4月から地域自治センターが、平成25年4月から公民館が、それぞれ「協働センター」となりました。協働センターは、市民に身近な行政サービス提供組織として、地域づくりや生涯学習、窓口サービスなどの業務を行っています。	1 名称や内容も知っている	2 名称は知っている
④ 新しい生活様式 ※新型コロナウイルスの基本的な感染対策として、身体的距離の確保やマスクの着用、手洗いなどの新しい生活様式の実践例が示されています。	1 名称や内容も知っている	2 名称は知っている

～SDGsの達成に向けて～ (SDGs:Sustainable Development Goals)



SDGs(エスディーゼーズ)とは、平成27年に開催された国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標」のことで、17の目標があります。貧困や飢餓、経済成長、気候変動など、21世紀の世界が抱える問題を、世界中の人々、企業などが連携して解決することを目指しています。
本市は、国より、SDGsの達成に向けて先進的な取り組みを行っている自治体として「SDGs未来都市」に選ばれ、再生可能エネルギー、林業や多文化共生など、SDGsの達成に向けた取り組みを行っています。

※本アンケートの各設問に、関連するSDGsのアイコンを表示しています。

問2 あなたは「SDGs」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている 2. 名称だけは知っている 3. 名称も内容も知らない

＜ご回答についてのお願い＞

1. **封書**のあて名の方が、ご回答くださいますようお願いいたします。
2. ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、**○で囲んでください。**
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。
3. この調査結果は、上記目的以外に使用することではなく、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。
4. **8月31日(月)まで**にこの用紙を同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。
5. ご不明な点は、**広報広聴課 市民コールセンターグループ電話 (053) 457-2023** へお問い合わせください。

《再生可能エネルギーについて》



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
関連事業：太陽光発電の導入ほか

浜松市では、エネルギー・スマートシティの実現に向け、市民や事業者の皆さまと一体となった再生可能エネルギー（RE：renewable energy）の導入拡大などにより、令和32年までに「二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指す「浜松市域“RE100”」に向けた取り組みを推進しています。

問3 あなたは「再生可能エネルギー」について関心がありますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 関心がある 2. 関心がない 3. どちらともいえない

※再生可能エネルギーとは、石油などの化石エネルギーではなく、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスなど非化石エネルギー由来のエネルギーのことです。

問4 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用することについて関心がありますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 関心がある 2. 関心がない 3. どちらともいえない

問5 問4について、「再生可能エネルギー」から作られた電気や熱を使用するにあたっての判断材料となるものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 環境にやさしいエネルギーであること 2. 光熱費が安く抑えられること
3. 再生可能エネルギーで使用する電力や熱をすべて賄えること
4. 災害時においても使用できること 5. わからない

問6 あなたのご家庭では、「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用、ペレットストーブ、薪ストーブなど）を既に導入していますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 太陽光発電設備を導入している
2. 太陽熱利用設備を導入している
3. ペレットストーブまたは薪ストーブを導入している
4. その他の設備を導入している
5. いずれも導入していないが導入したいと考えている
6. いずれも導入していないし、導入する考えもない

問7 「再生可能エネルギー」の活用機器（太陽光発電、太陽熱利用、ペレットストーブ、薪ストーブなど）の導入を進めるには、どのような環境が必要だと考えますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 機器の価格低下 2. エネルギーを作り出す機器の性能向上
3. 匂いや煙の低減などの性能向上 4. 機器のメンテナンスサービスの向上
5. 設置スペースの確保 6. ペレットや薪などの燃料の入手しやすさ
7. わからない

《FSC森林認証について》



15 陸の豊かさも守ろう
関連事業：FSC森林認証の推進ほか

浜松市では、国際的な認証制度であるFSC森林認証に基づく持続可能かつ適切な森林経営と、天竜材・天竜材製品の流通・販路拡大に取り組んでいます。

問8 あなたは「FSC森林認証」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている 2. 名称だけは知っている 3. 名称も内容も知らない

※「FSC森林認証」とは森林が適切に管理されているかを、世界基準に沿って審査、認証する仕組みです。

問9 あなたは「FSC森林認証」の森林を、浜松市が市町村別で最も広い面積（約48,541ha（令和2年4月1日現在））を有していることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 知っている 2. 知らない

問10 あなたは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関連施設（有明体操競技場、選手村ビレッジプラザなど）に、浜松市の「FSC森林認証」の森林から生産された木材が使用されていることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 知っている 2. 知らない

《多文化共生について》



4 質の高い教育をみんなに
17 パートナリシップで目標を達成しよう
関連事業：国際交流連携推進事業

浜松市には令和2年4月1日時点で25,000人を超える外国人が住んでいます。こうした中で、浜松市は多様性を生かした社会を築くための取り組みを推進するとともに、国際的な繋がりを通して都市の魅力を高める取り組みを推進しています。

問11 あなたは、浜松市が行っている多文化共生施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 外国人の子供の教育支援 2. 日本語の習得支援
3. 生活・行政情報の多言語による提供 4. 防災訓練などの地域社会への参画促進
5. 多文化共生に関する啓発や教育、理解促進 6. 交流・異文化体験の機会拡大
7. 生活ルールの順守と社会的義務の遂行

問12 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりに向けた浜松市の取り組みについてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらでもない 4. どちらかといえば不満 5. 不満

問13 外国人材の受入拡大の動きが全国的に進む中、共生社会を築くため、浜松市では外国人が生活言語である日本語を話せるよう日本語習得を促進していますが、日本語学習支援体制の一層の充実が必要だと思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 必要だと思う 2. 必要だと思わない 3. どちらでもない

問14 あなたは、浜松市が行っている国際化推進施策のうち、最も力を入れるべき取り組みはどれだと考えますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 国際的なネットワークへの参加など海外諸都市との連携 2. 国際協力・国際貢献
3. 市内企業の海外進出・販路開拓支援 4. 海外からの観光インバウンドの推進
5. 国際的な音楽・文化イベントの開催 6. 国際的な市民交流の支援

問15 姉妹都市などの世界の人々との活発な市民交流に向けた浜松市の取り組みについてどのように感じていますか。例えば、公益財団法人浜松国際交流協会を通じて、国際交流や多文化共生に取り組む市民活動への助成を行っています。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらでもない 4. どちらかといえば不満 5. 不満

《ユニバーサルデザイン・男女共同参画について》



3すべての人に健康と福祉を
4質の高い教育をみんなに
5ジェンダー平等を実現しよう

関連事業：ユニバーサルデザイン推進事業、男女共同参画推進事業ほか

浜松市では、誰もが安全、安心で快適に暮らすことができる「思いやりの心が結び優いまち」の実現を目指し、ユニバーサルデザインや男女共同参画社会の推進に取り組んでいます。

問16 あなたは「ユニバーサルデザイン®」を知っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている 2. 名称だけは知っている 3. 名称も内容も知らない

※ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適に暮らしてできるように「人づくり」や「ものづくり」、「環境づくり」を行っていることとする考え方のことです。

問17 あなたは浜松市のユニバーサルデザインによるまちづくりについてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらでもない 4. どちらかといえば不満 5. 不満

問18 あなたは浜松市の男女共同参画社会®の実現に向けた取り組みについてどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらでもない 4. どちらかといえば不満 5. 不満

※男女共同参画社会とは、男女が共に、対等の立場で、自らの意志によって社会のあらゆる分野に参画できる社会のことです。

《ブラジルホストタウンの取り組みについて》



17パートナーシップで目標を達成しよう

関連事業：ブラジルホストタウン交流事業

浜松市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるブラジルのホストタウンに登録されており、ブラジル選手団による事前合宿に向け準備を進めているところです。

問25 あなたは、浜松市が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるブラジルのホストタウンとして、ブラジル選手団の事前合宿を受け入れることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 知っている 2. 知らない

問26 ブラジル選手団の事前合宿に関して、浜松市に期待することは何ですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 練習の一般公開
2. 選手団との交流(練習・イベントなど)
3. 選手団が集中して練習を行うことができる環境の提供
4. 特に期待することはない
5. その他(具体的に:)

問27 ブラジル選手団の事前合宿をサポートする市民ボランティア「トルシーダ・ブラジル」をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 知っている 2. 知らない

問28 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会終了後のレガシー(遺産)として、期待することは何ですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. ブラジルのスポーツ選手との交流継続 2. パラスポーツ(障害者スポーツ)の普及
3. 多文化共生社会の進展 4. 外国人来訪者の増加
5. 浜松市のシティプロモーション(イメージや認知度の向上)
6. 特に期待することはない 7. その他(具体的に:)

《人権について》



10人や国の不平等をなくそう

関連事業：人権啓発事業ほか

人権は「誰もが幸せに生きていく権利」で身近で大切なものです。浜松市では、お互いの人権が尊重された「思いやりあふれる社会の実現」に向けた取り組みを進めています。

問29 あなたは、人権は重要なことだと思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 思う 2. ときどき思う 3. あまり思わない 4. 思わない 5. わからない

問30 あなたの周りでは、お互いの人権を守りながら生活できていると感じますか?

(1つだけ○を付けてください)

1. 思う 2. ときどき思う 3. あまり思わない 4. 思わない 5. わからない

《文化振興について》



4質の高い教育をみんなに
関連事業：市民音楽文化振興事業ほか

浜松市では、「文化で市民の幸せを創り出す都市」を目標に定め、誰もが気軽に多様な文化を楽しむことができ、暮らしの豊かさや都市の活力につながるまちづくりを推進しています。

問19 あなたは、過去1年間にどのような文化芸術に取り組まれましたか。鑑賞などサービスの受け手として楽しんだものを含みます。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 文学 2. 音楽 3. 美術 4. 写真 5. 演劇 6. 舞踊
7. 民俗芸能 8. 茶道 9. 華道 10. 書道 11. 工芸 12. メディア芸術
13. 歴史 14. 特に取り組んでいない 15. その他(具体的に:)

問20 あなたは、問19で回答した文化芸術についてどのくらいの頻度で取り組んでいますか。

(問19で選んだもののうち最も力を入れているものに関して1つだけ○を付けてください)

1. 毎日 2. 週4日以上 3. 週1日以上
4. 月に2~3日程度 5. 年に数日程度 6. その他(具体的に:)

問21 あなたは音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の浜松市の取り組みについて、どのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらでもない 4. どちらかといえば不満 5. 不満

《スポーツの推進について》



3すべての人に健康と福祉を

関連事業：スポーツの普及・活性化事業ほか

浜松市では、「スポーツ文化都市 浜松」の実現を目指し、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」のそれぞれに目標を設定して、スポーツの推進に取り組んでいます。

問22 あなたは、過去1年間にスポーツ活動の支援をどの程度行いましたか。スポーツイベントや各種競技の大会におけるボランティア活動のほか、スポーツ少年団や小・中学校、高校、大学の部活動、総合型地域スポーツクラブ、地域のスポーツ活動などのお手伝いや運営、指導など、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

1. ほぼ毎日、支援活動を行った 2. 月に数回のペースで支援活動を行った
3. 年に1回は支援活動を行った 4. 全く支援活動を行わなかった

問23 あなたは、過去1年間でスポーツ(運動)をどの程度行いましたか。身体を動かすことを目的としたもの(ウォーキングや階段昇り降りなど)から本格的な競技スポーツまで、あらゆる運動を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

1. ほぼ毎日 2. 週3回以上 3. 週1回以上
4. 月に1~2回程度 5. 年に数回程度 6. スポーツ(運動)をしない

問24 あなたは、過去1年間で実際に会場に向かいスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。プロスポーツだけでなく、地域のスポーツ活動や少年団などの観戦・応援を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

1. ほぼ毎日 2. 月に数回程度 3. 月に1回程度
4. 年に数回程度 5. 年に1回程度 6. スポーツ観戦・応援をしない

問31 浜松市ではさまざまな人権に関する、講座や研修会を実施しています。あなたは、どのような人権について知りたいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 女性の人権 2. 子供の人権
3. 高齢者の人権 4. 障がいのある人の人権
5. 同和問題(部落差別) 6. 外国人の人権
7. 刑を終えて出所した人の人権 8. 性的マイノリティの人権
9. その他(具体的に:)

《生物多様性について》



15陸の豊かさも守ろう

関連事業：生物多様性保全事業ほか

浜松市では、生物多様性保全を推進するため、3つの重点プロジェクト「市民が自ら調べるまち」「市民が自ら守るまち」「市民・事業者・行政がつながるまち」に取り組んでいます。

問32 あなたは「生物多様性®」についてご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている 2. 名称だけは知っている 3. 名称も内容も知らない

※生物多様性とは、生き物の豊かな個性とつながりのことです。すべての生き物には違い(「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」)があり、互いにつながり合い、支え合って生きています。

問33 あなたは、市内でタイワンリスやアライグマなど外来生物®による被害があることをご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 知っている 2. 外来生物がいることは知っているが、被害があることは知らない
3. 外来生物がいることも知らない

※外来生物とは、国外から人為的に移入された、本来その地域にいなかった生物のことです。

問34 浜松市では、生態系に影響を及ぼすタイワンリスやアライグマなどの外来生物の駆除に取り組んでいます。あなたは、外来生物を駆除することについて、どのように考えますか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 駆除すべき 2. 駆除する必要は無い 3. わからない

《消費生活について》



12つくる責任 つかう責任

関連事業：エシカル消費(フェアトレードなど)の普及・啓発ほか

浜松市では、私たちの消費行動が、現在及びこれからの社会・経済や環境に影響を及ぼすことを自覚して、よりよい社会にしようとする「消費者市民社会」の形成に取り組んでいます。

問35 あなたは、「エシカル消費®」という言葉をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

1. 名称や内容も知っている 2. 名称だけは知っている 3. 名称も内容も知らない

※エシカルとは、倫理的という意味です。また、人や社会、地域、環境に配慮した製品やサービスを選んで消費することを「エシカル消費」といいます。

問36 浜松市は、平成 29 年 11 月に全国で4番目のフェアトレードタウン*になりましたが、ご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

※フェアトレードタウンとは、市民団体や商店・企業・行政などが連携し、「まちぐるみ」でフェアトレード*の輪を広げていく自治体のことです。

※フェアトレードとは、発展途上国で作られた作物や製品を「適正な価格」で「継続的に取引」することによって、立場の弱い発展途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。

問37 あなたは、フェアトレード商品を買ったことがありますか。(1つだけ○を付けてください)

1. ある	2. フェアトレードは知っているが、買ったことはない	3. ない
-------	----------------------------	-------

《防災対策について》



11住み続けられるまちづくりを
関連事業：防災計画等整備事業ほか

浜松市は、災害情報伝達手段の整備やインフラの耐震化などの対策を進めるとともに、防災学習センターなどの活用による防災教育の充実や家具固定の普及啓発など、ハード・ソフトの両面から自然災害に強い強靱な都市づくりを推進しています。

問38 浜松市が行っている防災対策のうち、あなたがご存じのものを**お選びください**。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 避難所に避難する人の1日分の食糧備蓄を行っていること	2. 津波・水害のハザードマップの公開
3. 土砂災害危険箇所の周知	4. 住宅の無料耐震診断や耐震補強工事へ補助金を出していること
5. 家具固定の普及啓発や高齢者世帯への固定器具取付作業代の補助金を出していること	6. 携帯電話、スマートフォンなどを使って、防災情報を提供していること
7. 橋の耐震対策を行っていること	8. 市民を対象にした防災講座や防災イベントを行っていること
9. その他(具体的に:)	10. どれも知らない

問39 あなたが災害情報などの危機管理に関する情報を得る手段を教えてください。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. テレビ	2. ラジオ	3. 防災行政無線(屋外スピーカー、戸別受信機)
4. 携帯電話	5. スマートフォン、タブレット	6. パソコン

問40 あなたが外出時に持ち歩く情報受信端末はどれですか。(主なものに1つだけ○を付けてください)

1. スマートフォン	2. スマートフォン以外の携帯電話、PHS
3. パソコン・タブレット	4. 携帯ラジオ
5. その他(具体的に:)	6. 持っていない

《デジタル・ファースト宣言について》



9産業と技術革新の基礎をつくらう
11住み続けられるまちづくりを

関連事業：デジタル・スマートシティ推進事業ほか

浜松市では、昨年10月に「デジタルファースト宣言」を行いました。都市づくり、市民サービス、自治体運営にデータや先端技術を活用し、持続可能な都市づくりを進めていきます。

問41 あなたは、「デジタルファースト宣言」したことをご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

1. 宣言したことや内容も知っている	2. 宣言したことは知っている	3. 知らない
--------------------	-----------------	---------

問42 あなたは、どのような分野で先端技術の活用が進み、利便性や生産性が向上することを期待していますか。(3つまで○を付けてください)

1. 健康・医療・福祉	2. 防災・安全	3. 教育・子育て
4. 交通	5. 観光・商業	6. エネルギー・環境・ごみ
7. 農林業	8. 産業(ものづくり)	9. 文化・スポーツ・生涯学習
10. 市役所の各種手続き	11. その他(具体的に:)	

問43 あなたは、過去1年間において、ご自宅でインターネット(電子メールの送受信、情報の検索、SNS[ソーシャルネットワーキングサービス]の利用、ホームページの閲覧、オンラインショッピングなど)を利用したことがありますか。(1つだけ○を付けてください)

1. 利用している	2. 利用していない ⇒ 問46へ
-----------	-------------------

問44 あなたのご自宅ではどのような回線でインターネットに接続していますか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 光回線(Wi-Fiでの使用を含む)	2. ケーブルテレビ回線
3. 電話回線(ADSL、ISDN)	
4. 携帯電話(LTE)回線(スマートフォン、モバイルWi-Fiルーターなど)	
5. 不明・わからない	

問45 あなたは、ご自宅利用しているインターネット環境に満足していますか。不満があればその理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 満足している	2. ほぼ満足している
3. 満足していない【通信速度が遅い場合がある(ダウンロードや動画再生など)】	4. 満足していない【通信速度が安定しない・切断される場合がある】
5. 満足していない【利用料が高い】	6. 満足していない【通信量の上限を超えると通信速度が遅くなる】
7. 満足していない()	

問46 あなたは、オンライン申請*でどのような手続きが便利になることを望みますか。(3つまで○を付けてください)

1. 住民票に関する交付・届出(転入・転居・転出)	2. 戸籍に関する交付・届出(出生・死亡・婚姻・離婚)
3. 税務証明	4. こども福祉関係(児童手当など)
5. 国民健康保険関係	6. 介護保険関係
7. その他(具体的に:)	

※オンライン申請とは、インターネットを利用して、申請・届出などの行政手続をいつでも、どこからでも実現できるようにするものです。

～浜松市戦略計画 2020 について～

浜松市では今年度の基本目標として「若者がチャレンジできるまち」「子育て世代を全力で応援するまち」「持続可能で創造性あふれるまち」の3つを掲げ、達成に向けて取り組みを進めています。そこで、この3つの基本目標を中心とした市民の皆さまの市政に関する現状認識を伺います。

問47 あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ**選び**○を付けてください。

項 目	選 択 肢					
	思 う	←	→	思 わ な い		
若者がチャレンジできるまち	満足いく雇用機会に恵まれていると思いますか。	5	4	3	2	1
	仕事と生活の調和*が取れていると思いますか。 ※仕事と家事・育児・介護などと両立すること	5	4	3	2	1
子育て世代を全力で応援するまち	子供を生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	5	4	3	2	1
	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	5	4	3	2	1
持続可能で創造性あふれるまち	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	5	4	3	2	1
	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	5	4	3	2	1
	誰もが創造性を発揮した活動*を行うことができる環境が整っていると思いますか。 ※固有の文化や産業などの地域資源を生かし、新たな価値やまちの魅力を生み出していく活動	5	4	3	2	1
	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	5	4	3	2	1
	必要な行政情報*が提供されていると思いますか。 ※各種申請手続き、イベント、事業、予算など浜松市からの情報	5	4	3	2	1
	環境に配慮*した生活を送っていると思いますか。 ※ごみの減量、リサイクルの推進、消費する電力の削減など	5	4	3	2	1

最後にあなたのことについて記入してください(項目別に1つだけ○を付けてください)

性別	1. 男	2. 女	3. 選べない
年齢	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代
	4. 40歳代	5. 50歳代	6. 60~64歳
	7. 65~69歳	8. 70~74歳	9. 75歳以上
国籍	1. 日本	2. ブラジル	3. 中国
	4. フィリピン	5. その他()	
職業	1. 勤め人	2. 商工・サービス・自由業(自営・家族従事者)	
	3. 農林水産業(自営・家族従事者)		
	4. 専業主婦(主夫)	5. 学生	
	6. 無職	7. その他()	
	あなたは浜松市(合併前の旧市町村当時からも含まず)に住んで何年になりますか		
	1. 3年未満	2. 3年以上5年未満	3. 5年以上10年未満
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか		
	1. 1人	2. 2人	3. 3人
	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上
居住形態	あなたのお住まいは		
	1. 持ち家	2. 借家	3. 賃貸アパート・マンション
	4. 公営住宅	5. 社宅・寮	6. その他
	あなたがお住まいの行政区は		
行政区	1. 中区	2. 東区	3. 西区
	4. 南区	5. 北区	6. 浜北区
	7. 天竜区		
	行政区が分からない場合は、町名をご記入ください → ()		

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、**8月31日(月)まで**にご投函ください。



令和2年度 市民アンケート調査報告書

令和2年12月発行

浜松市企画調整部広聴広報課

〒430-8652 浜松市中区元城町103番地の2

電話 (053) 457-2023 FAX (053) 457-2028

e-mail koe-g@city.hamamatsu.shizuoka.jp

URL <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>
